

ほ　だい　じ　ど　い　や　し　き
母代寺土居屋敷遺跡

—野市町立佐古小学校グラウンド拡張整備事業に伴う発掘調査報告書—

2010.3

香南市教育委員会

ほ　だい　じ　　び　　い　　や　し　き

母代寺土居屋敷遺跡

—野市町立佐古小学校グラウンド拡張整備事業に伴う発掘調査報告書—

2010.3

香南市教育委員会



SE1 遺物出土狀況



SE1 出土土師器 小皿・椀・坏



118

SE1



61

109

SS1 (SK7上面)

SE1



125

521

SK7

SE1 東 包含層

布目瓦（軒平瓦・軒丸瓦）

序

香南市は、平成18年3月に、赤岡町・香我美町・野市町・夜須町・吉川村の5町村が手をつなぎ合併したまちです。青い空・碧い海・深い緑、そして実り豊かな大地と温暖な気候風土の恩恵を受け、早くから先人達が歴史を創ってきた地域です。

遺跡は大地に刻み込まれた歴史そのものであり、私たちの祖先の偽らざる営みを今日に伝えるかけがえのない遺産です。平成21年4月に開設しました香南市文化財センターでは、遺跡の発掘調査や整理作業を行うとともに、市内で発掘した数多くの土器等の遺物を展示し一般に公開しております。広く市内外の方々に香南市の歴史や文化に触ることにより感心を持っていただき、大切な遺産である埋蔵文化財を後世に伝えていく重要な施設であると考えております。

この母代寺土居屋敷遺跡のある野市町は、香南市で最も遺跡が集中した地域であり、県都である高知市のベッドタウンとして宅地開発が進み、合併以前から盛んに発掘調査が行われてきました。

本遺跡は、平安時代の終わりから鎌倉時代前半を中心とした屋敷跡であり、中でも鎌倉時代の井戸から出土した土師器や布目瓦などの一括遺物は、井戸廃絶に伴う祭祀に関する資料として注目されています。

本書は、香南市の歴史を広く知っていただくとともに、埋蔵文化財に対する一層のご理解をいただきますことを願って刊行するものです。文化財保護の資料として広く活用されれば幸いです。

最後になりましたが、高知県教育委員会、高知県埋蔵文化財センターをはじめ多数の方々のご協力をいただいたことに心からお礼申し上げます。

平成22年3月

高知県香南市教育委員会

教育長 島 崎 隆 弘

例　　言

1. 本書は、野市町（現香南市）教育委員会が平成12年度に実施した野市町立佐古小学校グラウンド拡張整備事業に伴う母代寺土居屋敷遺跡の緊急発掘調査報告書である。
2. 母代寺土居屋敷遺跡は、高知県香南市野市町母代寺88番地他に所在する。
3. 試掘調査は平成12年11月13日から12月27日にかけて実施し、本発掘調査は平成13年1月9日から4月9日にかけて実施した。
4. 調査対象面積　　5,700m²
試掘調査面積　　520m²
本発掘調査面積　3,000m²
5. 試掘調査・本発掘調査時（平成12年度）の調査体制は以下のとおりである。

事務担当	吉永 次雄（野市町教育委員会 学校教育課	主事）
調査員	更谷 大介（生涯学習課 埋蔵文化財調査員）	
調査員補助	西山 延幸（生涯学習課	臨時）
	岩河 邦明	
6. 母代寺土居屋敷遺跡の整理作業及び報告書作成作業は平成20年度まで更谷大介（香南市教育委員会生涯学習課嘱託）および溝潤真紀（同）が担当、遺物の観察や点検作業については出原恵三・下村裕（高知県埋蔵文化財センター）、松田直則（高知県教育委員会文化財課埋蔵文化財チーフ）の協力を得た。平成21年度の報告書作成作業は、松村信博（香南市文化財センター主任調査員）と宮地啓介（香南市文化財センター嘱託）が20年度までの成果を引き継ぎ、分担して行った。
7. 報告書刊行時（平成21年度）の香南市教育委員会生涯学習課文化振興保護係の体制は以下のとおりである。

課長	吉田 豊	嘱託職員	宮地 啓介
係長	山本 八也	臨時職員	小松 純子
主任調査員	松村 信博	タ	宮本 幸子
主監	竹中 ちか	タ	水田 紀子
主幹	伊野 広高	タ	福島 貢代子
8. 本書の編集は松村が行った。執筆分担は以下の通りである。第Ⅰ～Ⅲ章・V章（松村）、第Ⅳ章・VI章（宮地）。なお第Ⅱ章および第Ⅲ章遺物観察表については更谷大介の原稿を基本とし、松村・宮地が加筆修正を加えている。
9. 発掘現場作業員は下記の方々である。精力的に作業に従事された方々に対し、記して敬意を表す。（敬称略）
貞岡重道・佐野宣重・櫻尾俊喜・河村みさ子・新宅広子・佐合祥子
9. 重機による表土剥ぎ、排土運搬、埋め戻しについては清藤勝秀氏の便宜、助力を得た。

10. 遺物整理、報告書作成においては下記の方々の協力を得た。記して感謝の意を表したい。(敬称略)
小松経子・宮本幸子・水田紀子・福島賀代子・佐々木志穂・宮地佐枝
11. 下記の方々には現地での調査、報告書作成過程を通じて貴重なご助言・ご教示をいただいた。
記して感謝する次第である。(敬称略・所属は2009年度)
出原恵三・吉成承三・池澤俊幸・下村裕(以上高知県埋蔵文化財センター)・松田直則(高知県教育委員会文化財課)・浜田恵子(高知市教育委員会)
また、出土木製品についての樹種鑑定及び保存処理を(株)吉田生物研究所に依頼した。
12. 出土遺物、写真その他図面類の関係資料は香南市文化財センター(香南市香我美町山北1553-1)で保管している。

本文目次

第Ⅰ章 調査の経緯及び方法

第1節 調査の経緯.....	1
第2節 試掘調査.....	2
第3節 調査の経過.....	5
第4節 調査の方法.....	6

第Ⅱ章 遺跡周辺の地理的歴史的環境

第1節 地理的環境.....	9
第2節 歴史的環境.....	12
第3節 母代寺土居屋敷遺跡と周辺の遺跡.....	14

第Ⅲ章 調査の成果

第1節 I区.....	15
1. 基本層序.....	16
2. 遺構と遺物.....	18
(1) 集石遺構 (SS)	19
(2) 井戸 (SE)	22
(3) 土坑 (SK)	32
(4) 溝 (SD)	47
(5) 掘立柱建物 (SB)・構列 (SA)・柱穴等 (P)	53
(6) 下層の遺構・土取り跡.....	61
(7) 下層の遺構・自然流路 (SR)	63
(8) 包含層出土遺物.....	66

第2節 II区

1. 基本層序.....	81
2. 遺構と遺物.....	82
(1) 溝 (SD)	82
(2) 包含層出土遺物.....	85

第Ⅳ章 考察

母代寺土居屋敷遺跡出土の貿易陶磁器 (宮地)	107
------------------------------	-----

第Ⅴ章 まとめ

母代寺土居屋敷遺跡の性格.....	117
-------------------	-----

第VI章 付編 自然科学分析

香南市野市町母代寺土居屋敷出土木製品の樹種調査結果－㈱吉田生物研究所－	127
---	-----

挿図目次

第1図	香南市及び母代寺土居屋敷遺跡位置図	1
第2図	試掘トレント位置図	2
第3図	試掘トレントセクション図及び平面図 (S=1/80)	3
第4図	調査区位置図	6
第5図	I・II区全体図と設定した4mグリッド (S=1/300)	7
第6図	母代寺土居屋敷遺跡周辺の地形と小字名 (S=1/5,000)	8
第7図	母代寺土居屋敷遺跡と高知平野東半の遺跡 (S=1/50,000)	11
第8図	母代寺土居屋敷遺跡と周辺の遺跡 (S=1/10,000)	14
第9-1図	I区上段北壁セクション図 (S=1/40)	16
第9-2図	I区下段東壁セクション図 (S=1/80)	17
第10図	I区全体図・遺構配置図 (S=1/250)	18
第11図	集石遺構 (SS1) 遺物出土状況・平面・エレベーション図 (S=1/50)	19
第12図	集石遺構 (SS1) 出土遺物実測図1 (S=1/4)	20
第13図	集石遺構 (SS1) 出土遺物実測図2 (S=1/4)	21
第14図	SE1 検出面及び1面目遺物出土状況 (S=1/20)・出土遺物実測図 (S=1/4)	23
第15図	SE1 2面目遺物出土状況 (S=1/20)・出土遺物実測図1 (S=1/4)・土師器・瓦器	24
第16図	SE1 2面目出土遺物実測図2 (S=1/4)・須恵器	25
第17図	SE1 2面目出土遺物実測図3 (S=1/4)・瓦類1	26
第18図	SE1 2面目出土遺物実測図4 (S=1/4)・瓦類2	27
第19図	SE1 2面目出土遺物実測図5 (S=1/4)・瓦類3	28
第20図	SE1 瓦出土状況・平面・エレベーション図 及び 井戸枠 平面・側面図 (S=1/20)	29
第21図	SE1 完掘 平面・エレベーション図 (S=1/20)	30
第22図	SE1 下層確認セクション図及び周辺遺構平面図 (S=1/40) 掘出出土遺物実測図 (S=1/4)	30
第23図	SE1 出土遺物 (井戸枠-隅柱) 実測図 (S=1/6)	31
第24図	SE1 出土遺物 (井戸枠-横棟及び杭) 実測図 (S=1/6)	32
第25図	SK1~6平面・エレベーション図 (S=1/40) SK2・3出土遺物実測図 (S=1/4)	35
第26図	SK7 遺物出土状況・平面・エレベーション図 (S=1/20) 出土遺物実測図1 (S=1/4)	37

第27図	SK7 完掘状況・平面・エレベーション図 (S=1/20) 出土遺物実測図2 (S=1/4)	38
第28図	SK7 出土遺物実測図3 (S=1/4)	39
第29図	SK8・9 平面・エレベーション図 (S=1/40) SK9出土遺物実測図 (S=1/4)	40
第30図	SK10~13 平面・エレベーション図 (S=1/40) SK12・13出土遺物実測図 (S=1/4)	41
第31図	SK14・15 平面・エレベーション図 (S=1/40) SK14出土遺物実測図 (S=1/4)	42
第32図	SK16 1面目遺物出土状況 平面・エレベーション図 (S=1/20) 出土遺物実測図1 (S=1/4)	43
第33図	SK16 2面目遺物出土状況 平面・エレベーション図 (S=1/20) 出土遺物実測図2 (S=1/4)	44
第34図	SK16 完掘状況 平面・エレベーション図 (S=1/20) 出土遺物実測図3 (S=1/4)	45
第35図	SK16 出土遺物実測図4 (S=1/4)	46
第36図	SK17 平面・エレベーション図 (S=1/40)	47
第37図	SD1~4 平面・エレベーション図 (S=1/40) SD2・4出土遺物実測図 (S=1/4)	49
第38図	SD5~9 平面・エレベーション図 (S=1/40) SD5出土遺物実測図 (S=1/4)	51
第39図	SD10~13 平面・エレベーション図 (S=1/40) SD10・13出土遺物実測図 (S=1/4)	52
第40図	SB1 平面・エレベーション図 (S=1/100)	53
第41図	SB1 出土遺物実測図 (S=1/4)	53
第42図	SB2~4 平面・エレベーション図 (S=1/100)	54
第43図	SB5~7 平面・エレベーション図 (S=1/100)	55
第44図	SB7 出土遺物実測図 (S=1/4)	56
第45図	SB8・SA1 平面・エレベーション図 (S=1/100)	56
第46図	I 区上段遺構と遺構(ピット)配置図 (S=1/160)	57
第47図	I 区下段北半部遺構と遺構(ピット)配置図 (S=1/160)	58
第48図	I 区下段南半部遺構と遺構(ピット)配置図 (S=1/160)	59
第49図	ピット出土遺物実測図 (S=1/4)	60
第50図	I 区下層遺構位置図 (S=1/200)	61
第51図	土取り跡1~4 平面・エレベーション図 (S=1/40) 土取り跡4 出土遺物実測図 (S=1/4)	62
第52図	SR1 平面・エレベーション図 (S=1/80)	63
第53図	SR2 平面・エレベーション図 (S=1/80) 出土遺物実測図 (S=1/4)	64
第54図	SR3 平面・エレベーション図 (S=1/80) 出土遺物実測図 (S=1/4)	65
第55図	I 区包含層出土遺物実測図1 (S=1/4)	67

第56図	I 区包含層出土遺物実測図2 (S=1/4)	71
第57図	I 区包含層出土遺物実測図3 (S=1/4)	73
第58図	I 区包含層出土遺物実測図4 (S=1/4)	75
第59図	I 区包含層出土遺物実測図5 (S=1/4)	77
第60図	I 区包含層出土遺物実測図6 (S=1/4)	78
第61図	I 区包含層出土遺物実測図7 (S=1/4)	79
第62図	I 区包含層出土遺物 (521・軒丸瓦) 出土状況 (S=1/20) 及び位置図 (S=1/250)	80
第63図	II 区北壁・南壁セクション図 (S=1/50)	81
第64図	II 区全体図及び溝状遺構 平面・エレベーション図 (S=1/160)	83
第65図	II 区 SD15・17・21 出土遺物実測図 (S=1/4)	84
第66図	II 区包含層出土遺物 (S=1/4)	86

表目次

表 1	母代寺土居屋敷と高知平野東半の遺跡	10
表 2	I 区ピット計測表	57
表 3	I 区出土遺物観察表 (弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・陶磁器)	87
表 4	I 区出土遺物観察表 (瓦類)	103
表 5	I 区出土遺物観察表 (木製品)	104
表 6	I 区出土遺物観察表 (石器・石製品・石鍋・土鍤・鉄類・窯壁片 他)	105
表 7	II 区出土遺物観察表 (土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・陶磁器)	106

写真図版目次

卷頭図版 1 SE1遺物出土状況 SE1出土土師器 小皿・椀、环

卷頭図版 2 布目瓦（軒平瓦・軒丸瓦）

図版 1 調査前の景観（南から・北から）

図版 2 調査前の景観（北東から） 母代寺遺跡周辺の地形（南上空より）

図版 3 I 区上段・下段セクション

図版 4 I 区の遺構（南から） I 区上段の遺構（北から）

図版 5 I 区全景（完掘・北から） I 区上段の遺構（完掘・南から）

図版 6 遺物出土状況（P9・P12・瓦器椀・SK7） I 区SK7よりSE1方向をのぞむ

図版 7 包含層軒丸瓦（521）出土状況 SE1と包含層出土軒丸瓦（521）

図版 8 SE1 1面目遺物出土状況

図版 9 SE1 2面目遺物出土状況 SE1遺構底面に敷き詰められた礫

図版10 SE1遺構底面出土礫と下層確認 SE1完掘 井戸枠の状況

図版11 SE1完掘 掘形 SE1完掘 掘形半裁下層確認

図版12 SE1周辺の地形 SE1とSK7の位置関係

図版13 SK7上面（遺物集中1）軒平瓦出土状況 SK7遺物出土状況

図版14 SK7 遺物出土状況 SK7完掘状況

図版15 SK16 1面目遺物出土状況 SK16 2面目遺物出土状況

図版16 SK16 遺構完掘状況 SK12 遺物出土状況

図版17 I 区下段の土坑とセクション I 区下段の土坑

図版18 I 区土坑（SK5・6・17）、土取跡1~3

図版19 土取跡3 土取跡4

図版20 I 区下層の遺構（自然流路） 自然流路（SR2）堆積状況

図版21 II 区全景（完掘） II 区堆積状況 II 区南壁セクション SD15遺構底面の礫

図版22 現地説明会風景 佐古小学校遺跡見学会 佐古小学校発掘体験

図版23 調査風景 調査に参加した人々

図版24 土師器・小皿（遺構出土）

図版25 土師器・小皿、环、椀（包含層出土）

図版26 土師器・环、椀

- 図版27 土師器（椀・坏）、須恵器（椀）、瓦器（小皿・椀）
- 図版28 弥生土器・須恵器
- 図版29 SE1出土須恵器 梗（龜山窯）
- 図版30 SE1出土遺物 布目瓦（丸瓦）
- 図版31 SE1出土遺物 布目瓦（軒平瓦・平瓦）
- 図版32 SE1出土遺物 布目瓦（平瓦・丸瓦）
- 図版33 SS1・包含層出土遺物 布目瓦（軒丸瓦・軒平瓦・平瓦）
- 図版34 SS1・SK7出土遺物 布目瓦（軒平瓦・平瓦）
- 図版35 石鍋・石鍋転用温石 瓦質土器・瓦器
- 図版36 瓦質土器
- 図版37 貿易陶磁器1 遺構出土白磁・青磁 包含層出土染付・青磁
- 図版38 貿易陶磁器2 包含層出土 青磁1
- 図版39 貿易陶磁器3 包含層出土 青磁2
- 図版40 貿易陶磁器4 包含層出土 白磁1
- 図版41 貿易陶磁器5 包含層出土 白磁2
- 図版42 土取跡4出土須恵器 石鐵・硯 包含層出土 土師器・須恵器・陶器
- 図版43 窯壁片・鋳型片 太型蛤刃石斧・鉄製品
- 図版44 木製品1 SE1井戸棒
- 図版45 木製品2
- 図版46 母代寺周辺の地形（航空写真）

第Ⅰ章 調査の経緯及び方法

第1節 調査の経緯

本調査は野市町（現香南市）立佐古小学校グラウンド拡張整備事業に伴う緊急発掘調査である。

平成12年10月19日、高知県香美郡野市町（現香南市）母代寺88番地他に所在する町立佐古小学校グラウンド拡張整備工事中に、土師器・須恵器・瓦等が出土した。これに伴い野市町教育委員会は、10月19日に工事の中断を決定し、平成12年11月13日より緊急に試掘調査を行った。試掘調査に先立ち、地名と字名をもとに遺跡名を「母代寺土居屋敷遺跡」と決定する。試掘調査では11ヶ所のトレンチを設定、約5,700m²の対象面積の中、約520m²について調査を実施した。

運動場予定地の西側には、かつて公民館と保育所があり、その東側は畑だった。東西で段差があったため、東側の一段低い土地を赤土で造成した上で佐古小学校の仮のグラウンドとして使用していた。試掘調査で遺物・遺構を確認した場所は、畑あるいは水田として利用されてきた部分であり、公民館・保育所のあった範囲には遺物・遺構の残存は認められなかった。本発掘調査の範囲は約3,000m²となり、I区・II区の調査区を設定し、調査を開始する。

調査期間は、試掘調査が平成12年11月13日～12月12日、本発掘調査が平成12年12月13日～平成13年3月31日で、調査面積は、調査対象面積約5,700m²、試掘調査面積約520m²、本発掘調査面積約3,000m²である。



第1図 香南市及び母代寺土居屋敷遺跡位置図

第2節 試掘調査

試掘調査区内に、第2図のとおり11ヶ所の試掘トレンチを設定、重機及び手掘りにより、遺構・遺物の有無を確認する。各試掘トレンチの概要是以下のとおりであり、TR1・2・3・5・7・8については土層堆積状況について第3図に示す。

TR1・2・3・4

運動場の調整池となる部分であるが、試掘の結果、遺物は出土しなかった。TR1からピットが4基確認できたが、遺物を伴っておらず不明である。TR2～4にも、遺構や土器はなかった。

TR5

調査対象地北側に位置する。ここでは、流れ込んだと思われる上器片が出土しており、その下には、溝と思われる遺構が検出された。溝の中には手のひら大の石が詰め込まれており、暗渠としての機能を持つと考えられる。

TR6

調査対象地北側に位置する。表土から20cmくらいの深さで土器が出土しており、本調査時に確認調査を行う。

TR7

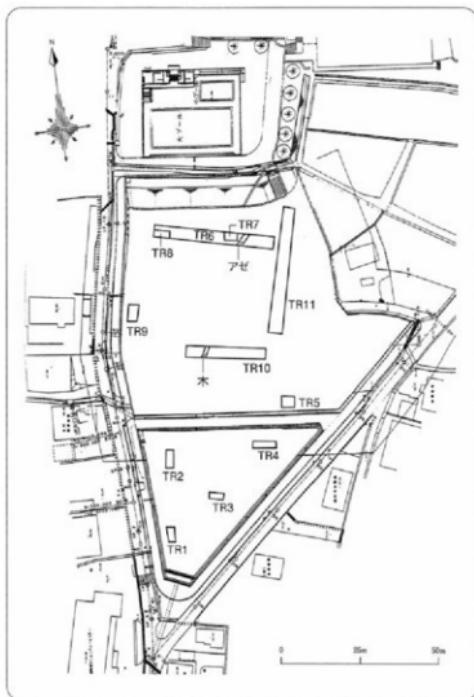
TR6の西側に位置する。このTR7の西側に畦のようなものが、北東方向から南西方向に向かって延びている。その畦を境に上の堆積状況も異なっており、畦より東側は土器片を含む層が確認できたが、西側にこの層はなく、黒褐色の粘質土が堆積しており、沼地（池）のような様相を呈する。

TR8

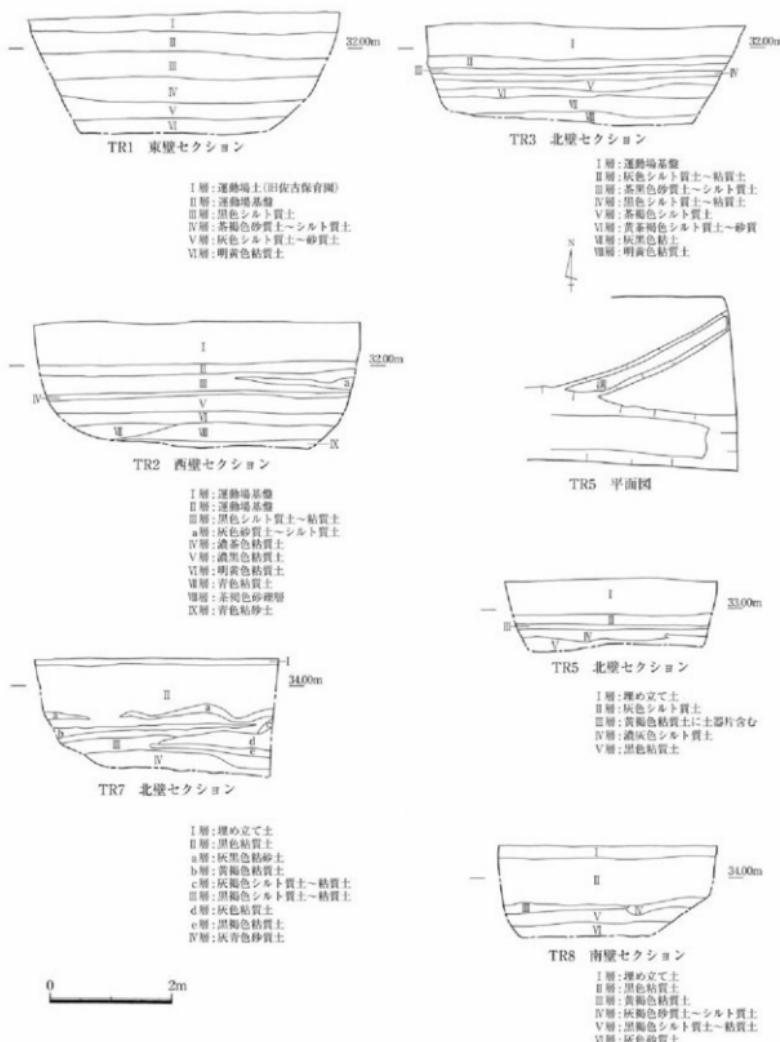
調査対象地北側の一番西側に位置する。TR7と同様、黒色の粘質土が堆積している。遺構・遺物は検出されなかった。

TR9

調査対象地西側に位置する。TR7・8と同様、黒色の粘質土が堆積している。遺構・遺物は検出されなかった。



第2図 試掘トレンチ 位置図



第3図 試掘トレンチ セクション図及び平面図 (S=1/80)

TR10

調査対象地は中央付近に位置する。上層は赤土で造成されているが、その下の層からは土器が多量に出土した。土器を含む層の下を確認するため、2本のサブトレンチを設定し、柱穴と思われるピットを検出した。このピットは2m間隔で並んでいる。全体の確認は本調査に委ねる。

TR11

調査対象地西側に位置する。南北に細長いトレンチである。北側部分では遺構・遺物の検出面までの深さが浅いが、南に行くとTR10同様、赤土で造成されている。この赤土についても本発掘調査時に除去し、下層の確認を行う。

試掘調査まとめ

運動場となる部分の西側は、昔公民館があり、東側は畠だった。そのため段差があり、佐古小学校の仮のグラウンドとして使用する際に、東側の一段低い土地を赤土で造成している。今回土器や遺構が出士した場所は、主に昔から畠（水田）であった部分であり、公民館や、保育所が建てられていた部分については手が加えられており遺構・遺物は残っていない。

TR7の東側のアゼ、TR10の西側に出土した木（土地の境界を表す木か？）より東側に遺構・遺物が残存しているため、このアゼと木より東側を本発掘調査の対象地とする。本発掘調査の範囲は約3,000m²となり、造成されている赤土を除去してから調査を開始する。試掘調査を行った調整池となる部分については、これ以上の成果はないものと見られるので工事を再開する。

今回の試掘調査で出土した土器は、平安時代後期～南北朝時代の遺物で占められており、特に鎌倉時代の遺物が中心である。中でも在地産の土師器が多く出土し、土師器か瓦質の脚付鍋の口縁部や脚部も出土している。他にも中国の華南産白磁IV類に分類される白磁の碗や、龍泉窯系の青磁碗、鎬蓮弁文青磁碗が出土しており、佐古亀山産の可能性も考えられる布目瓦や須恵器甕の胴部も出土している。

遺物からみても鎌倉時代が中心になっていると思われ、「土居屋敷」という字名が残っているが、その時代（中世末～近世）の遺構・遺物は見られない。今回の試掘調査では遺構検出面で止めてあるため、遺構に伴う土器は含まれていない。本発掘調査での成果を待ちたい。

〔平成12年度 母代寺土居屋敷遺跡試掘調査概報〕野市町教育委員会 2000年より 一部改変〕



TR 5



TR 11

第3節 調査の経過

平成12年（2000年）

11月13日 試掘調査開始

11月17日 野市中学校1年生 職場体験学習

12月13日 発掘調査開始

平成13年（2001年）

1月11日 I区北側でピット群検出

1月22日 佐古小学校6年生 体験学習

II区の調査終了

1月23日 佐古小学校5年生 体験学習

1月31日 I区で軒丸瓦・軒平瓦出土

2月13日 I区で井戸1を検出

2月15日 I区で井戸1の2面目を検出

2月19日 I区西側でピット群検出

野市町文化財保護審議委員現場を観察

2月26日 I区で井戸2を検出

3月11日 現地説明会

3月31日 発掘調査現場作業終了



佐古小学校 体験学習



現地説明会



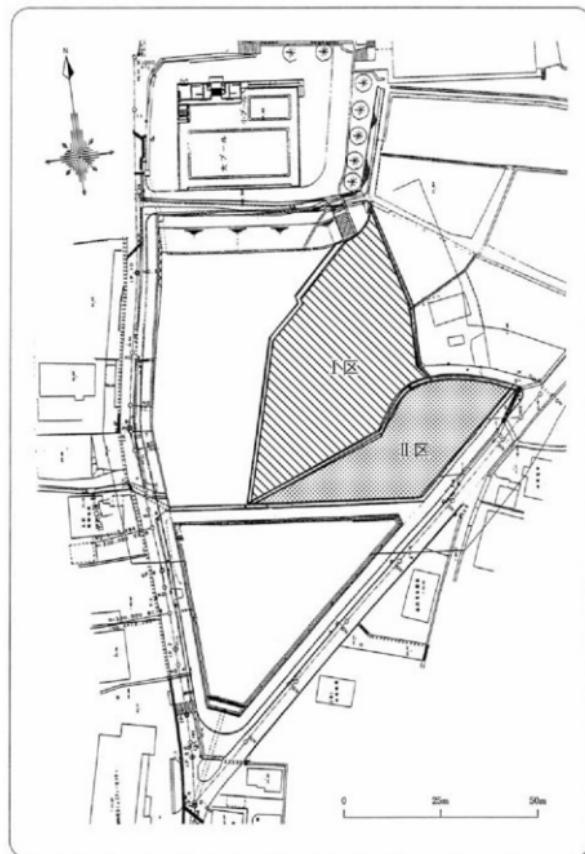
佐古小学校 体験学習



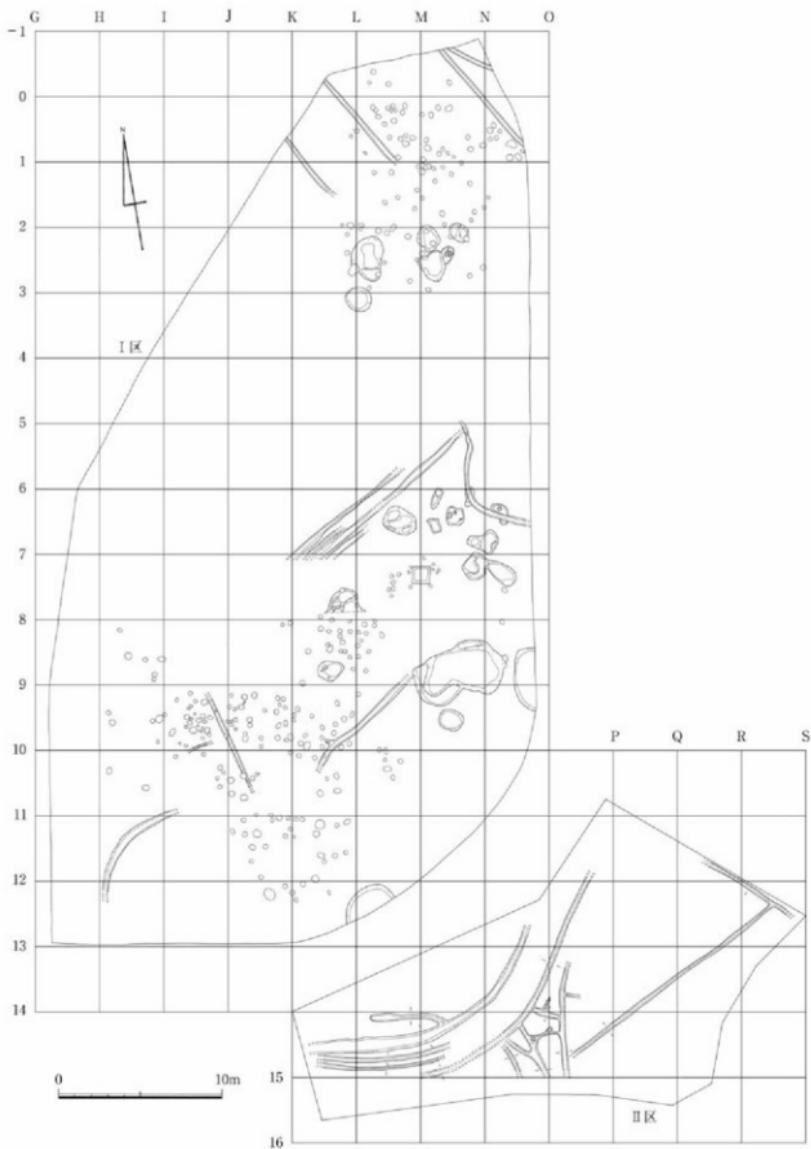
第4節 調査の方法

調査対象約3,000m²についてI区・II区の2つの調査区を設定し、造成されている赤土を除去してから調査を開始した。調査の手順としては、耕作土・旧耕作土を重機を用いて除去した後、包含層掘削、遺構検出、遺構埋土掘削を手作業で進める。試掘調査時には、それぞれのトレーニチで包含層を確認した後、遺構検出作業までを行う。遺構の調査はすべて本発掘調査で行ったものである。

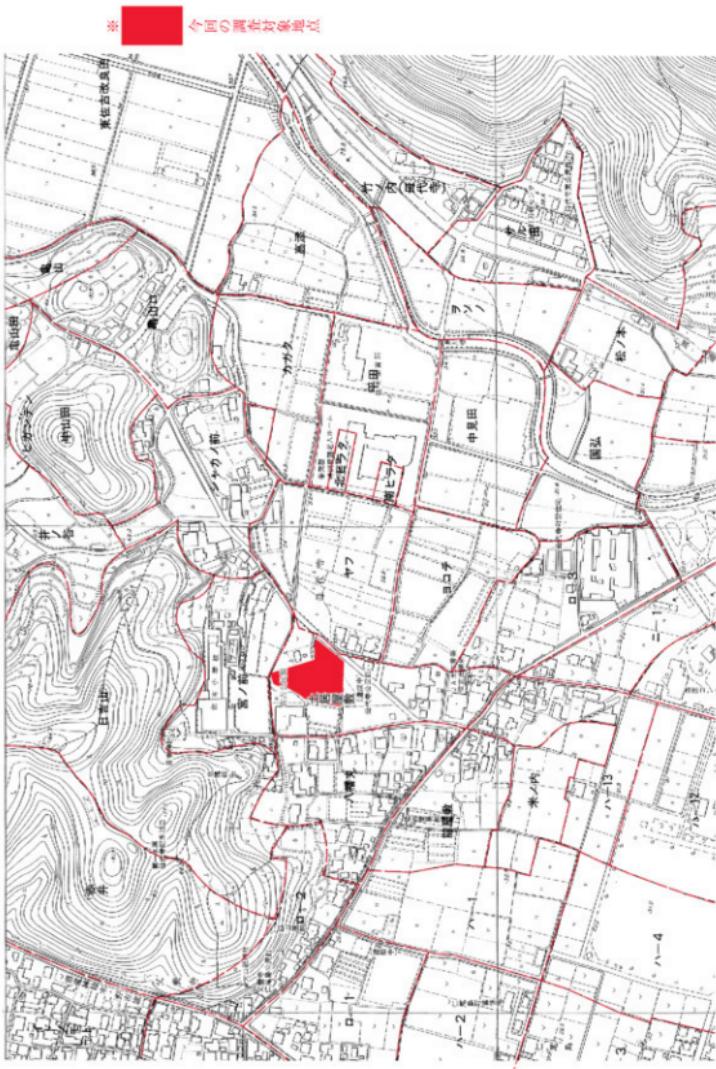
遺構の実測については、任意に設定した座標軸に基づいて4m方眼をかけ、グリッドNoを付して地点の記録及び実測を行った。平面実測及び土層断面図については、縮尺20分の1を基本に、状況に応じて10分の1等他の縮尺を用いた。



第4図 調査区位置図

第5図 I・II区全体図と設定した4mグリッド ($S=1/300$)

第6図 母代寺土居敷造訪周辺の地形と小字名 (S=1/5,000)



第Ⅱ章 遺跡周辺の地理的歴史的環境

第1節 地理的環境

母代寺土居屋敷遺跡のある香南市野市町は、県中央部に広がる高知平野の東端に位置し、県下三大河川のひとつ物部川の下流域に発達した扇状地上にある。平成18年3月に旧香美郡の香南五ヶ町村（赤岡町・香我美町・野市町・夜須町・吉川村）が合併、面積126.49m²、人口約3万4,000人の香南市が誕生した。

旧野市町は物部川の左岸に沿って南北約6km、東西約4kmの範囲に広がっている。西は物部川を境として南国市、東は香南市香我美町と隣接し、北は烏ヶ森山系により香美市土佐山田町と分けられる。南は香南市赤岡町・吉川町と境を接し南端部より約0.8km南で上佐湾にのぞむ。南部には、県都高知市と県東部を結ぶ国道55号線が東西に走っており、高知市より車で約30分と交通の便もよく、県都のベッドタウンとして人口も年々増加しており近年発展し続けている。

主要産業としては、江戸時代、野中兼山により灌漑施設が整備され、かつては豊富な水を生かした米作の穀倉地帯であったが、現在は近郊型の園芸農業が盛んとなっている。

自然地理学的には、北東部に聞楽山系の山岳地と物部川左岸側に分布する古期扇状地を呈する野市台地よりなっている。この聞楽山系は、秋葉山系と烏ヶ森山系の2つからなり野市町の約3分の1強の面積をしめる。



母代寺土居屋敷遺跡周辺の地形（航空写真）

秋葉山系は町の北東、香我美町の境にある間楽山（標高368.2m）より南西方向に高度を減じ、町のほぼ中心の三宝山（別名金剛山、標高213.9m）の南西方向で野市台地の下に沈む。その秋葉山系の北方に平行して鳥ヶ森山系があり、同じく南西に向かって高度を減じて、物部川にその山脚を浸食されている。

その山地の下に広がる野市台地は古期扇状地であり、現在の市街地をのせ、海拔高度約40～10mと北から南へ高さを減じている。これらの台地は、秋葉山系の西端部の三宝山の山麓部でさえぎられた物部川の堆積物が南東側へ向かって放出されたためできた扇状地性堆積物によって形成されたものである。また、台地の西端部分は5mほどの段丘崖となり、その下は新期扇状地となっている。

物部川が現在の流路を形成したのは、中近世以降のことであり、それ以前はいくつもの流路からなっていたが、中世になるとそれまで多数存在していた小流路の幾つかが堆積作用により埋積、自然堤防が形成された。近世になって両岸に堤防が築堤され、現在の流路になったと考えられる。

表1 母代寺土居屋敷遺跡と高知平野東半の遺跡

番号	遺跡名	主な時代	番号	遺跡名	主な時代	番号	遺跡名	主な時代
1	母代寺土居屋敷遺跡	弥生・古代・中世	22	東野土居遺跡	古墳～近世	43	町田塙東遺跡	縄文～中世
2	父養寺古墳	古墳	23	香宗城跡	中世	44	山田塙	近世～
3	日吉山古墳群	古墳	24	宝鏡寺跡	中世	45	新改西谷遺跡	旧石器・古代・中世
4	亀山窓跡	古代	25	曾我瀧跡	弥生～中世	46	ひびのき遺跡	弥生・古墳
5	深洞北遺跡	弥生・古代・中世	26	下分遠崎遺跡	弥生	47	ひびのきサウジ遺跡	弥生～近世
6	深洞遺跡	縄文～中世	27	岡ノ芝遺跡	古墳～中世	48	伏原大塚古墳	古墳～中世
7	西野遺跡群	弥生～古代	28	十万遺跡	縄文～中世	49	白猪田遺跡	古墳・古代
8	下ノ坪遺跡	弥生～古代	29	花臺遺跡	弥生～古墳	50	土佐国府跡	弥生～中世
9	北地遺跡	弥生～古代	30	徳王子大崎遺跡	弥生・古墳・中世	51	三島遺跡	弥生～古代
10	上岡北遺跡	弥生・近世	31	徳王子広本遺跡	弥生～中世	52	東崎遺跡	弥生～中世
11	上岡遺跡	弥生・古代	32	徳王子前島遺跡	弥生～中世	53	大領遺跡	古墳～中世
12	高田遺跡	平安	33	クノ丸遺跡	弥生～近世	54	岩村遺跡群	弥生～中世
13	小山谷古墳	古墳	34	江見遺跡	古墳	55	寺ノ前遺跡	弥生～中世
14	鬼ヶ岩屋洞穴遺跡	弥生	35	大東遺跡	古墳～近現代	56	修理田遺跡	弥生～古代
15	アゴデン白岩窓跡	古代・中世	36	須留田城跡	中世	57	大塙小学校校庭遺跡	弥生
16	竹ノ内山古墳	古墳	37	住吉砂丘遺跡	弥生	58	里改田遺跡	弥生～中世
17	大谷城跡	中世	38	南中曾遺跡	弥生・古墳	59	田村城跡	中世
18	大谷古墳	古墳	39	野口遺跡	弥生～中世	60	田村遺跡群	縄文～近現代
19	大崎山古墳	古墳	40	林田シタノヂ遺跡	縄文～中世	61	前ノ山城跡	中世
20	本村遺跡	弥生	41	林田遺跡	弥生～中世	62	鳥ヶ森城跡	中世
21	兎田稲ヶ本遺跡	弥生・古墳	42	加茂遺跡	古墳～中世	63	土島田遺跡	縄文～近世



第7図 母代寺土居屋敷と高知平野東半の遺跡 (S=1/50,000)

第2節 歴史的環境

母代寺土居屋敷遺跡のある香南市野市町は、北部に山塊を背負い南部に平野部が開けている。西は一級河川物部川に隔てられ東は香宗川がほぼ町境と重なっている。

物部川は野市町をはじめ、高知平野東部の平野を潤しているが、近世以前においては現在よりも西部を流れおり下流に大小の自然堤防を形成し、多くの縄文時代後期以降の遺跡が立地している。その中でも、母代寺土居屋敷遺跡から約5km南西の地点に位置する田村遺跡¹¹は弥生時代における南四国最大の拠点集落として知られている。

物部川中流右岸の香美市土佐山田町にはひびのき遺跡¹²（弥生時代～古墳前期）、その対岸には林田遺跡¹³（弥生～中世）がある。東部を流れる香宗川流域にも、弥生時代前期の土器が発見されるとともに多量の木器が出土した香我美町の下分遠崎遺跡¹⁴や十万遺跡¹⁵など高知平野東半の主な河川流域に遺跡が分布している。

香南市内には163の包蔵地が確認されている（平成21年9月現在）。縄文時代の遺跡は少なく、夜須町の手結遺跡（草創期）、香我美町の拌原遺跡¹⁶（後期）、十万遺跡（晩期）、深瀬遺跡¹⁷（晩期末）の例があるのみだが、弥生時代になると遺跡数が飛躍的に増大し市内全域に分布する。特に物部川左岸の段丘上の遺跡密度は高い。母代寺土居屋敷遺跡に最も近いものとしては南西に深瀬北遺跡¹⁸があり、その南には深瀬遺跡、西野遺跡群¹⁹、北地遺跡²⁰、下ノ坪遺跡²¹、上岡遺跡²²と物部川の段丘崖に沿って連続して分布している。また香宗川流域には下分遠崎遺跡の西側に官衙関連の遺跡である曾我遺跡²³が、その北側聞楽山地の麓にはガラス製の勾玉も出土した弥生中期の高地性集落の性格をもつ本村遺跡²⁴がある。聞楽山地には中期末の釜ヶ峰遺跡や、土器、貝殻、獸骨、魚骨などが出土した後期末の鬼ヶ岩屋洞窟遺跡もある。

古墳時代の遺跡も物部川、香宗川両流域に広がり集落が営まれていたことがうかがえる。古墳も聞楽山地に数多くみられ、特に竹ノ内山（溝瀬山）古墳は、当時の原形に最も近い状態で残存している横穴式石室の円墳で青銅環、直刀等が出土している。その他にも2次にわたる埋葬面が確認され金環、馬具等多量の貴重な副葬品が出土した大谷古墳²⁵をはじめ、小山谷古墳、大崎山古墳がある。また、母代寺土居屋敷遺跡のある佐古地区にも日吉山古墳群や父養寺古墳等、そして今は消滅しているが上分古墳の存在により、地方豪族のいたことが推察される。

古代の遺跡としては、母代寺土居屋敷遺跡から南へ約3kmに下ノ坪遺跡がある。下ノ坪遺跡は弥生時代後期前半と奈良時代にかけての遺跡で、古代の出土遺物は硯や丸瓶、全国的にも例の少ない四仙騎獣八稜鏡等が出土しており、古代の遺構では、掘立柱建物跡も発掘調査当時は南四国最大級の規模を呈しており、地方官衙的な性格を持つ遺跡であったと思われる。また、母代寺土居屋敷遺跡の南西約1.5kmに深瀬遺跡がある。深瀬遺跡も先にも述べたように縄文時代からの複合遺跡であるが、古代の出土物は二彩陶器、縁軸陶器、墨書き土器、硯、蛇尾等が出土している。また深瀬遺跡は瓦窯跡の指摘もあり、円面硯や風字硯も発見され、官衙的性格を持つ遺跡であったと考えられる。また、母代寺土居屋敷遺跡北側の亀山にも窯跡があり、そこで作られた瓦は平安京大極殿、藤原氏の氏寺である法勝寺に使用されていたことがわかつており²⁶、もっぱら中央向けの官窯であったと思われる。このことは、当時の野市町が中央と深いつながりを持つ重要な地であったことを示している。

中世になると、中原秋家、秋道が地頭となり、香宗我部氏と名乗り勢力をふるった。しかし、関ヶ原合戦後山内氏に入国によりその所領を失い、その後の一国一城制でその居城である香宗城は取り壊された。現在は八幡社と土塁の一部を残すのみである。その南東には香宗我部氏菩提寺の宝鏡寺跡と歴代の墓と觀音堂がたっている。また、戦国時代の城では母代寺土居屋敷遺跡の北側に前ノ山城、また土佐山田町との境に鳥ヶ森城がある。

近世前期、野市町域は物部川山田堰からの分水により開墾が進み、原野の広がる野市台地は豊かな穀倉地帯へと生まれ変わった。上岡北遺跡からは、物部川治水を手がけた野中兼山による築堤と推測される石積みの堤防（17世紀）が確認されている^{四〇}。野市町は、この旧堤防の持つ歴史的意義を認識し、工事計画を変更した。発掘された近世の堤防は埋め戻され、現地で保存されている。

参考文献

『野市町史 上巻』野市町史編纂委員会 1992年

引用文献

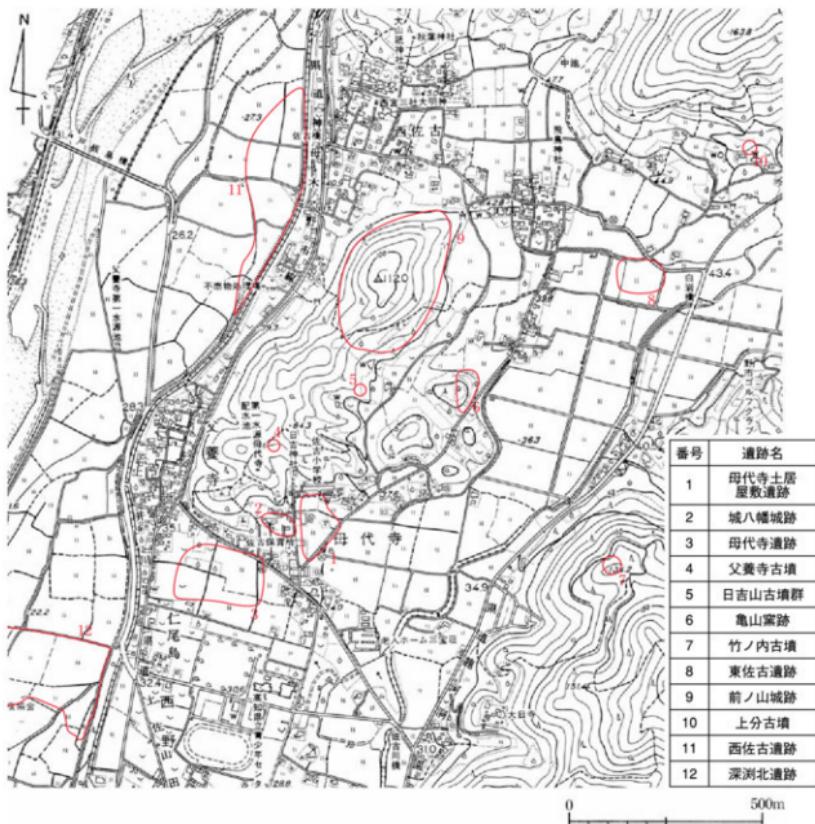
- (1) 出原恵三『南国土佐から聞う弥生時代像 田村遺跡』 新泉社 2009年
- (2) 岡本健児・廣田典夫『高知県ひびのき遺跡』 土佐山田町教育委員会 1977年
- (3) 宅間一之・山本哲也・森田尚宏『林田遺跡』 土佐山田町教育委員会 1983年
- (4) 高橋啓明・出原恵三『下分遠崎遺跡発掘調査概報』 香我美町教育委員会 1987年
高橋啓明・出原恵三『下分遠崎遺跡I』 香我美町教育委員会 1989年
- (5) 高橋啓明・出原恵三・吉原達生『十万遺跡発掘調査報告書』 香我美町教育委員会 1988年
- (6) 出原恵三『拝原遺跡』 香我美町教育委員会 1993年
- (7) 高橋啓明・出原恵三・吉原達生『深淵遺跡発掘調査報告書』 野市町教育委員会 1989年
- (8) 佐竹寛・吉成承三『深淵北遺跡』 野市町教育委員会 1996年
- (9) 『西野遺跡群ルノ丸地区南 第二次発掘調査概要報告書』 香南市教育委員会 2007年
- (10) 『野市町 北地遺跡 記者発表・現地説明会資料』 野市町教育委員会 2004年
- (11) 出原恵三・池澤俊幸・小松大洋・行藤たけし『下ノ坪遺跡I』 野市町教育委員会 1997年
出原恵三・池澤俊幸・小松大洋『下ノ坪遺跡II』 野市町教育委員会 1998年
更谷大介『下ノ坪遺跡III』 野市町教育委員会 2000年
- (12) 更谷大介『上岡遺跡』 野市町教育委員会 2005年
- (13) 高橋啓明・吉原達生『曾我遺跡発掘調査報告書』 野市町教育委員会 1989年
- (14) 坂本憲昭『本村遺跡発掘調査報告書』 野市町教育委員会 1993年
- (15) 山本哲也『大谷古墳』(財)高知県文化財団 1991年
- (16) 大石良材・臚谷寿・谷口俊治・鈴木忠司『平安宮推定大殿跡調査報告書』 1983年
- (17) 更谷大介・溝潤真紀『上岡北遺跡』香南市教育委員会 2008年

第3節 母代寺土居屋敷遺跡と周辺の遺跡

母代寺土居屋敷遺跡は、日吉山南側の裾野部、佐古小学校南側にある。かつて佐古公民館・佐古保育所があった場所一帯、字名「土居屋敷」付近に位置する。

日吉山中央、東部山麓には2基、北側にも古墳群が確認されている。その東には通称亀山があり、古代の亀山塚跡がある。北側の前ノ山城跡には大規模な土塁が残っている。

母代寺という地名は、播磨、讃岐、肥後の国司を歴任した紀夏井が土佐に配流されてきた時、母の追善供養のために建立したと伝えられる母代寺からきている。だが、伝承以外、寺の存在は不明のままである。



第8図 母代寺土居屋敷遺跡と周辺の遺跡 (S=1/10,000)

第Ⅲ章 調査の成果

調査の成果について、調査区ごとにまとめて報告する。I区・II区は隣接しているが、II区が一段低くなっている、形成された遺構の時期も、I区が古代末から中世前期にかけての遺構であるのに対し、II区は近世以降と異なっている。

I区は上段の遺構群（検出面の標高34m前後）が調査区北東端にまとまっており、下段の遺構群（検出面の標高33m前後）が調査区南半で確認されている。II区遺構検出面標高は32.5m前後と南側が低くなっている。

第1節 I区

I区からは弥生時代から近代にかけての遺物が確認されている。遺構出土遺物は大半が古代末から中世前期にかけてのものであり、遺構面が形成されたのは古代末から中世前期にかけてだと考えられる。

上段においては、この遺構面よりも上面から溝が確認されている。SD1～4が上面遺構であり、異なる検出面だが遺構全体図（第10図）には他遺構と一緒に記載し報告する。

また、下段では古代末遺構面より下面から遺構が検出されている。古代の粘土採取に伴う遺構などと推定される土取り跡及び自然流路であり、これらについては下層の遺構としてまとめて報告する。I区全体での下層遺構の位置は、土取り跡については全体図と一緒に示すが、下層の流路（SR1～3）については、別図（第50図）に記載する。

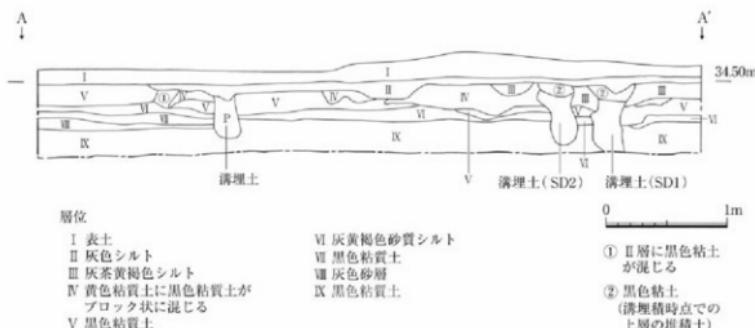


SE1 出土遺物（土師器・供膳具）

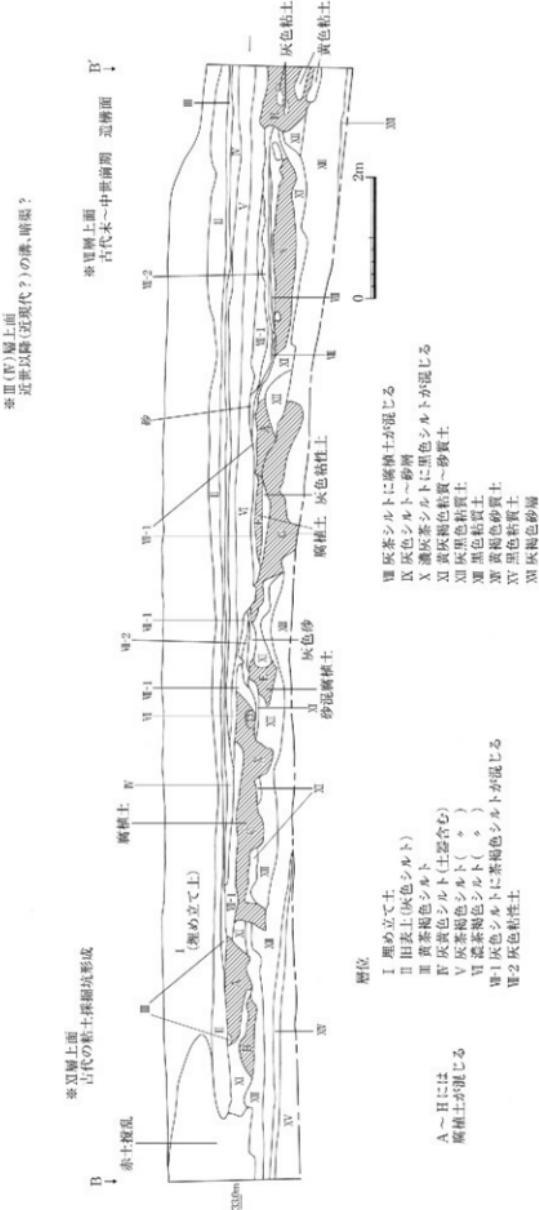
1. 基本層序

調査区の北端部・上段北壁（A-A'間）と中央部東側・下段東壁（B-B'間）で基本層序を観察した。第9-1図に上段北壁セクションを、第9-2図に下段東壁セクションを示す。セクションポイントの位置は第10図に示したとおりである。

上段 北壁 セクション	下段 東壁 セクション
I 層 埋め立て土（表土）	I 层 埋め立て土（表土）
II 層 灰色シルト（旧表土）	II 層 灰色シルト（旧表土）
III 層 灰茶黄褐色シルト（東壁IV層に対応）	III 層 黄茶褐色シルト
IV 層 灰茶褐色シルト（東壁V層に対応）	IV 層 灰黄色シルト（土器含む）
V 層 黒色粘質土（東壁VI層に対応）	V 層 灰茶褐色シルト（土器含む）
VI 層 灰黃褐色砂質シルト	VI 層 濃茶褐色シルト（土器含む）
VII 層 灰黑色粘質土	VII-1層 灰色シルトに茶褐色シルト混じる
VIII 層 灰色砂層	VII-2層 灰色粘性土
IX 層 黑色粘質土（東壁XII層に対応）	VIII 层 灰茶色シルトに腐植土が混じる
	IX 层 灰色シルト～砂層
	X 层 濃灰茶色シルトに黒色シルトが混じる
	XI 层 黄灰褐色粘質～砂質土
	XII 层 灰黑色粘質土
	XIII 层 黑色粘質土
	XIV 层 黄褐色砂質土
	XV 层 灰褐色砂層



第9-1図 I 区上段北壁 セクション図 (S=1/40)



第9-2図 I区下段東壁セクション図 (S=1/80)

2. 遺構と遺物

I 区で検出した遺構は、集石遺構1ヶ所、井戸跡1基、土坑17基、溝跡13条、柱穴跡293基、土取り跡4基、自然流路3条であり、現時点で復元し得た掘立柱建物跡は8棟、柵列跡1列である。(第10図)

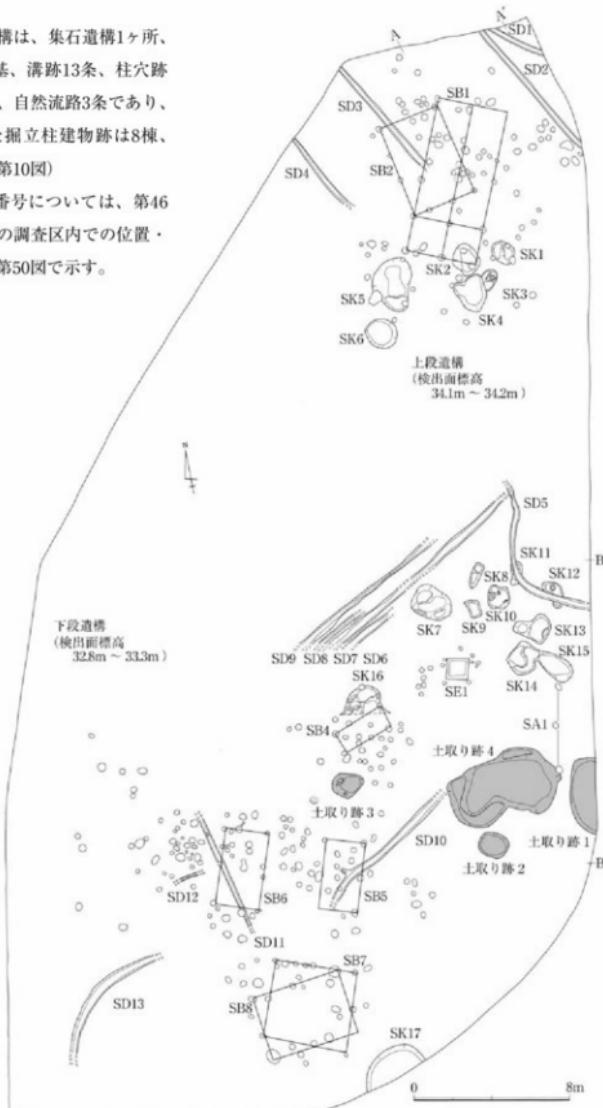
柱穴跡(P)の遺構番号については、第46~48図で、自然流路の調査区内での位置・遺構番号については第50図で示す。

A-A', B-B'は
セクションポイント
(第9-1図、9-2図参照)

東上面遺構
SD1~4
(近世以降)

東下面遺構
土取り跡1~4
(古代)

それ以外の遺構は、
大半が、古代末~
中世前期に属する。
なお、下面遺構の中
で、自然流路(SR1
~3)は別図(第50図)
に位置を示す。



第10図 I区全体図・遺構配置図 (S=1/250)

検出した遺構は大半が古代末から中世前期に属し、検出面標高も上段が34.1~34.2m前後、下段が32.8~33.3mとそれぞれの段では同じ高さとなっている。この検出面以外に上層と下層からも遺構が検出されている。

上層で検出した遺構は、調査区北側の上段で検出されたSD1~4である。北壁のⅢ層（下段東壁ではⅣ層）上面が遺構面となっており、旧表土直下に形成された遺構である。細かい時期は特定できないものの、近現代に機能していたと考えられる。検出面標高は34.4~34.5mである。

下層からは自然流路と4基の土坑が確認されている。下段東側に確認された4基の土坑は、XI層（黄灰褐色粘土層）を掘り込んで粘土を採取した「土取り跡」と推定されている。（第9-2図参照）検出面標高は32.5~32.8mである。

図中に記したA-A'及びB-B'は調査区上段北側（東西方向）と下段東側（南北方向）で土層堆積状況を確認した際のセクションポイントである。

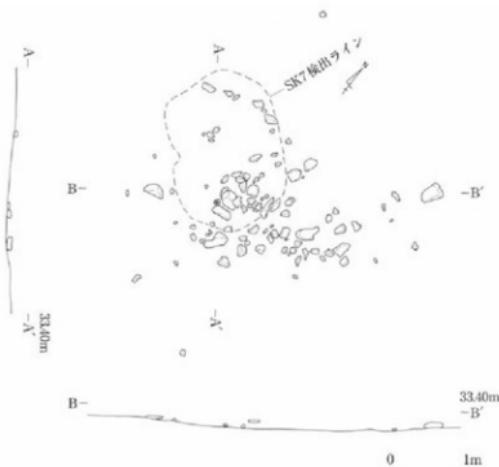
出土遺物は、遺構ごとに提示し、包含層出土遺物は最後にまとめて提示する。

(1) 集石遺構 (SS)

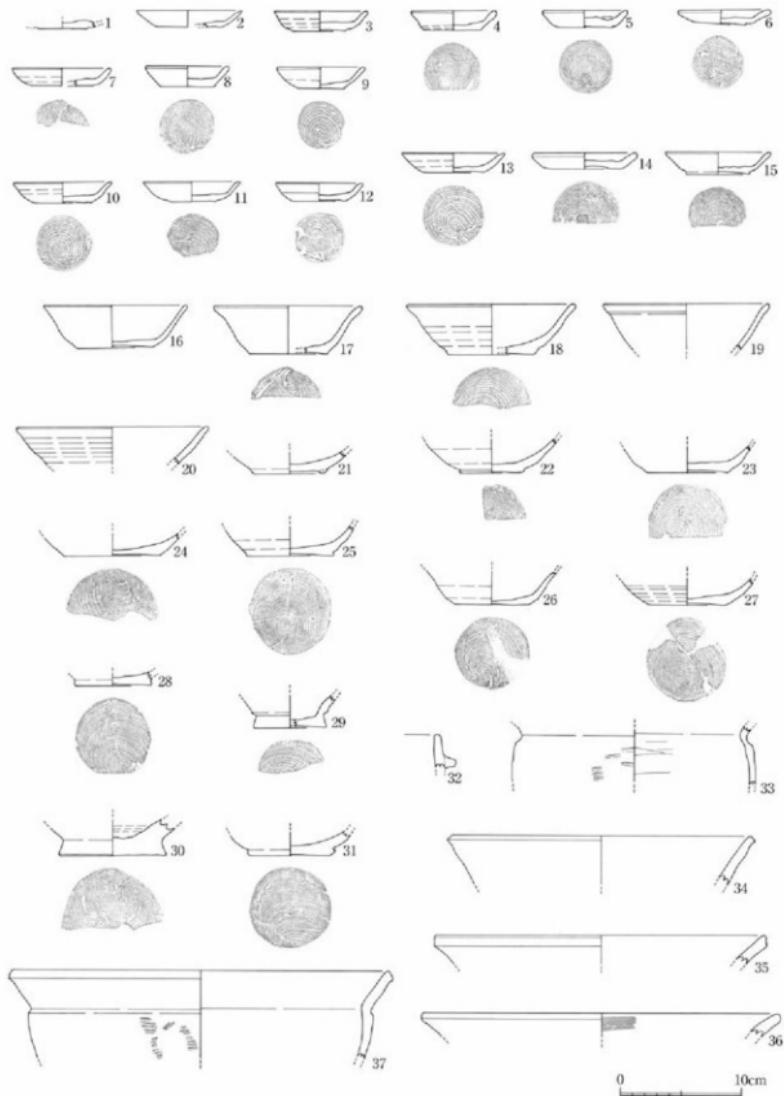
調査区（1区下段）の中央東寄り（L6/M6グリッド）に位置する。検出高は33.27mを測る。多数の遺物と15~20cm大の礫を多く検出している。遺構の範囲は約20cm下面から検出されるSK7とほぼ重複している。

遺物は口縁・底部（回転糸切り）を含む土師器片、須恵器片、瓦質土器片、瓦片（布目痕）、白磁・青磁片等コントナ1箱分ほどを出土している。

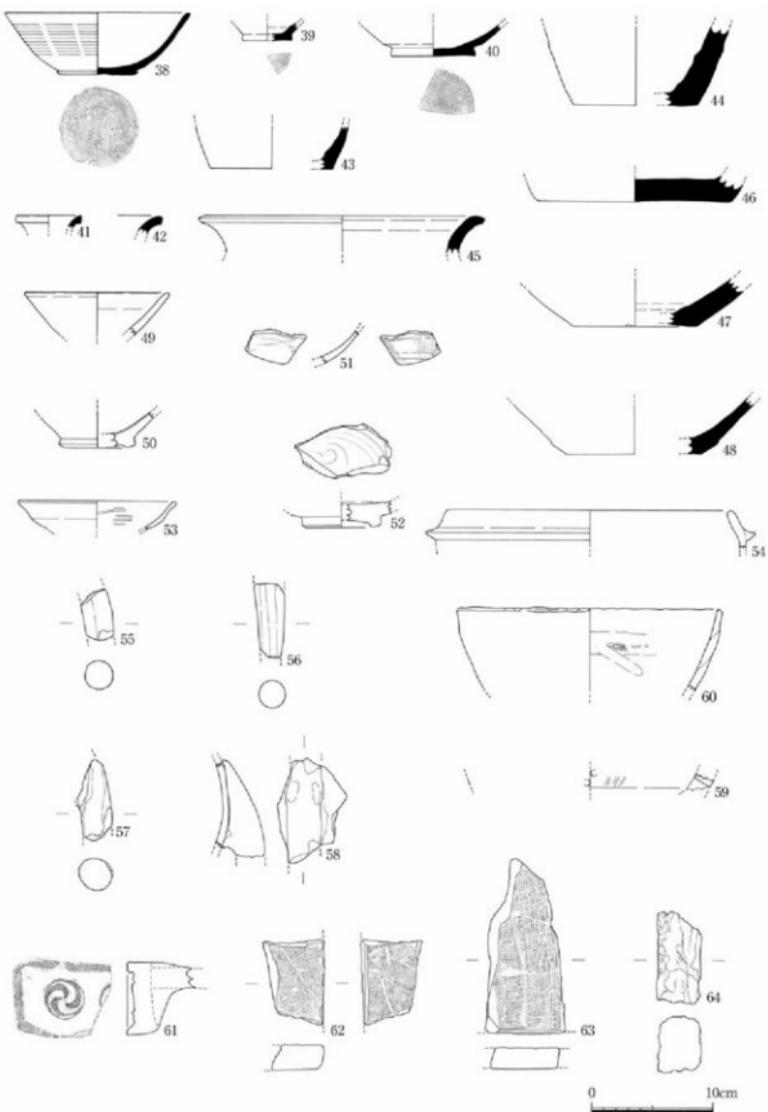
図示したものは土師器の
小皿（1~15）、壺（16~
20・22~27・29・30）、椀
(21・28・31)、羽釜（32）、
甕（33~37）、須恵器の椀
(38~40)、壺（41~44）、
甕（45~47）、鉢（48）、瓦
器の椀（53）、瓦質土器の
羽釜（54）、同脚部（55~
58）、白磁の碗（49・50）、
青磁の碗（51・52）、瓦
(61~63)、石鍋（59）、窯
壁片（64）である。他に流
れ込みの可能性が考えられ
る弥生後期の鉢（60）が出
土している。



第11図 集石遺構 (SS1) 遺物出土状況・平面エレベーション図 (S=1/50)



第12図 集石遺構（SS1）出土遺物実測図1（S=1/4）



第13図 集石遺構（SS1）出土遺物実測図2（S=1/4）

(2) 井戸 (SE)

SE1 (第14図～24図)

調査区（I区下段）の中央東寄り（L7/M7グリッド）に位置する。検出高は3279mを測る。平面形態は方形状を呈し、長径1.12m、短径1.07m、深さ45cmを測る。断面形態は箱形状を呈し、四隅の隅柱とそれに伴う木枠を検出しており、井桁を構成している。また後述するSB3とした建物及び周辺のピット群は当遺構に伴う施設のものである可能性が考えられる。

井戸枠の型式は組み立て式方形縦板組型のB類（薄板横桟留型）に分類されるもので、さらに隅柱の存在からB1類とすることができます。厚さ8mm前後の薄い縦板を隅柱のホゾ穴に差し込んだ各面1本ずつの横桟により支える構造である。この型式は奈良においては、8世紀中頃に登場し、平安遷都まで盛行、その後少なくなる傾向があるといふ。^{註1)}

床面からは一面に礫を検出している。礫は砂岩・砂礫岩・チャートなど周辺で入手可能なものの、最大でも20cm大で3kgほどであり、10～15cm大で1kg前後の重量のものが最も多い。河川にある円礫ではなく、大半が角礫である。埋土はⅡ層で、Ⅰ層目は灰色粘土で砂質土を含んでおり、Ⅱ層目は黒色粘土で、Ⅰ層目に対し部分的にブロック状の堆積が認められる。

遺物は口縁・底部（回転糸切り）を含む土師器片104点と、焼成不良を含む須恵器片20点、瓦器片1点を出土している。土師器片の多くは摩耗しており、輪高台1点を含んでいる。他に瓦片（布目有り・表面炭素吸着）8点を出土している。図示したものは土師器の小皿（66・67・83～92）、坏（65・68・70～73・96）、椀（74～80・93～95・97・98）、須恵器の甕（101～105）、鉢（81）、瓦器の椀（69・99）、土鍾（100）、布目瓦（82・106～119）、井戸隅柱（120～123）、横桟（124～127）、杭（128）である。

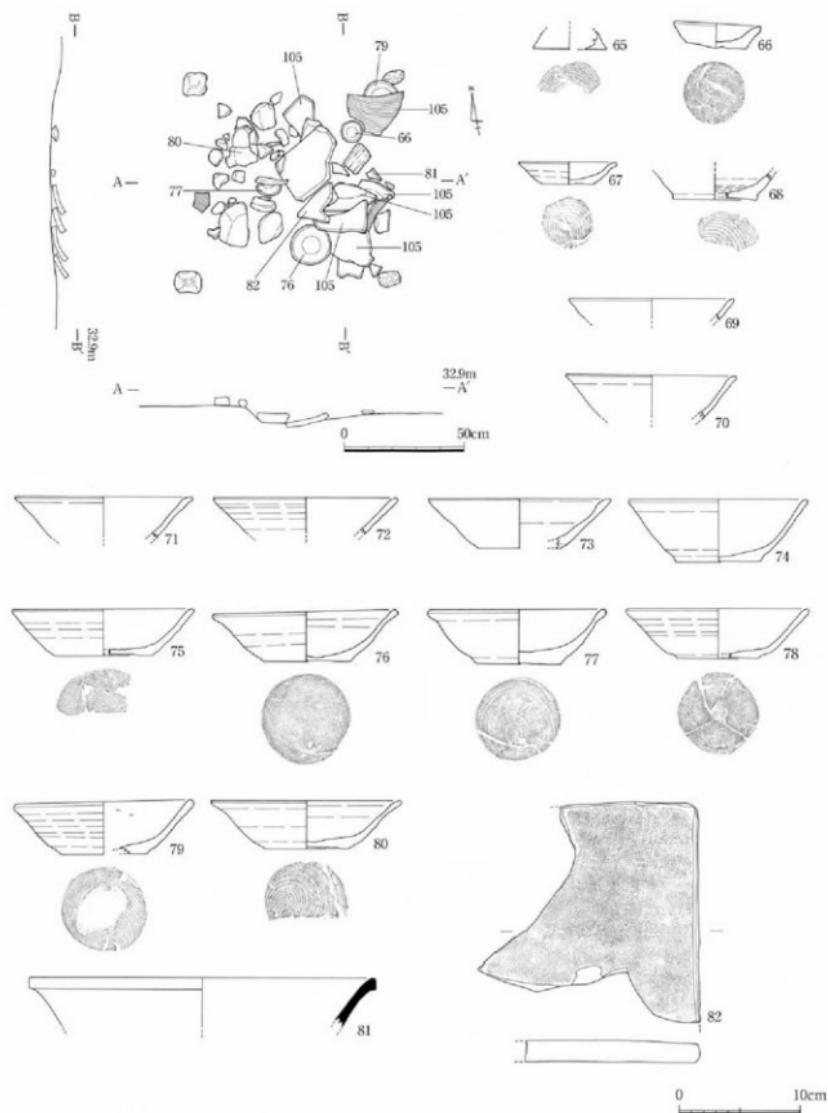
遺構の掘形からは口縁・底部（回転糸切り）を含む土師器片6点と、須恵器片1点を出土しており、土師器片は摩耗している。図示したものは土師器の坏（129）、瓦器の椀（130）である。遺物から12世紀末に廃絶した遺構と考えられる。

土師器や布目瓦など遺物は意図的に並べられており、110・112・113・116・117などのように2次的に被熱赤変した瓦も認められる。平瓦・丸瓦が大半だが、1点だけ劍頭文が確認される軒平瓦（109）も出土している。105の大きく変形した須恵器・甕は從来知られる亀山窯跡採集資料との胎土比較により、亀山窯跡で生産されたものだと考えられる。また、79の土師器椀には底部に穿孔が認められる。これらの遺物出土状況からSE1は井戸の廃絶儀礼等が行われた可能性が考えられる遺構である。

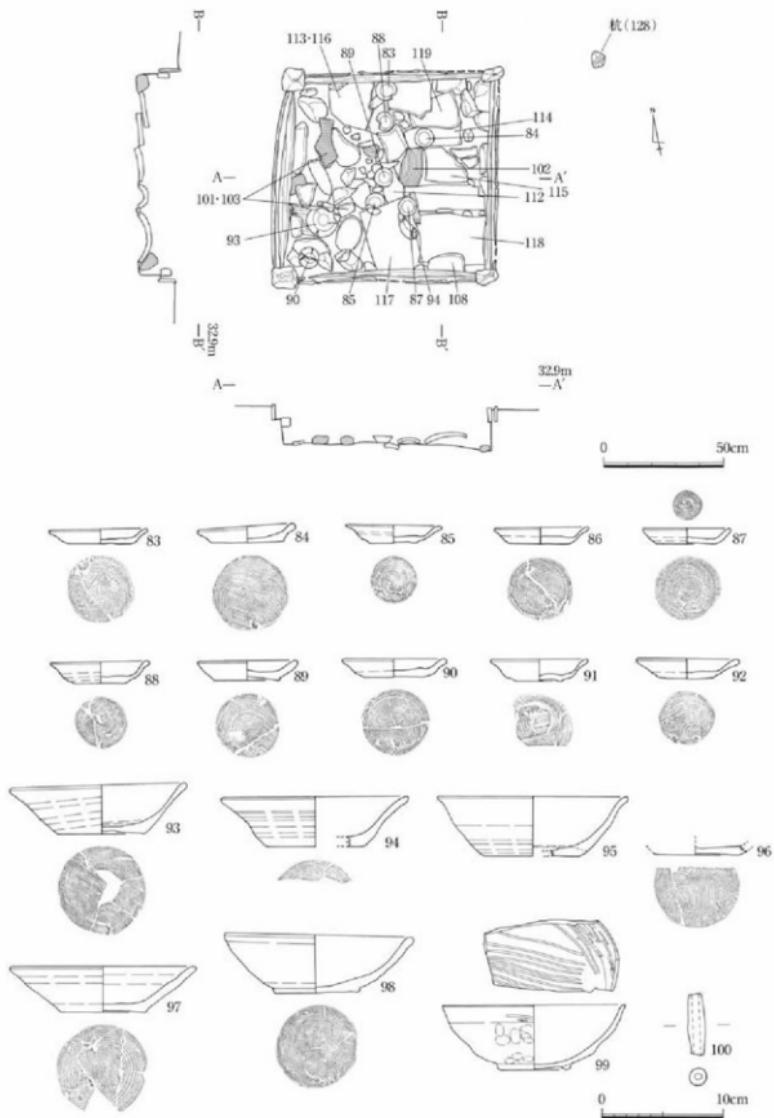
註1) 鐘方正樹 2003『井戸の考古学』同成社

組み立て式方形縦板組型の井戸自体は中世まで広く認められるが、都市部においては近世以降姿を消す。これに対し近畿地方の農村部では近世以降も田畠の野井戸に使われており、都市部と農村部の井戸形態に顕著な違いが生じることである。

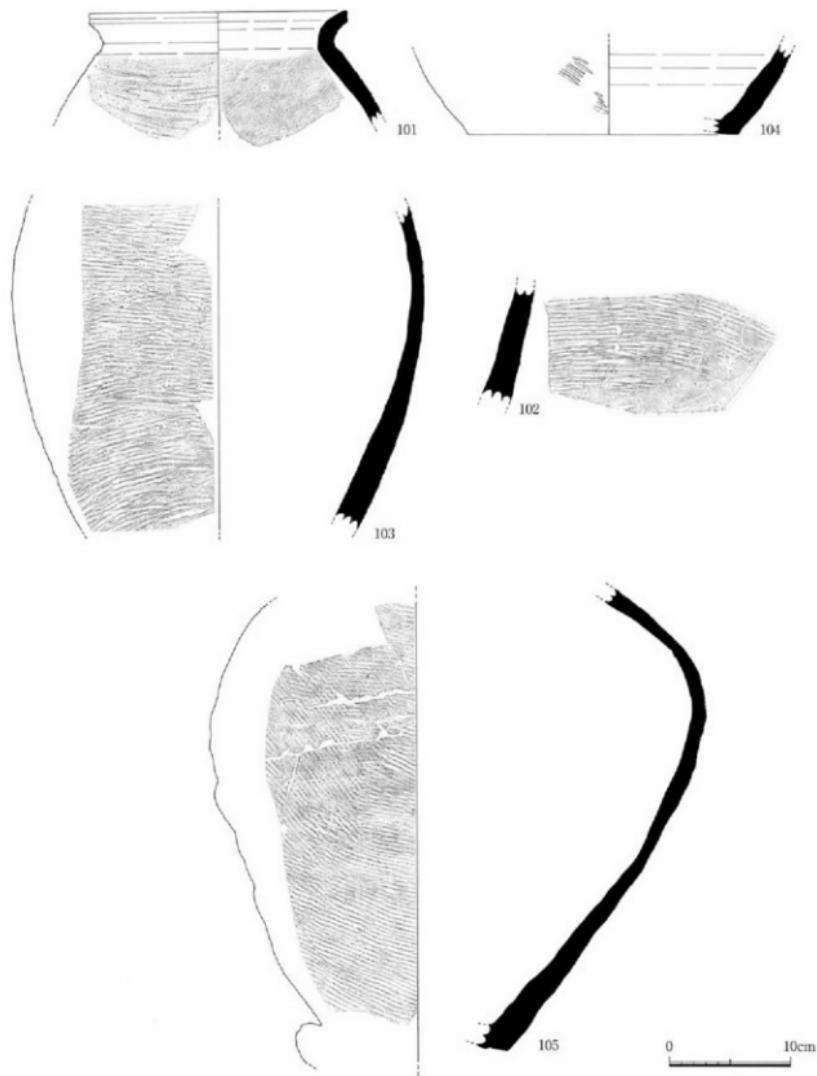
井戸の「ほりかた」については「掘形」という漢字に統一して報告する。（『井戸の考古学』参照）



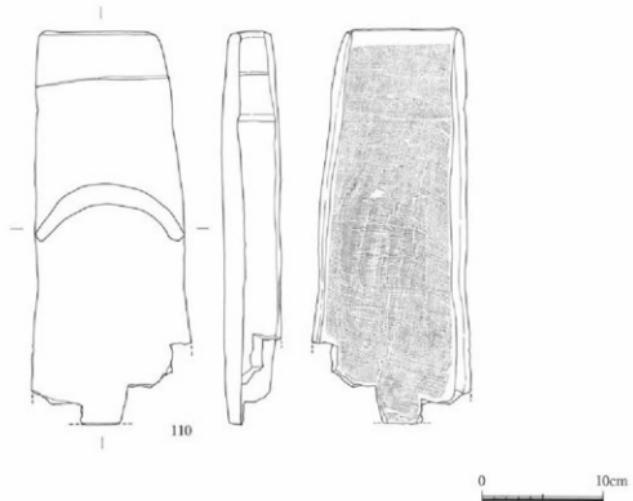
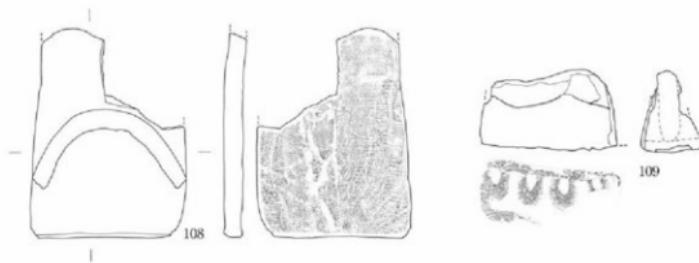
第14図 SE1 検出面及び1面目遺物出土状況 (S=1/20)・出土遺物実測図 (S=1/4)



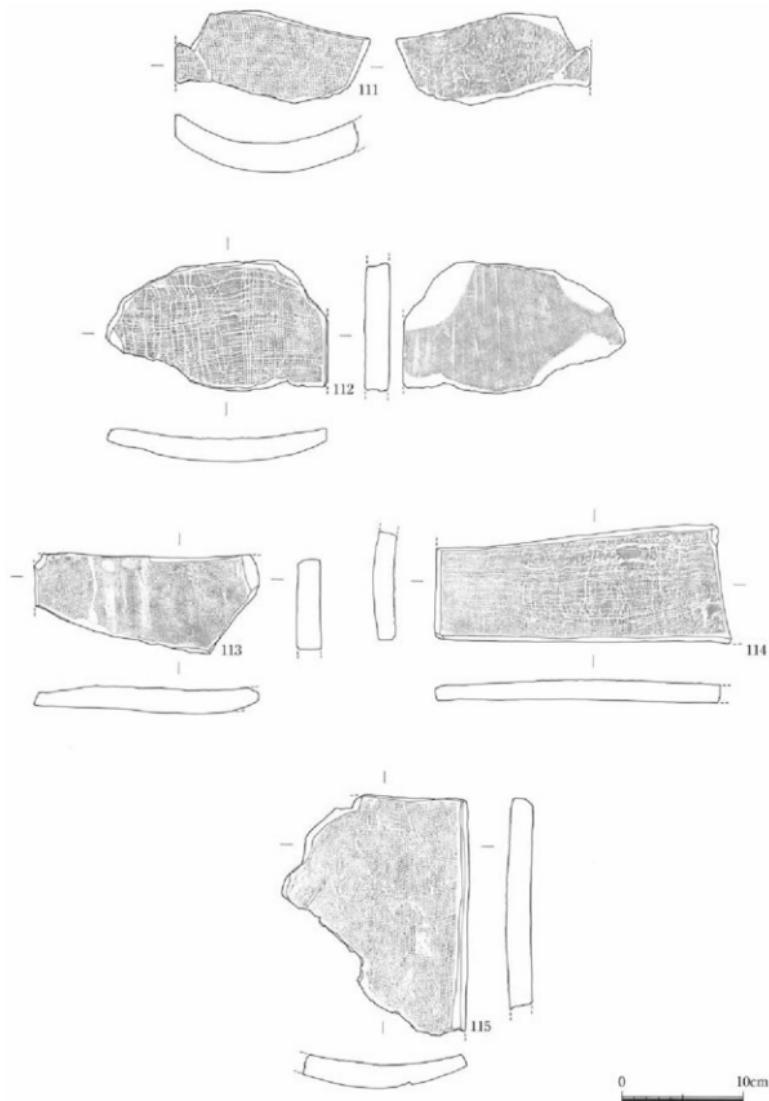
第15図 SE1 2面目遺物出土状況 (S=1/20)・出土遺物実測図1 (S=1/4)・土師器、瓦器



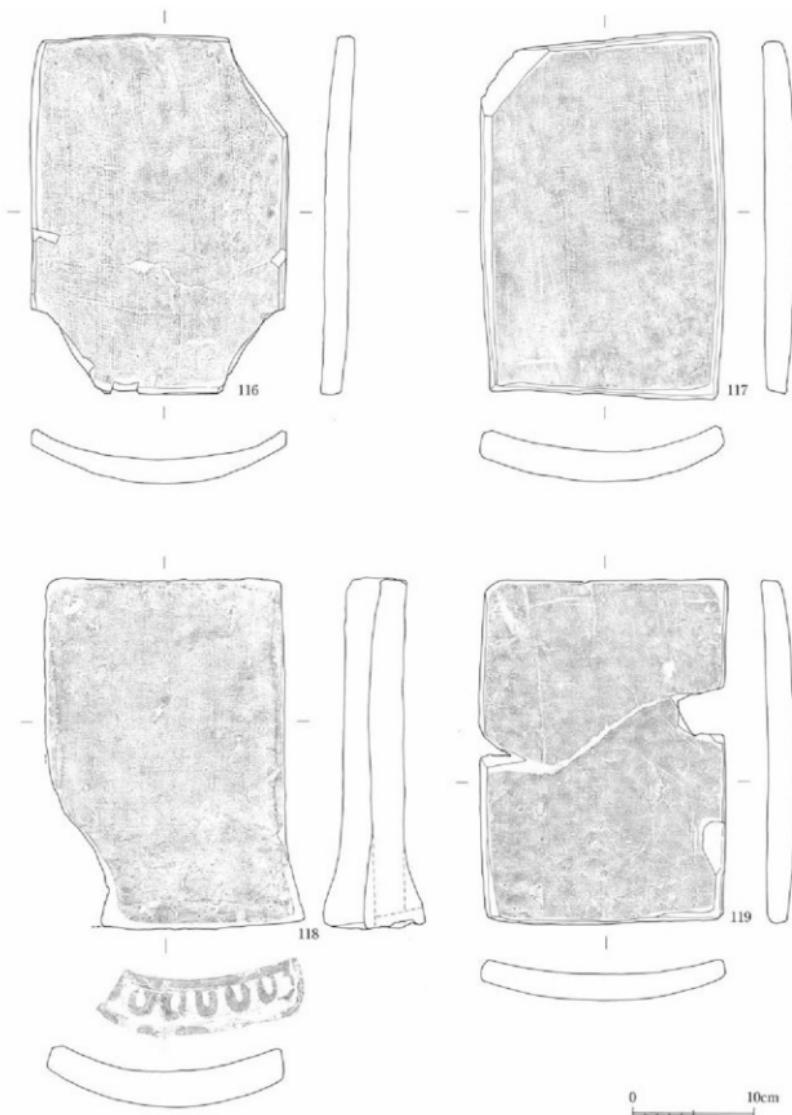
第16図 SE1 2面目出土遺物実測図2 (S=1/4)・須恵器



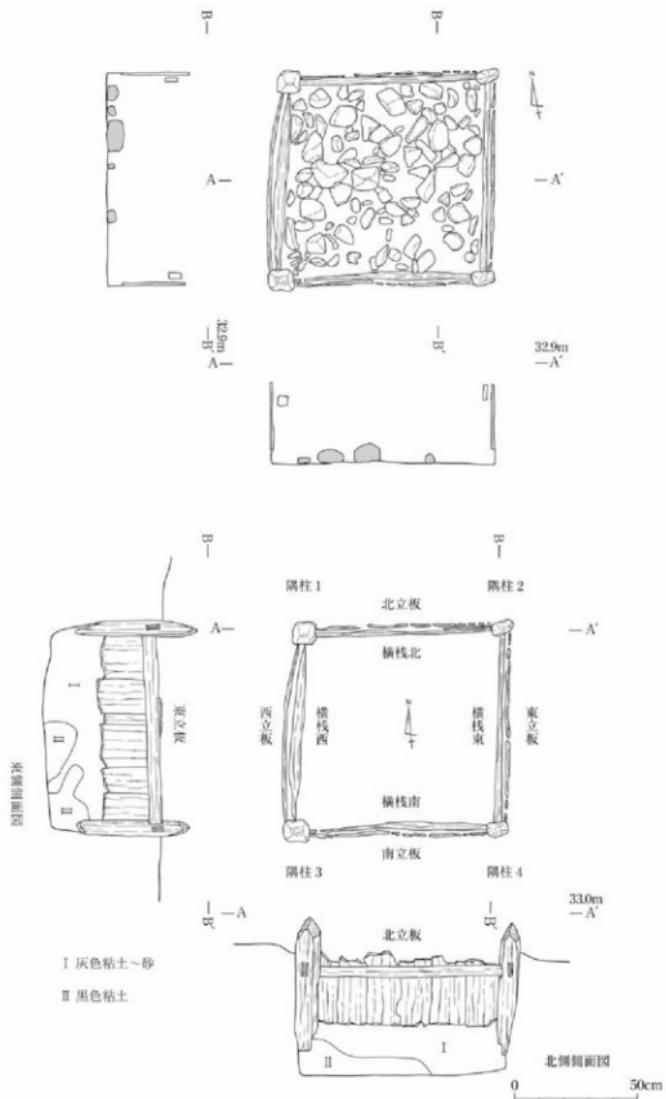
第17図 SE1 2面目出土遺物実測図3 (S=1/4)・瓦類1



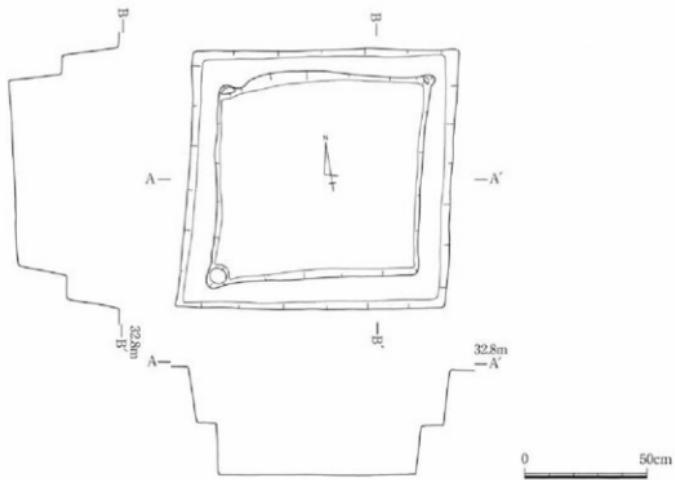
第18図 SE1 2面目出土遺物実測図4 (S=1/4)・瓦類2



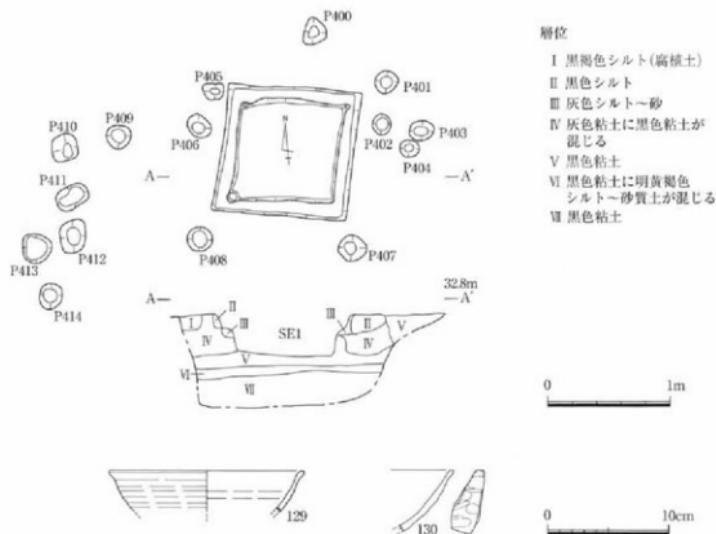
第19図 SE1 2面目出土遺物実測図5 (S=1/4)・瓦類3



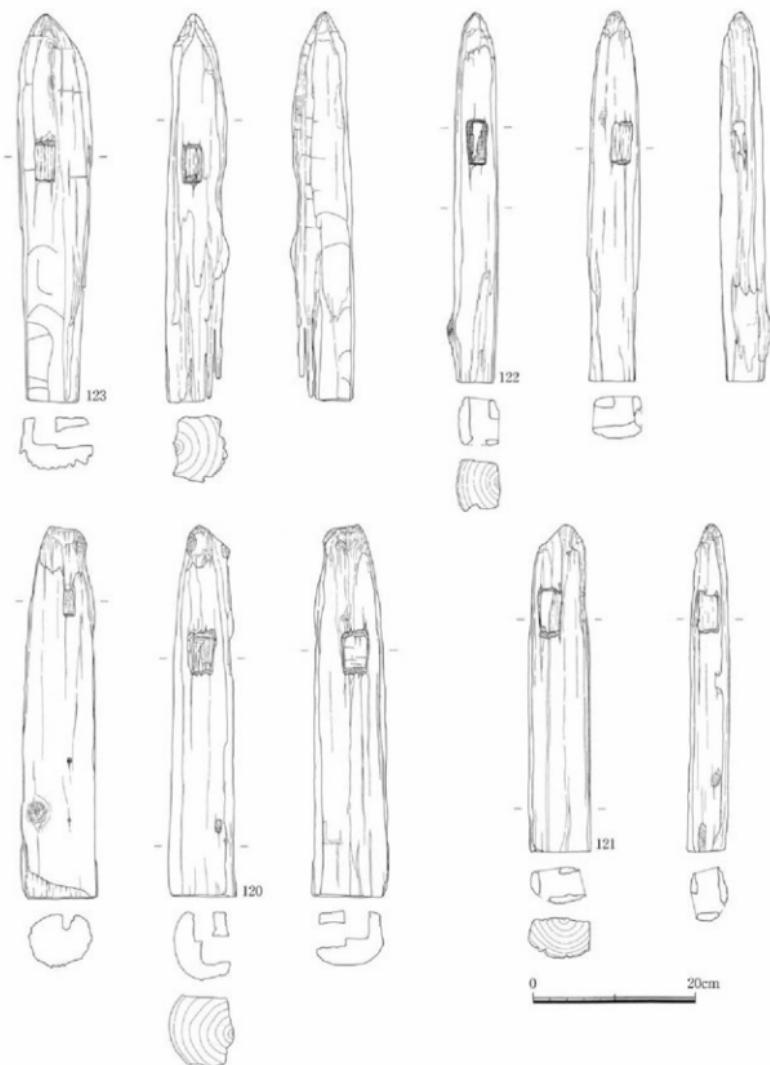
第20図 SE1 砂出土状況・平面・エレベーション図及び井戸枠平面・側面図 (S=1/20)



第21図 SE1 完掘 平面・エレベーション図 (S=1/20)



第22図 SE1 下層確認セクション図及び周辺遺構平面図 (S=1/40) 挖形出土遺物実測図 (S=1/4)



第23図 SE1 出土遺物（井戸枠一隅柱）実測図 (S=1/6)



第24図 SE1 出土遺物（井戸枠一横棧及び杭）実測図（S=1/6）

(3) 土坑 (SK)

SK1 (第25図)

調査区（I区上段）の南側（M1・2グリッド）に位置する。検出高は34.16mを測る。平面形態は重な楕円形状を呈し、長径1.28m、短径1.03m、深さ12~36cmを測る。断面形態は船底状を呈し、西側に段部を有する。埋土は基本的に3層で、I層目は黒褐色シルトに黄色粘土がブロック状に混じり、II層目は灰色砂質（シルト）、III層目は灰色粘土であり、I層とII・III層間に堆積の差が看取できる。遺物は出土していない。



東からみた上段土坑（右からSK1・2・3・4、後方はSK5・6）



SK5・6



SK6



SK5セクション



SK17

I 区の土坑

SK2（第25図）

調査区（I 区上段）の南側（M1・2グリッド）に位置する。検出高は34.15mを測る。平面形態は不整形形状を呈し、長径1.57m、短径1.24m、深さ29cmを測る。断面形態は船底状を呈し、壁面は斜めに立ち上がる。埋土の状態は基本的にSK1と同様である。

遺物は摩耗した土師器片1点と土師器の椀（131）を出土している。

SK3（第25図）

調査区（I 区上段）の南側（M2グリッド）に位置する。検出高は34.10mを測る。平面形態は楕円形状を呈し、長径1.20m、短径0.76m、深さ14～24cmを測る。SK4に切られるが、床面の形状からSK4以外の切り合い関係の可能性も考えられる。床面から長径32cm、短径17cm、深さ12cmを測る楕円形状の落ち込みを検出しているが、遺構との関連性は不明である。

遺物は口縁・底部（回転糸切り）を含む土師器片18点を出土しており、多くは摩耗している。図示したのは土師器の壺（132・133）である。

SK4（第25図）

調査区（I 区上段）の南側（M2グリッド）に位置する。検出高は34.13mを測る。平面形態は不整形円形状を呈し、長径1.94m、短径1.62m、深さ24～36cmを測る。SK3を切るが、床面及び平面形態からSK3以外の切り合い関係の可能性も考えられる。埋土の状態は基本的にSK1と同様である。

遺物は口縁部を含む土師器片2点を出土している。

SK5（第25図）

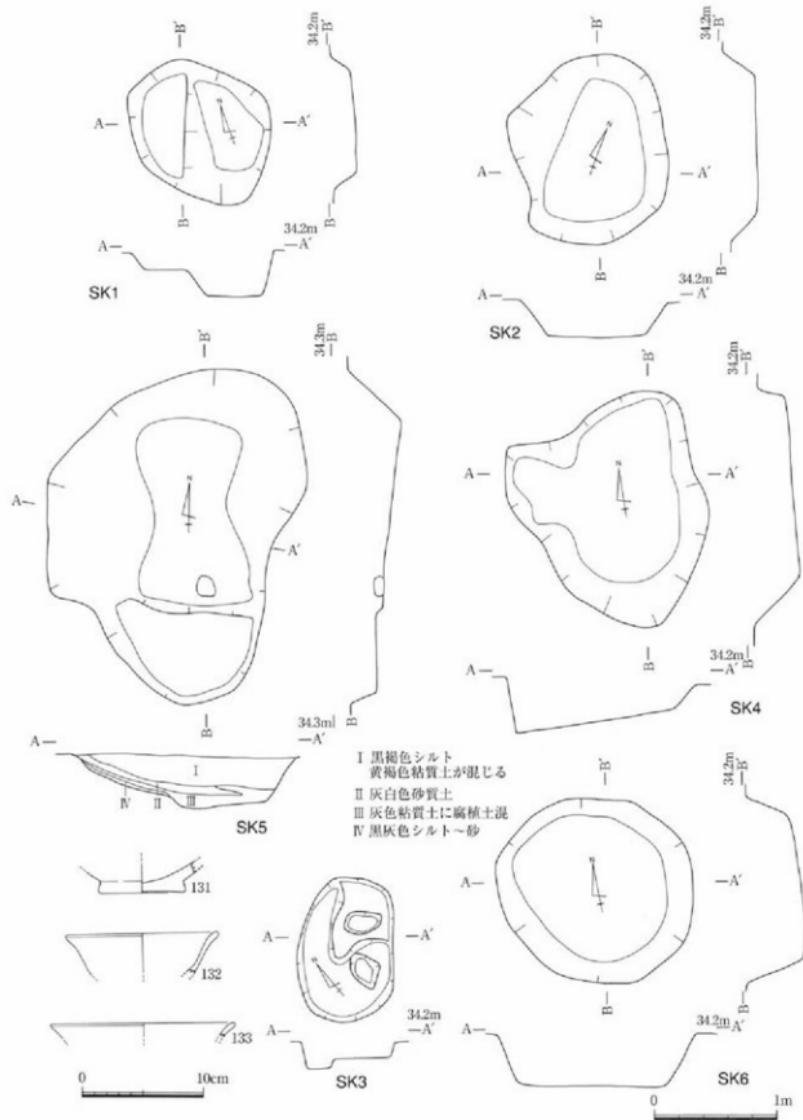
調査区（I 区上段）の南側（L2グリッド）に位置する。検出高は34.16mを測る。平面形態は不整形円形状を呈し、長径2.78m、短径1.85m、深さ21～44cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、西側は緩やかに立ち上がる。南側に段部を有し、形状から切り合いの可能性も考えられる。埋土は4層であり、I 層と II～IV 層間に堆積の差が看取できる。

遺物は出土していない。

SK6（第25図）

調査区（I 区上段）の南側（K2・3/L2・3グリッド）に位置する。検出高は34.17mを測る。平面形態は円形状を呈し、長径1.60m、短径1.52m、深さ24～46cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、床面は南側に向かって傾斜している。埋土の状態は基本的にSK1と同様と考えられる。

遺物は口縁・底部（回転糸切り）を含む土師器片21点と、焼成不良を含む須恵器片4点、瓦質土器片1点を出土しており、土師器片の多くは摩耗している。



第25図 SK1~6平面・エレベーション図 (S=1/40) SK2・3出土遺物実測図 (S=1/4)

131 (SK2) 132, 133 (SK3)

SK7（第26～28図）

調査区（I区下段）の中央東寄り（L6グリッド）に位置する。検出高は33.08mを測る。平面形態は不整形状を呈し、長径2.07m、短径1.54m、深さ30～57cmを測る。西側に段部を有し、遺物の出土状態や形状から切り合いの可能性も考えられる。また段部床面から径約20cm、深さ17cmを測るピットを検出しているが、遺構との関連性は不明である。

遺物は口縁・底部（回転糸切り）を含む土師器片約300点と、焼成不良を含む須恵器片約40点、瓦片（布目痕）約20点、白磁片（IV類）1点を出土している。他に混入と見られる弥生土器片3点と、近世陶磁器片2点を出土している。図示したものは土師器の小皿（134）、壺（135～140・142・145～151）、椀（141・143・144）、壺（154～157）、羽釜（152）、須恵器の壺（158）、壺（153・160・161）、捏ね鉢（159）、瓦器の椀（162）、瓦質土器の羽釜（163）、同脚部（164～166）、白磁の皿（167）、碗（168・169）、瓦（172～180）、鉄製品（171）である。遺物から12～13世紀頃の遺構と考えられる。

遺構からは板材と15～20cm大の礫を多く検出しており、当初水留め遺構の可能性も考えられた。また遺構の上面からは遺物を多く含む集石遺構（SS1）を検出しており、当遺構との関連性も含めた検討が必要になると思われる。

SK8（第29図）

調査区（I区下段）の中央東側（M6グリッド）に位置する。検出高は33.09mを測る。平面形態は隅丸長方形状を呈し、長径1.30m、短径0.48m、深さ10～15cmを測る。断面形態は皿状を呈し、南側が浅く落ち込んでいる。

遺物は出土していない。

SK9（第29図）

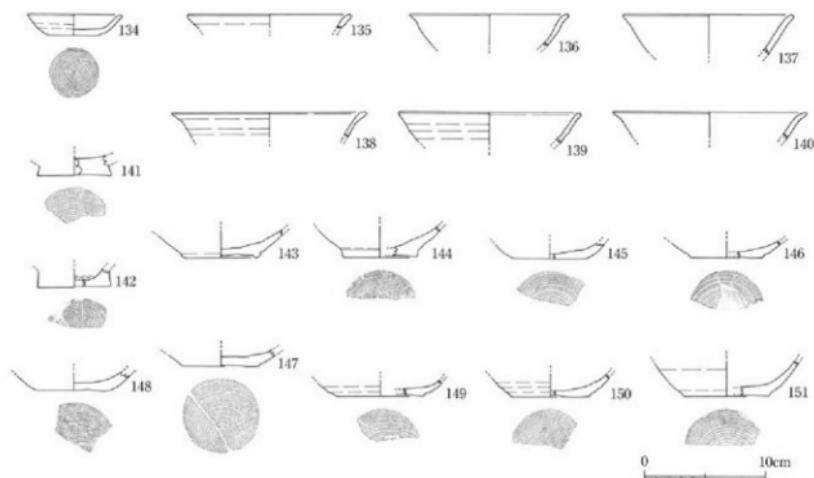
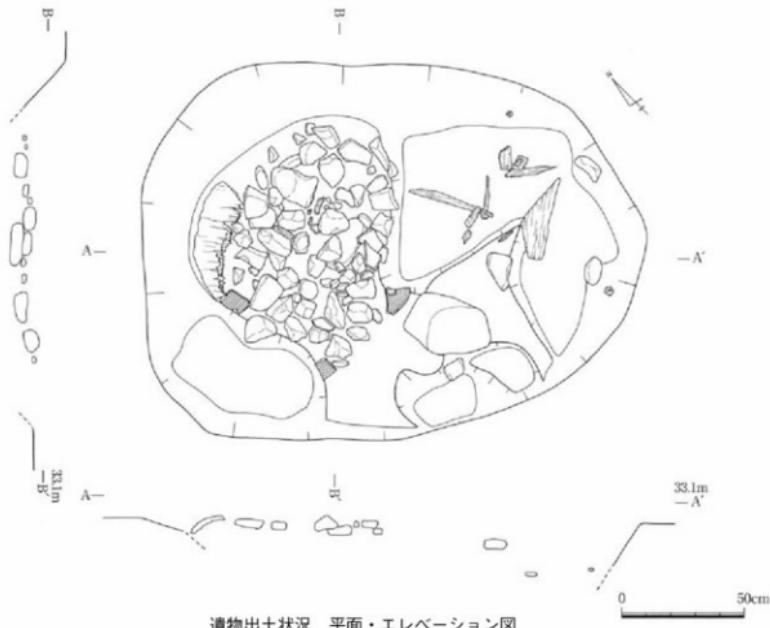
調査区（I区下段）の中央東側（M6グリッド）に位置する。検出高は33.06mを測る。平面形態は不整形状を呈し、長径0.92m、短径0.49m、深さ25cmを測る。断面形態は箱形状を呈し、床面の形状はほぼ水平である。

遺物は口縁・底部（回転糸切り）を含む土師器片約30点と、須恵器片3点、瓦片（布目痕）2点、黒色土器の可能性が考えられる細片2点を出土しており、土師器片の多くは摩耗している。図示したものは土師器の壺（181・182・184・185）、椀（183）、壺（186）である。遺物から12～13世紀頃の遺構と考えられる。

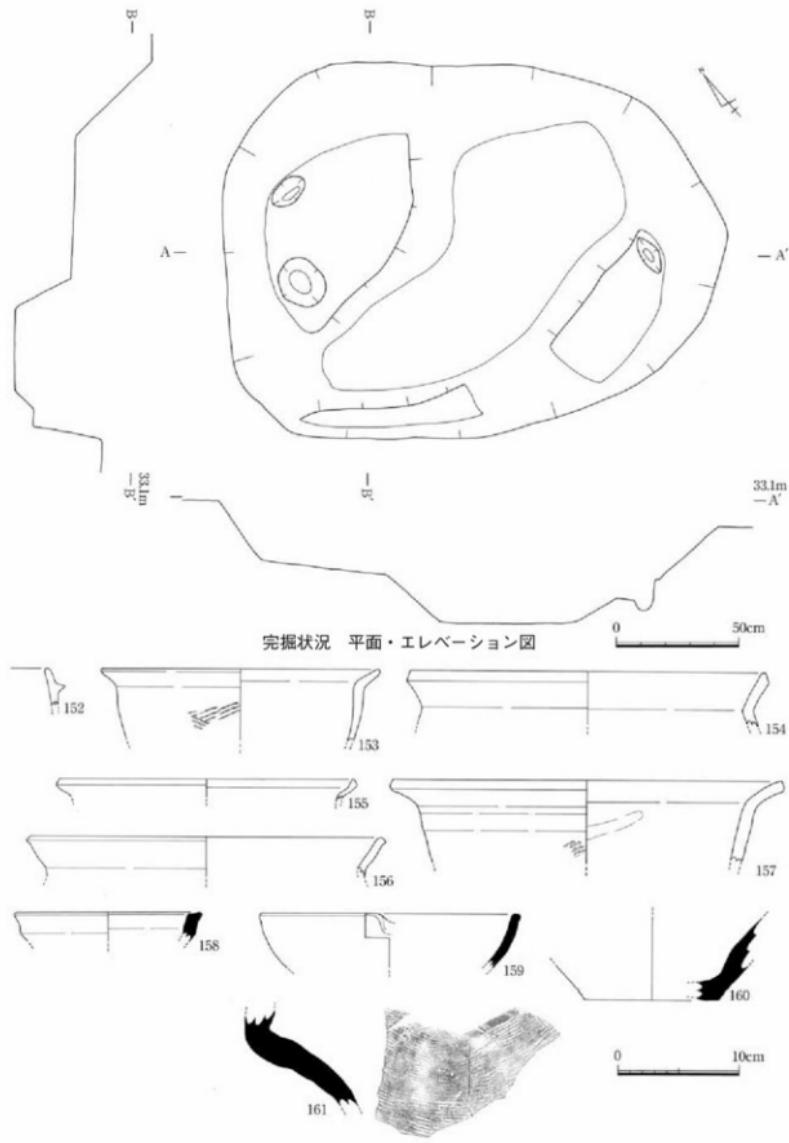
SK10（第30図）

調査区（I区下段）の中央東側（M6グリッド）に位置する。検出高は33.05mを測る。平面形態は歪な方形状を呈し、長径1.18m、短径1.06m、深さ14cmを測る。床面から長径27～40cm、短径10～34cm、深さ6～9cmを測るピット状の落ち込みを検出しているが、遺構との関連性は不明である。

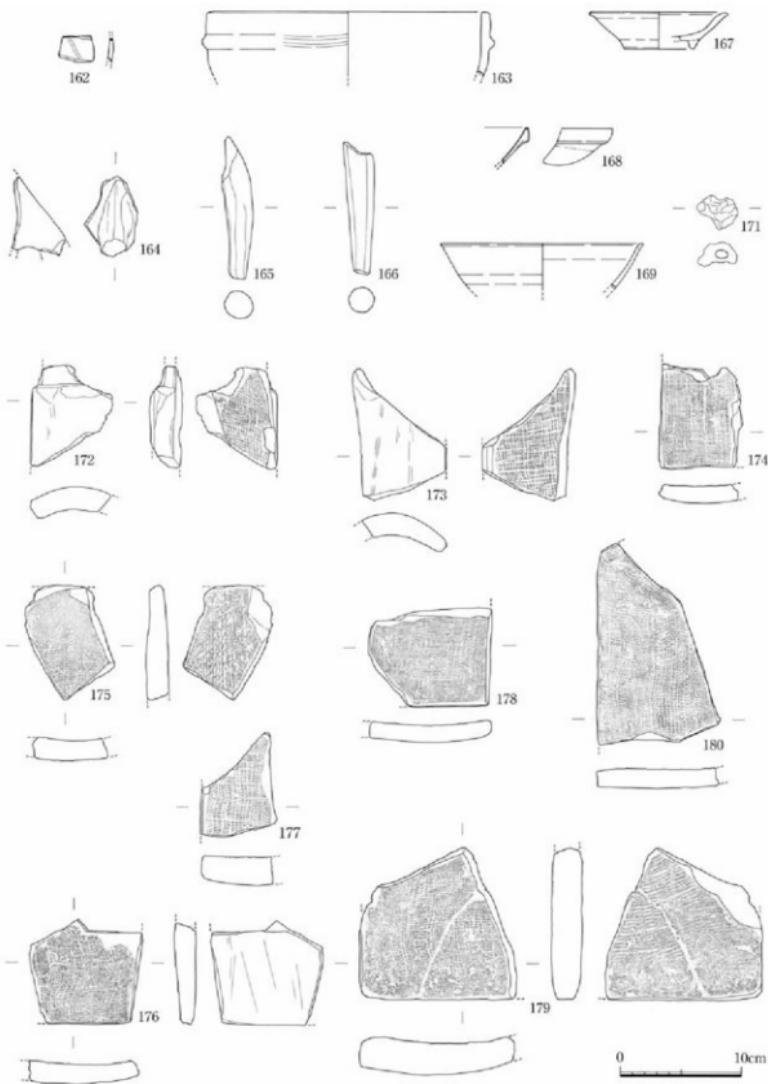
遺物は出土していない。



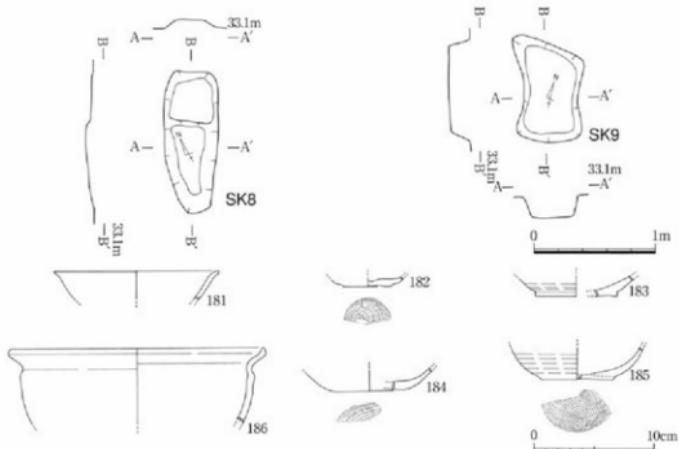
第26図 SK7 遺物出土状況 平面・エレベーション図 (S=1/20) 出土遺物実測図1 (S=1/4)



第27図 SK7 完掘状況・平面・エレベーション図 (S=1/20) 出土遺物実測図2 (S=1/4)



第28図 SK7 出土遺物実測図3 (S=1/4)



第29図 SK8・9平面・エレベーション図 (S=1/40) SK9 出土遺物実測図 (S=1/4)

SK11（第30図）

調査区（I区下段）の中央東側（M6グリッド）に位置する。検出高は33.07mを測る。平面形態は隅丸方形状を呈し、長径1.21m、短径0.50m、深さ10cmを測る。SD5に切られている。断面形態は皿状を呈している。北側に径53～55cm、深さ27cmを測る方形状の掘り込みを有しているが、形状から切り合いの可能性も考えられる。

遺物は出土していない。

SK12（第30図）

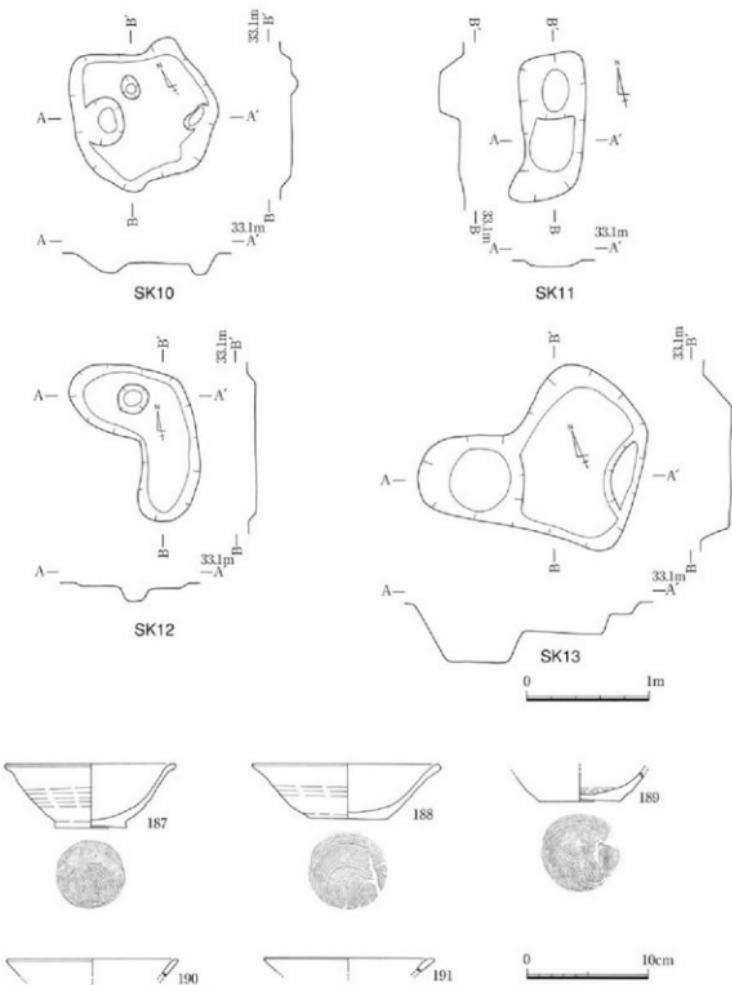
調査区（I区下段）の中央東側（M6グリッド）に位置する。検出高は33.02mを測る。平面形態は不整梢円形状（逆L字状）を呈し、長径1.45m、短径0.58m、深さ6cmを測る。断面形態は皿状を呈している。床面から径25cm、深さ13cmを測るピット状の落ち込みを検出し、ほぼ完形の土師器の坏（187）を出土している。

遺物は口縁部を含む土師器片2点を出土している。

SK13（第30図）

調査区（I区下段）の中央東側（M6・N6グリッド）に位置する。検出高は33.04mを測る。平面形態は不整梢円形状を呈し、長径1.76m、短径1.40m、深さ27cmを測る。断面形態は逆台形状を呈している。西側に長径0.88m、短径0.69m、深さ51cmを測る梢円形状の掘り込みを有しているが、形状から切り合いの可能性も考えられる。

遺物は底部（回転糸切り）を含む土師器片6点を出土しており、多くは摩耗している。図示したのは土師器の坏（188～191）である。



第30図 SK10～13平面・エレベーション図 (S=1/40) SK12・13出土遺物実測図 (S=1/4)
187 (SK12) 188～191 (SK13)

SK14（第31図）

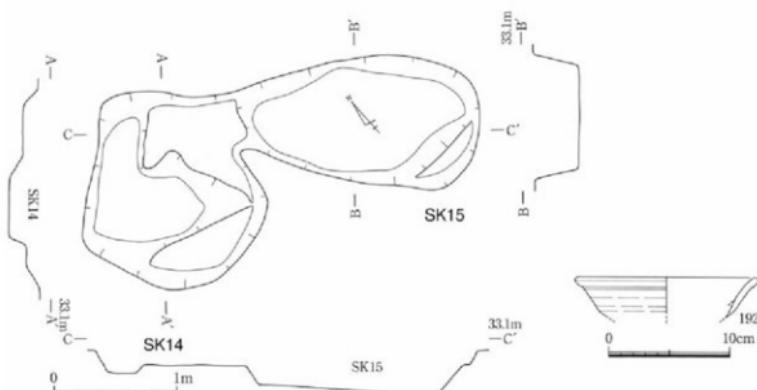
調査区（I区下段）の中央東側（M7/N7グリッド）に位置する。検出高は33.04mを測る。平面形態は正な方形状を呈し、長径1.63m、短径1.48m、深さ14~27cmを測る。西側と南側に段部を有し、東側はSK15に切られている。

遺物は土師器片の口縁部を2点出土している。図示したのは土師器の坏（192）である。

SK15（第31図）

調査区（I区下段）の中央東側（N7グリッド）に位置する。検出高は33.02mを測る。平面形態は梢円形状を呈し、長径1.96m、短径1.02m、深さ38cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、床面は東側に向かって緩やかに傾斜している。西側はSK14を切っている。

遺物は出土していない。



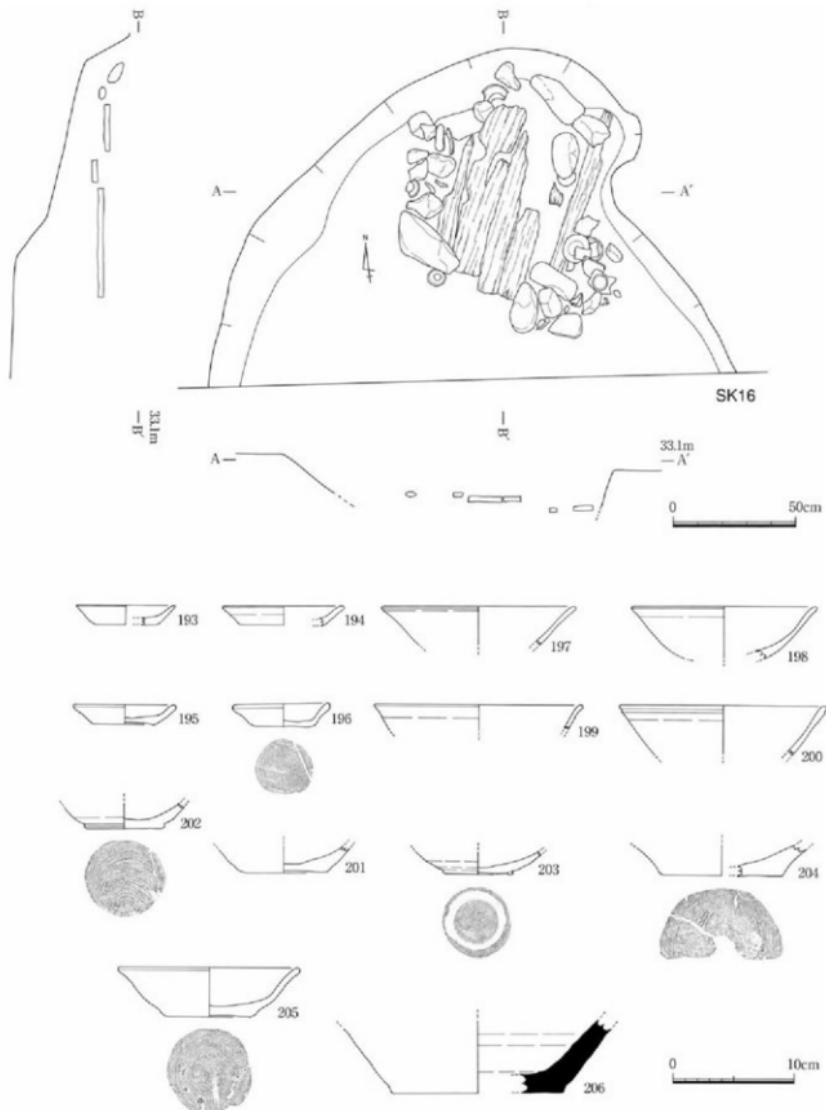
第31図 SK14・15平面・エレベーション図（S=1/40） SK14出土遺物実測図（S=1/4）

SK16（第32~35図）

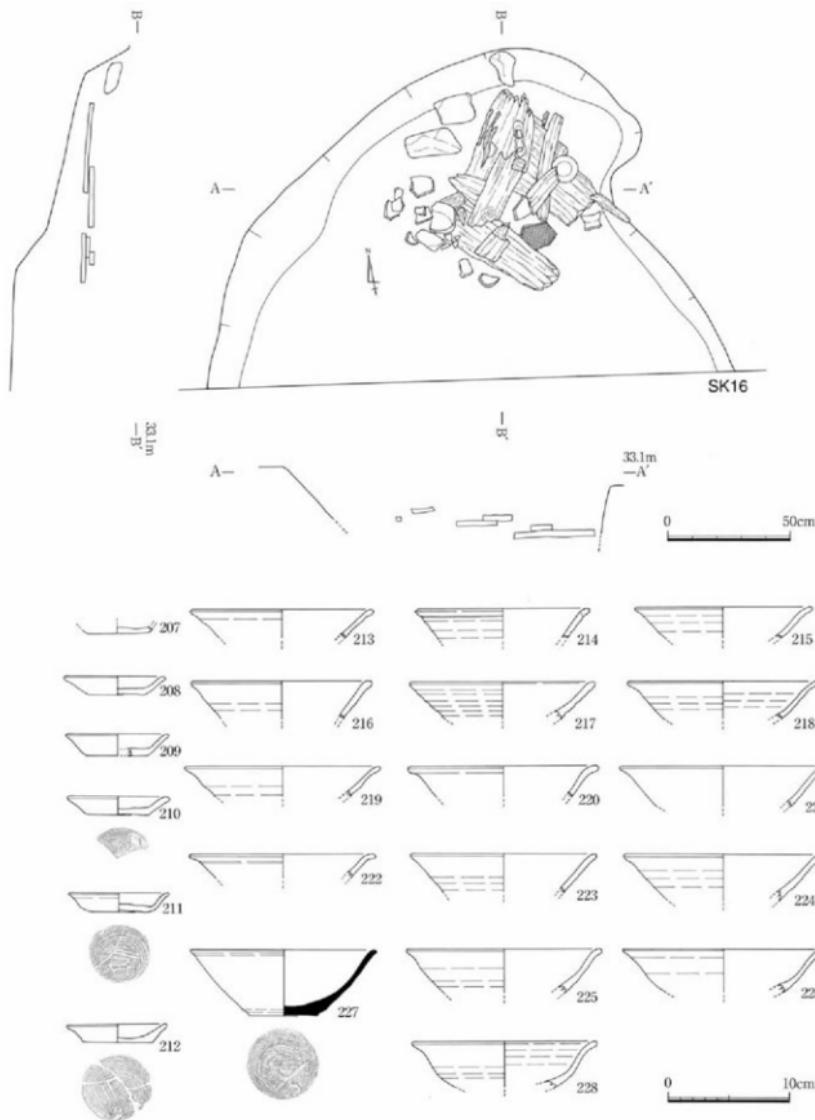
調査区（I区下段）の中央南寄り（K7/L7グリッド）に位置する。南側はTRにより未検出である。検出高は33.10mを測る。平面形態は不整梢円形状を呈し、深さ27~51cmを測る。床面は段部を有しており、遺物の出土状態などから切り合いの可能性も考えられる。

遺物は口縁・底部（回転系切り）を含む土師器片約450点と、須恵器片約80点、窯壁片9点、瓦片（布目痕）1点、瓦器片1点、白磁片（IV類）1点を出土している。他に混入と考えられる弥生土器片7点を出土している。図示したものは土師器の小皿（193~196・207~212）、坏（201・205・213~226・230~233）、椀（197~200・202・203・227~229・234~236）、甕（237・238）、鉢（204）、須恵器の壺（239・240・246）、甕（241~245）、鉢（206）、瓦器の椀（247・248）、白磁の碗（249・250）、瓦（251）である。遺物から12~13世紀頃の遺構と考えられる。

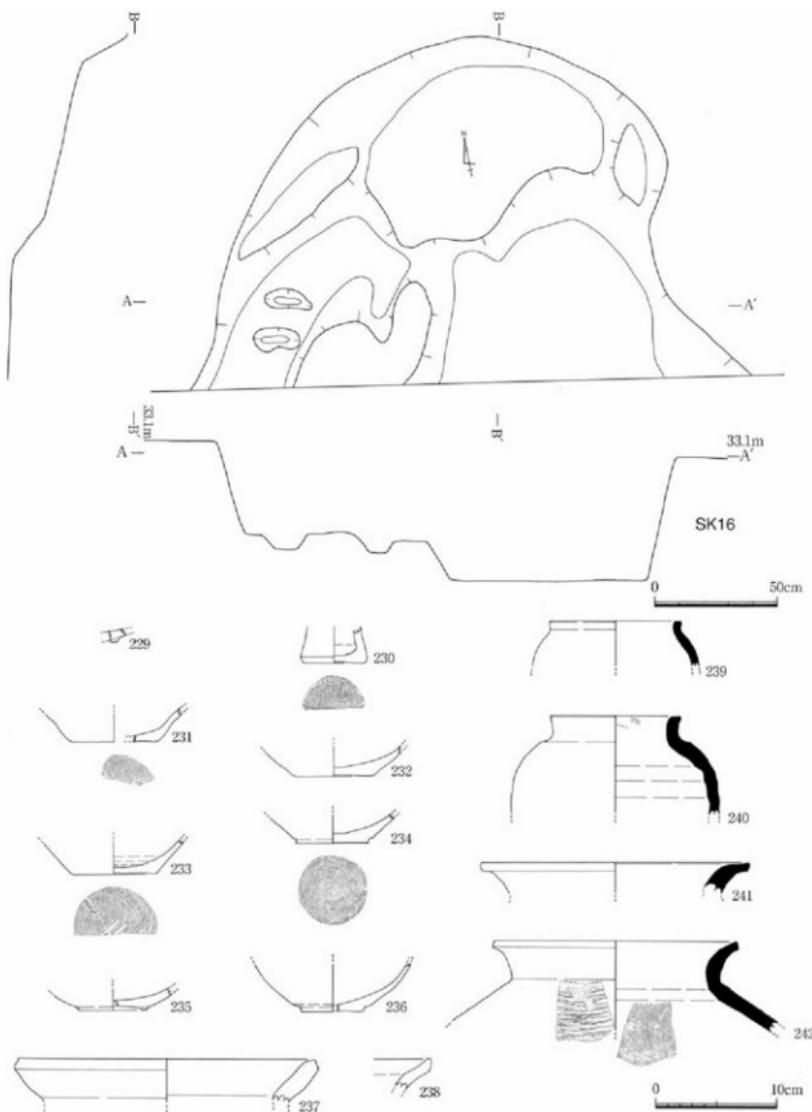
遺構からは板材と15~30cm大の礫を多く検出しており、水留め遺構の可能性も考えられる。



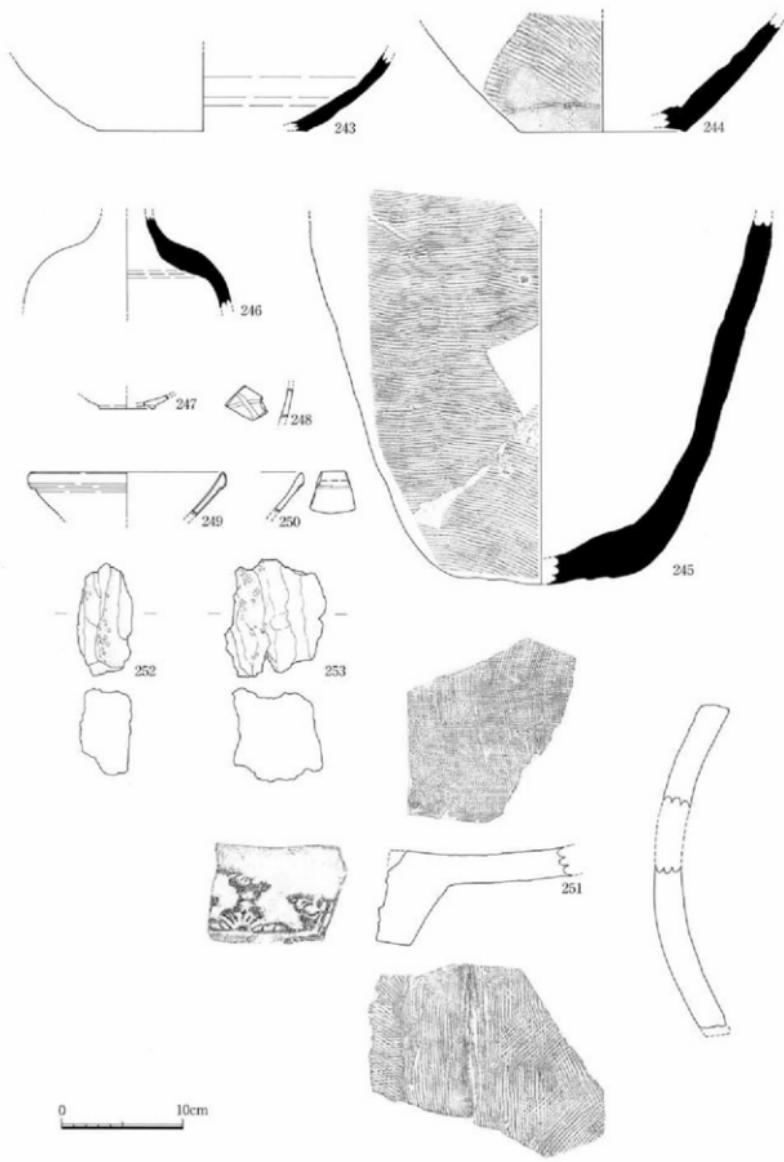
第32図 SK16 1面目遺物出土状況 平面・エレベーション図 (S=1/20) 出土遺物実測図1 (S=1/4)



第33図 SK16 2面目遺物出土状況 平面・エレベーション図 (S=1/20) 出土遺物実測図2 (S=1/4)



第34図 SK16 完掘状況 平面・エレベーション図 (S=1/20) 出土遺物実測図3 (S=1/4)

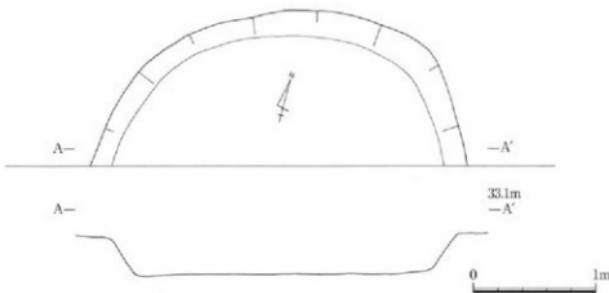


第35図 SK16 出土遺物実測図4 (S=1/4)

SK17（第36図）

調査区（I区下段）の南端（K12/L12グリッド）に位置する。南側は調査区外の為、未検出である。検出高は32.94mを測る。平面形態は現状で楕円形状を呈し、径3.45m、深さ1.40mを測る。断面形態は逆台形状を呈し、床面の形状はほぼ水平である。

遺物は口縁・底部（回転糸切り）を含む土師器片120点と、口縁部を含む須恵器片7点を出土しており、土師器片の多くは摩耗している。他に混入と考えられる近世陶磁器片1点を出土している。

第36図 SK17 平面・エレベーション図 ($S=1/40$)

(4) 溝 (SD)

SD1（第37図）

調査区（I区上段）の北端（M1/N1グリッド）に位置する。両端は調査区外へ続いている。検出高は北端で34.18m、東端で34.15mを測る。主軸方向はN-54°-Wで、僅かに東端を振っている。検出規模は 2.90×0.30 m、床面高は北端で33.95m、東端で33.89mを測る。断面形態は逆台形状を呈し、最深部で27cmを測る。遺構は旧表土直下より掘り込まれ、底面に疊が確認された。

遺物は瓦片（近代以降）1点を出土している。口縁部を含む土師器片11点と、瓦質土器片1点、瓦片（布目痕）1点も出土しているが、土師器片の多くは摩耗しており、溝が機能した時期以外の遺物だと考えられる。近世以降の暗渠の可能性が考えられる遺構である。

SD2（第37図）

調査区（I区上段）の北端（M1/N0・1グリッド）に位置する。両端は調査区外へ続いている。検出高は北・東端とともに34.15mを測る。主軸方向はN-30°-Wで、ほぼ直線状に検出している。検出規模は 7.70×0.26 m、床面高は北端で34.11m、東端で34.08mを測る。断面形態は逆台形状を呈し、最深部で11cmを測る。

遺物は近世陶磁器片1点を出土している。図示したものは瓦（254・255）、窯壁片（256）であるが、周辺から検出された掘建柱建物跡等の軸方向が一致せず、近世以降の暗渠の可能性が考えられる遺構である。

SD3（第37図）

調査区（I区上段）の北端（K0・1/L0グリッド）に位置する。北端は調査区外へ続いている。

検出高は北端で34.15m、南端で34.12mを測る。主軸方向はN-30°-Wで、ほぼ直線状に検出している。検出規模は6.56×0.30m、床面高は北端で33.70m、南端で33.76mを測る。断面形態は箱形状を呈し、最深部で52cmを測る。

遺物は摩耗した土師器片（底部）1点と、須恵器片1点、染付を含む近世陶磁器片15点、備前焼片（挿り鉢）2点、瓦片（近代）10点を出土している。主な出土遺物や周辺から検出された掘立柱建物跡等の軸方向が一致しないなど、近世以降の暗渠の可能性が考えられる遺構である。

SD4（第37図）

調査区（I区上段）の北端（J0／K0・1グリッド）に位置する。北端は調査区外へ続いている。検出高は北・南端ともに34.33mを測る。主軸方向はN-30°-Wで、ほぼ直線状に検出している。検出規模は4.35×0.30m、床面高は北端で34.23m、南端で34.29mを測る。断面形態は逆台形状を呈し、最深部で15cmを測る。

遺物は口縁・底部（回転糸切り）を含む土師器片76点と、瓦片（布目痕）1点、近世陶磁器片1点を出土しており、土師器片の多くは摩耗している。図示したものは土師器の小皿（257）、壺（258）、羽釜（259）、瓦質土器の羽釜（260）、瓦（261）であるが、付近に位置するSD2・3（近世以降の暗渠の可能性あり）と軸方向が同一であり、出土遺物との関係を含めて、時期・性格等については検討を要する。

SD5（第38図）

調査区（I区下段）の東側（M5・6／N6グリッド）に位置する。北端は未検出であり、東端は調査区外へ続いている。検出高は北端で33.13m、東端で33.04mを測る。北端からN-10°-Eで約4.0m検出し、N-65°-Wで弧を描き東端に至る。SK11・12を切っている。検出規模は8.63×0.43m、床面高は北端で33.08m、東端で32.84mを測る。断面形態は逆台形状を呈し、最深部で21cmを測る。

遺物は口縁・底部（回転糸切り）を含む土師器片4点を出土しており、多くは摩耗している。底部の1点は輪高台状を呈している。図示したものは土師器の壺（262～264）、須恵器の蓋（265）である。遺物から12～13世紀頃の遺構と考えられ、切り合い関係にある土坑とは僅かな時期差があると考えられる。

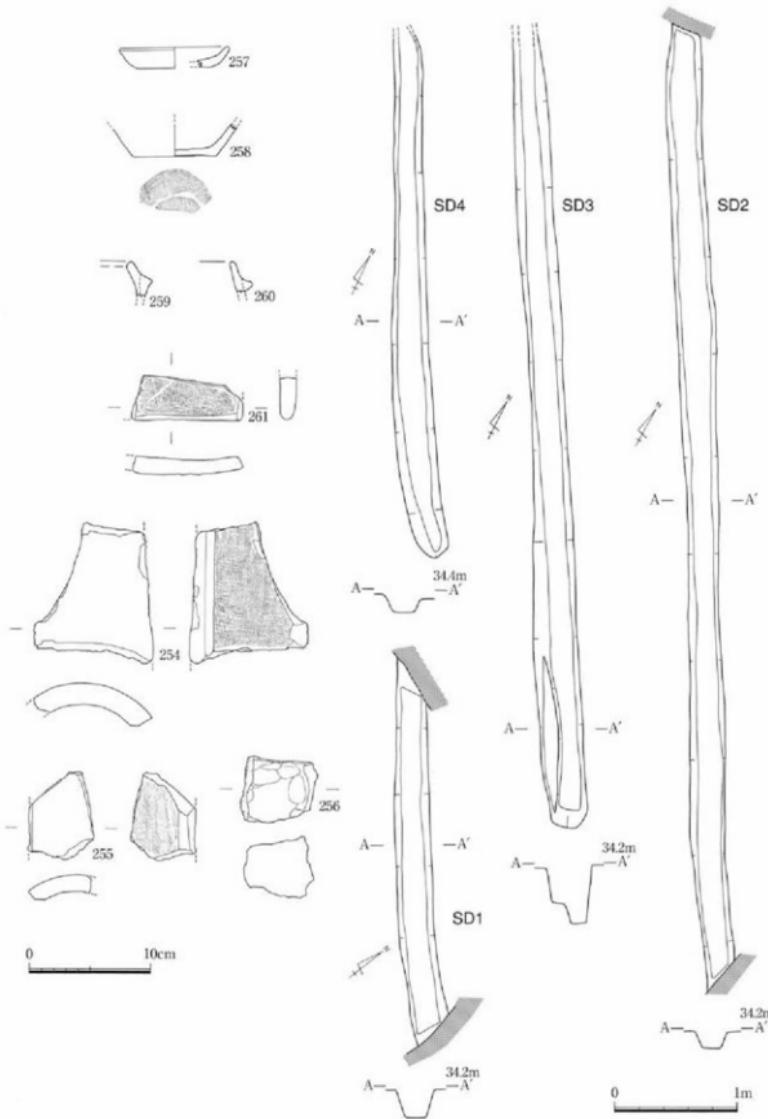
SD6（第38図）

調査区（I区下段）の中央（K6／L6グリッド）に位置する。東端は未検出であり、西端はTRにより切られている。検出高は東端で33.24m、西端で33.22mを測る。主軸方向はN-63°-Eで、ほぼ直線状に検出している。検出規模は2.37×0.38m、床面高は東端で33.19m、西端で33.17mを測る。断面形態は皿状を呈し、最深部で9cmを測る。

遺物は出土していない。隣接するSD7～9と軸方向がほぼ同一であり、皿状遺構の可能性も考えられる。

SD7（第38図）

調査区（I区下段）の中央（K6／L5・6／M5グリッド）に位置する。東端は未検出であり、西端はTRにより切られている。検出高は東端で33.12m、西端で33.24mを測る。主軸方向はN-60°-Eで、ほぼ直線状に検出している。検出規模は11.80×0.36m、床面高は東端で33.07m、西端で33.13mを測る。断面形態は皿状を呈し、最深部で11cmを測る。



第37図 SD1~4平面・エレベーション図 (S=1/40) SD2・4出土遺物実測図 (S=1/4)

254 ~ 256 (SD2) 257 ~ 261 (SD4)

遺物は口縁・底部（回転糸切り）を含む土師器片10点を出土しており、多くは摩耗している。隣接するSD6~9と軸方向がほぼ同一であり、畝状遺構の可能性も考えられる。

SD8（第38図）

調査区（I区下段）の中央（K6グリッド）に位置する。東端は未検出であり、西端はTRにより切られている。検出高は東端で33.24m、西端で33.27mを測る。主軸方向はN-61°-Eで、ほぼ直線状に検出している。検出規模は2.50×0.25m、床面高は東端で33.20m、西端で33.23mを測る。断面形態は皿状を呈し、最深部で4cmを測る。

遺物は出土していない。隣接するSD6~9と軸方向がほぼ同一であり、畝状遺構の可能性も考えられる。

SD9（第38図）

調査区（I区下段）の中央（K6/L5・6グリッド）に位置する。東端は未検出であり、西端はTRにより切られている。検出高は東端で33.23m、西端で33.27mを測る。主軸方向はN-62°-Eで、ほぼ直線状に検出している。検出規模は8.08×0.27m、床面高は東端で33.21m、西端で33.24mを測る。断面形態は皿状を呈し、最深部で5cmを測る。遺物は底部を含む土師器片5点と、須恵器片1点、瓦質土器片1点を出土しており、土師器片と瓦質土器片は摩耗している。隣接するSD6~8と軸方向がほぼ同一であり、畝状遺構の可能性も考えられる。

SD10（第39図）

調査区（I区下段）の南側（K9・10/L9グリッド）に位置する。東端はTRに切られている。検出高は東端で33.11m、北端で33.14mを測る。主軸方向はN-57°-Eで、北側で僅かに弧を描き検出を終える。SR3を切っているが、SB5との前後関係は不明である。検出規模は7.60×0.38m、床面高は東・北端ともに32.99mを測る。断面形態は逆台形状を呈し、最深部は17cmを測る。埋土は灰色シルトである。

遺物は口縁・底部（回転糸切り）を含む土師器片32点と、須恵器片3点を出土しており、土師器片の多くは摩耗している。図示したのは土師器の小皿（266・267）、鉢（268）である。

SD11（第39図）

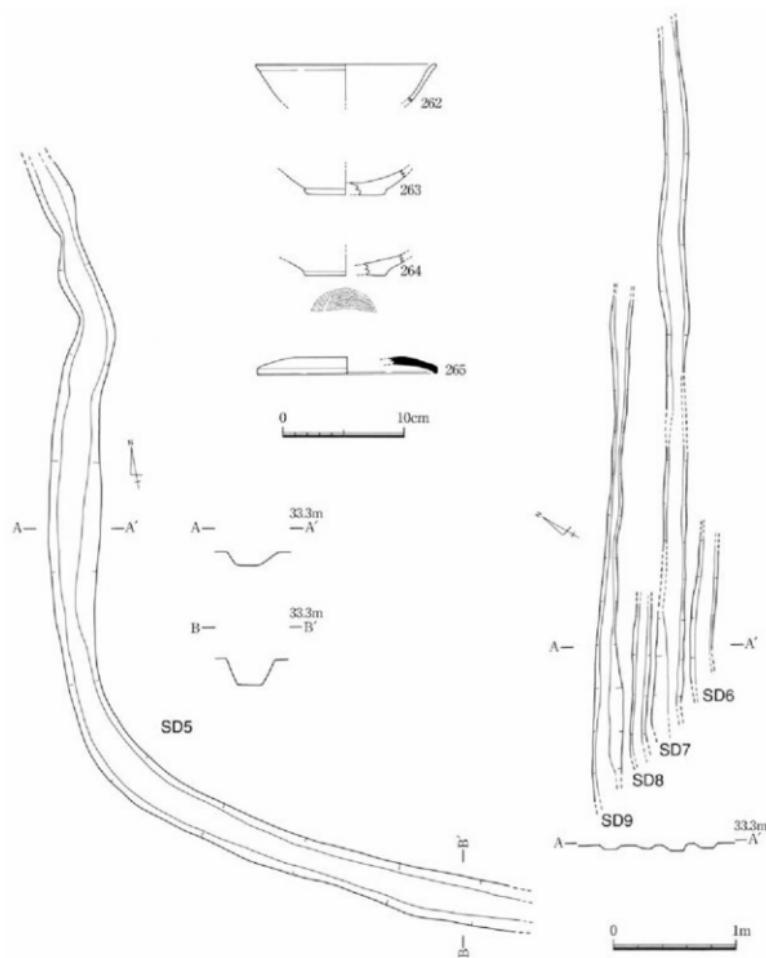
調査区（I区下段）の南側（I9/J9・10グリッド）に位置する。北端は未検出である。検出高は北端で33.25m、南端で33.19mを測る。主軸方向はN-14°-Wで、ほぼ直線状に検出している。掘建柱建物跡（SB6）を含むピット3個に切られている。検出規模は7.00×0.32m、床面高は北・南端とともに33.17mを測る。断面形態は皿状を呈し、最深部は8cmを測る。

遺物は出土していない。

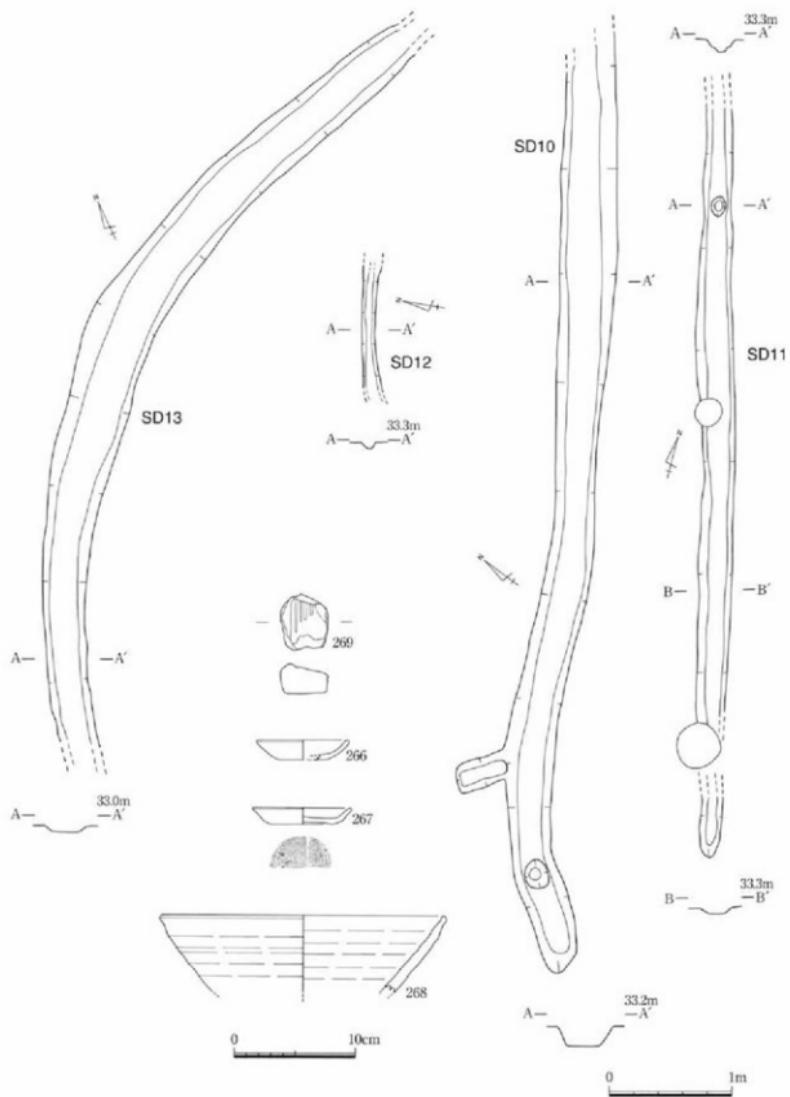
SD12（第39図）

調査区（I区下段）の南側（I9・10グリッド）に位置する。両端は未検出である。検出高は東端で33.28m、西端で33.27mを測る。主軸方向はN-78°-Eで、ほぼ直線状に検出している。検出規模は1.09×0.15m、床面高は東端で33.21m、西端で33.20mを測る。断面形態は逆台形状を呈し、最深部で5cmを測る。

遺物は煉瓦片（近代）1点を出土している。



第38図 SD5~9平面・エレベーション図 (S=1/40) SD5出土遺物実測図 (S=1/4)



第39図 SD10～13平面・エレベーション図 (S=1/40) SD10・13出土遺物実測図 (S=1/4)

266～268 (SD10) 269 (SD13)

SD13 (第39図)

調査区（I区下段）の南側（H11・12／II1グリッド）に位置する。両端は未検出である。検出高は東端で32.99m、南端で32.91mを測る。主軸方向は東端からN-78°-Eで約2.5m検出し、N-27°-Eで弧を描き東端に至る。検出規模は6.65×0.40m、床面高は東端で32.92m、南端で32.88mを測る。断面形態は皿状を呈し、最深部で10cmを測る。埋土は灰色シルトである。

遺物は口縁・底部（回転糸切り）を含む土師器片13点と、須恵器片1点を出土しており、土師器片の多くは摩耗している。図示したものは窯業片（269）である。

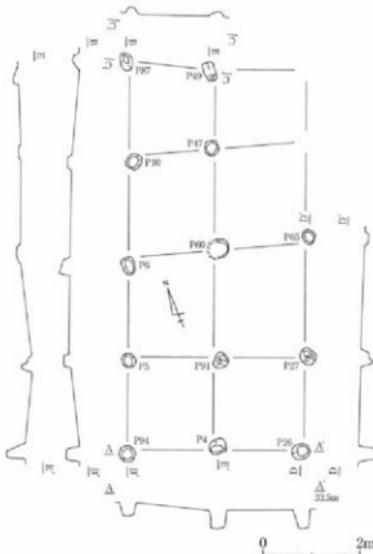
(5) 掘立柱建物（SB）・柵列（SA）・柱穴等（P）

SB1 (第40・41図)

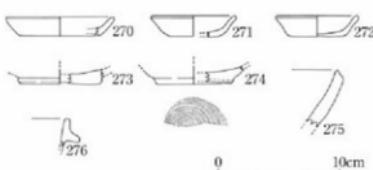
調査区（I区上段）の北側（L0・1・2／M0・1・2グリッド）に位置する。SK2・SB2との切り合い関係は不明である。検出高は34.12～34.33mを測る。棟方向はN-22°-Eである。検出規模は梁間1×桁行4、梁間3.6m×桁行8.0mを測る。柱間寸法は梁間1.8m、桁行1.5～2.3mを測る。柱穴数は13で、北東隅の柱穴は未検出と考えられる。柱穴の規模は径28～39cm、深さ8～39cmを測る。

遺物はP4から口縁・底部を含む土師器片29点、P5から土師器片1点、P6から土師器片7点、P10から土師器片1点、P26から底部を含む土師器片8点、P27から土師器片3点、P87から土師器片8点、P94から土師器片2点をそれぞれ出土している。底部は回転糸切りで、土師器片の多くは摩耗している。図示したものはP4出土の土師器の椀（273）、P5出土の土師器の小皿（270）、P6出土の瓦質土器の羽釜（276）、P26出土の土師器の小皿（271・272）、椀（274）、P94出土の瓦質土器の鉢（275）である。遺物から13世紀頃の遺構と考えられる。

尚、P5は当遺構と重複して検出しているSB2を構成する柱穴と検出場所が一致しており、建設替え等が行われた可能性を含んでいる。



第40図 SB1 平面・エレベーション図 (S=1/100)



第41図 SB1 出土遺物実測図 (S=1/4)

SB2 (第42図)

調査区（I 区上段）の北側 ($L_0 \cdot 1 / M_0 \cdot 1$ グリッド) に位置する。SB1との切り合い関係は不明である。検出高は34.12~34.19mを測る。棟方向はN-13°-Wである。検出規模は梁間2×桁行3、梁間3.2m×桁行4.8mを測る。柱間寸法は梁間1.2~2.2m、桁行1.3~2.0mを測る。柱穴数は10である。柱穴の規模は径22~34cm、深さ6~25cmを測る。

遺物はP5から土師器片1点、P12から土師器片3点、P38から窯壁片1点をそれぞれ出土している。

尚、P5は当遺構と重複して検出しているSB1を構成する柱穴と検出場所が一致しており、建て替え等が行われた可能性を含んでいる。

SB3 (第42図)

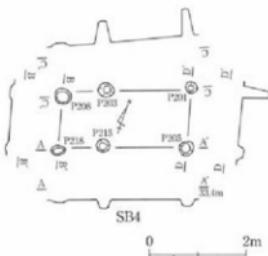
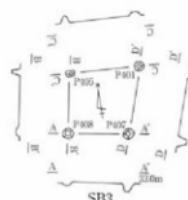
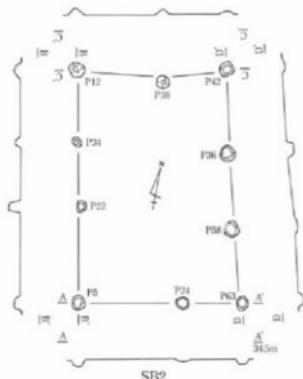
調査区（I 区下段）の中央東寄り (L_7 / M_7 グリッド) に位置する。検出高は32.76~32.81mを測る。棟方向はN-10°-Eである。検出規模は梁間1×桁行1、梁間1.3m×桁行1.3mを測る。柱間寸法は梁間1.3m、桁行1.3mを測る。柱穴数は4である。柱穴の規模は径18~24cm、深さ9~19cmを測る。

遺物は出土していない。当遺構はSE1に伴う可能性が考えられる。

SB4 (第42図)

調査区（I 区下段）の中央南寄り ($K_7 \cdot 8 / L_7 \cdot 8$ グリッド) に位置する。SK16との切り合い関係は不明である。検出高は33.13~33.18mを測る。棟方向はN-68°-Eである。検出規模は梁間1×桁行2、梁間1.2m×桁行2.6mを測る。柱間寸法は梁間1.2m、桁行0.9~1.7mを測る。柱穴数は6である。柱穴の規模は径25~35cm、深さ5~57cmを測る。

遺物はP201から口縁部を含む土師器片3点、P205から底部を含む土師器片6点と須恵器片1点、P215から瓦質土器片1点、口縁・底部を含む土師器片4点をそれぞれ出土している。底部は回転系切りで、土師器片の多くは摩耗している。



第42図

SB2~4 平面・エレベーション図
(S=1/100)

SB5 (第43図)

調査区（I区下段）の南側（K9・10グリッド）に位置する。SD10との前後関係は不明である。検出高は33.08～33.16mを測る。棟方向はN-19°-Eである。検出規模は梁間1×桁行2、梁間2.0m×桁行3.7mを測る。柱間寸法は梁間2.0m、桁行1.8～2.3mを測る。柱穴数は5で、南西隅の柱穴は未検出と考えられる。柱穴の規模は径25～56cm、深さ13～34cmを測る。

遺物はP233から口縁・底部を含む土師器片8点と須恵器片2点、P340から土師器片2点、P345から土師器片7点と瓦片1点をそれぞれ出土している。

付近に位置するSB6・7とは棟方向が同軸であり、一連の遺構群の可能性が考えられる。

SB6 (第43図)

調査区（I区下段）の南側（I9・10/J9・10グリッド）に位置する。SD11を切っている。検出高は33.22～33.26mを測る。棟方向はN-19°-Eである。検出規模は梁間1×桁行2、梁間2.3m×桁行4.0mを測る。柱間寸法は梁間2.3m、桁行1.7～2.3mを測る。柱穴数は6である。柱穴の規模は径約22～31cm、深さ約14～28cmを測る。

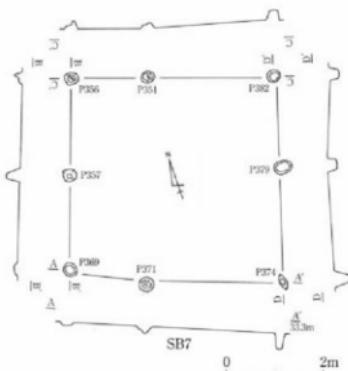
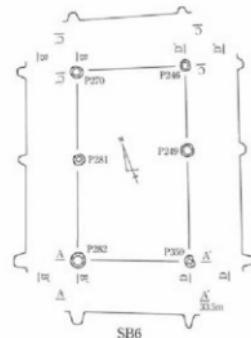
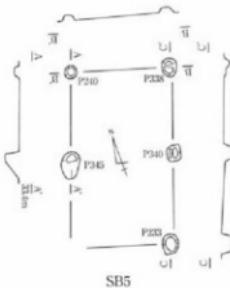
遺物はP249から土師器片6点、P270から土師器片1点、P359から土師器片8点をそれぞれ出土している。底部は回転糸切りで、土師器片の多くは摩耗している。

付近に位置するSB5・7とは棟方向が同軸であり、一連の遺構群の可能性が考えられる。

SB7 (第43・44図)

調査区（I区下段）の南側（J11・12/K11・12グリッド）に位置する。SB8との前後関係は不明である。検出高は32.95～33.07mを測る。棟方向はN-19°-Eである。検出規模は梁間2×桁行2、梁間4.1m×桁行4.3mを測る。柱間寸法は梁間1.9m～2.3m、桁行1.6m～2.6mを測る。柱穴数は8である。柱穴の規模は径27～38cm、深さ8～34cmを測る。

遺物はP356から土師器片6点、P357から土師器片2点、P369から土師器片1点、P371から口縁部を含む土師器片5点、P379から口



第43図 SB5～7 平面・エレベーション図 (S=1/100)

縁・底部（輪高台1点）を含む土師器片28点、P382から土師器片2点と須恵器片20点をそれぞれ出土している。

底部は回転糸切りで、土師器片の多くは摩耗している。図示したものはP379出土の土師器の壺（277）と、P382出土の須恵器の壺（278）である。

付近に位置するSB5・6とは棟方向が同軸であり、一連の遺構群の可能性が考えられる。

SB8（第45図）

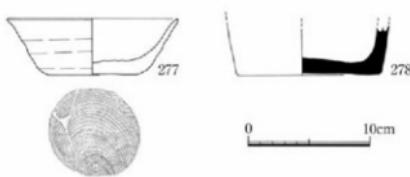
調査区（I区下段）の南側（J11・12/K11・12グリッド）に位置する。SB7との前後関係は不明である。検出高は33.01～33.08mを測る。棟方向はN・82°・Eである。検出規模は梁間1×桁行2、梁間3.1m×桁行4.4mを測る。柱間寸法は梁間3.1m、桁行2.2mを測る。柱穴数は5であるが、北東隅の柱穴は未検出と考えられる。柱穴の規模は径28～76cm、深さ7～42cmを測る。

遺物はP349から土師器片3点、P367から瓦片1点をそれぞれ出土している。

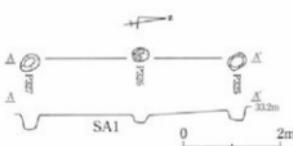
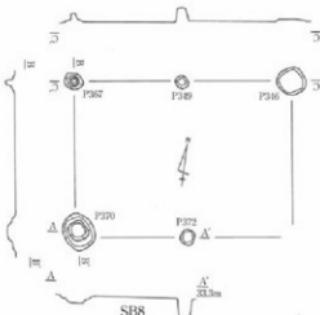
SA1（第45図）

調査区（I区下段）の中央東側（N7・8グリッド）に位置する。検出高は32.92～33.02mを測る。主軸方向はN・10°・Eである。検出規模は4.6mを測る。柱間寸法は2.0～2.2mを測る。柱穴数は3であり、南端のP327は土取り跡4の上面から検出している。柱穴の規模は径32～41cm、深さ17～32cmを測る。

遺物は出土していない。



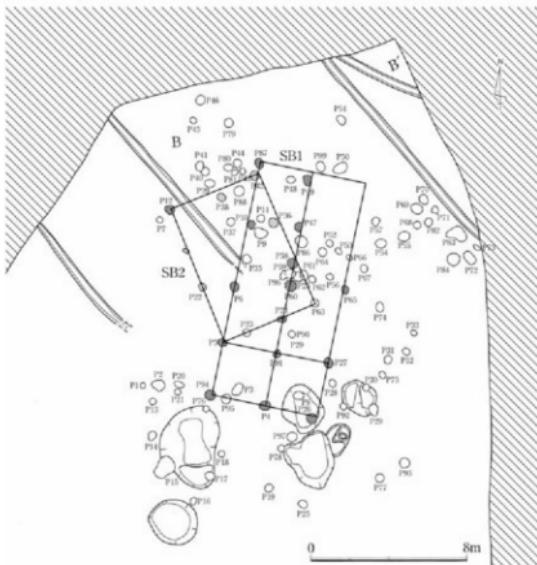
第44図 SB7 出土遺物実測図 (S=1/4)



第45図 SB8・SA1 平面・エレベーション図 (S=1/100)

柱穴等（P）（第46図～48図）

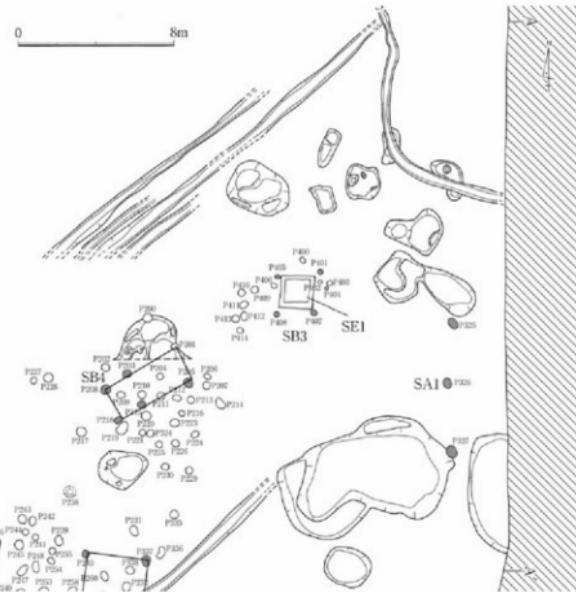
調査区全域から293基のピットを検出した。調査地点ごとに、調査時点の遺構番号と遺構の規模、出土遺物について一覧表にまとめて提示する。ピットからの出土遺物は細片が多く、時期が判断可能な遺物は、すべて古代末から中世前期にかけての遺物である。



第46図 I区上段遺構と遺構(ビット)配置図 (S=1/160)

遺構	遺構内での ビット番号	ビット 番号	短軸(cm)	長軸(cm)	深さ(cm)	ビット 番号	短軸(cm)	長軸(cm)	深さ(cm)	ビット 番号	短軸(cm)	長軸(cm)	深さ(cm)
SB-1	W 1	P-87	26.0	36.5	13.3	P-15	60.0	72.0	27.4	P-59	20.0	30.0	7.4
SB-1	W 2	P-10	29.0	30.0	9.2	P-16	20.0	28.0	38.4	P-61	26.0	30.0	10.6
SB-1	W 3	P-6	26.0	39.0	22.4	P-17	28.0	31.5	22.3	P-62	23.5	25.0	13.1
SB-1	W 4	P-5	26.0	29.0	14.0	P-18	21.0	22.0	12.2	P-64	24.0	26.0	9.0
SB-1	W 5	P-94	32.0	33.0	28.7	P-19	25.5	27.0	9.2	P-66	20.0	21.0	7.3
SB-1	C 1	P-48	25.0	26.0	13.6	P-21	22.0	22.0	7.1	P-67	23.0	28.0	4.9
SB-1	C 2	P-47	29.0	33.0	3.6	P-20	20.0	36.0	8.4	P-68	25.0	26.0	6.5
SB-1	C 3	P-60	25.0	39.0	8.5	P-23	26.0	26.0	10.2	P-69	30.0	38.0	8.1
SB-1	C 4	P-91	26.0	31.0	22.6	P-25	25.0	28.0	16.7	P-70	29.0	43.0	23.1
SB-1	C 5	P-4	28.0	35.0	38.8	P-28	25.0	28.0	16.1	P-71	25.0	30.0	11.9
SB-1	E 3	P-65	23.0	28.0	11.6	P-29	35.0	42.0	23.4	P-72	32.0	47.0	10.9
SB-1	E 4	P-27	30.0	37.0	27.3	P-30	25.0	27.5	5.5	P-73	14.5	36.0	10.2
SB-1	E 5	P-26	34.0	36.0	39.0	P-31	25.0	29.5	19.7	P-74	28.0	32.0	14.4
SB-2	W 1	P-12	29.0	33.0	14.1	P-32	22.0	37.0	16.4	P-75	20.0	22.0	6.2
SB-2	W 2	P-34	16.0	22.0	12.0	P-33	16.5	19.0	20.6	P-76	21.0	22.0	23.6
SB-2	W 3	P-22	21.0	24.0	24.5	P-35	29.0	30.0	9.3	P-77	28.0	28.0	7.4
SB-2	C 1	P-38	25.0	27.0	11.8	P-37	27.0	30.0	10.8	P-78	21.0	22.0	7.4
SB-2	C 4	P-24	24.0	31.0	5.3	P-39	28.0	38.5	9.2	P-79	27.5	30.0	63.1
SB-2	E 1	P-42	28.5	29.0	6.8	P-40	25.0	27.0	36.8	P-80	23.0	30.5	11.8
SB-2	E 2	P-36	30.0	32.0	15.3	P-41	25.0	34.0	30.8	P-81	15.0	26.0	7.2
SB-2	E 3	P-58	30.0	34.0	4.6	P-43	21.0	22.0	3.8	P-82	25.0	25.0	19.8
SB-2	E 4	P-63	23.5	27.0	15.4	P-44	26.0	26.5	8.6	P-83	39.0	62.0	15.3
		P-45	22.0	22.0	5.2	P-84	42.0	43.0	25.7	P-85	28.0	42.0	17.1
		P-46	27.0	30.5	30.5	P-86	37.0	41.0	21.6	P-88	31.0	34.0	21.7
		P-49	24.0	39.0	11.7	P-89	29.0	35.0	17.1	P-90	22.5	25.0	13.2
		P-50	32.0	46.0	19.7	P-92	22.0	26.0	14.3	P-93	35.0	35.0	32.5
		P-51	28.0	36.0	11.2	P-95	33.5	34.0	12.7	P-96	26.0	31.0	16.0
		P-52	23.5	27.0	10.4	P-97	34.0	34.0	30.2				
		P-53	18.0	28.0	9.3								
		P-54	26.5	34.0	14.1								
		P-55	29.0	42.0	6.4								
		P-56	20.5	22.0	9.6								
		P-57	25.0	26.0	4.1								

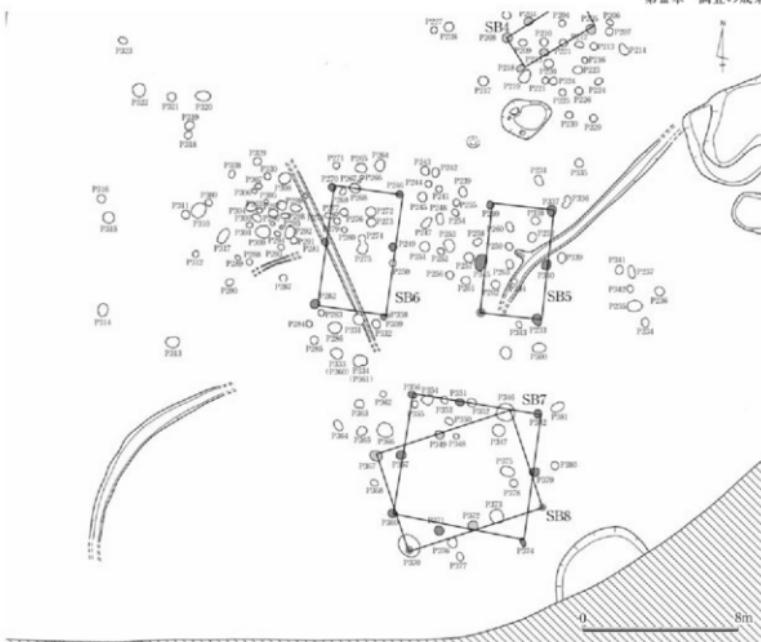
表2 I区ビット計測表(1)



第47図 I 区下段北半部遺構と遺構(ピット)配置図 (S=1/160)

遺構	遺構内での ピット番号	ピット番号	短軸(cm)	長軸(cm)	深さ(cm)	ピット番号	短軸(cm)	長軸(cm)	深さ(cm)	ピット番号	短軸(cm)	長軸(cm)	深さ(cm)
SB-3	W 1	P-405	125	180	17.2	P-211	23.0	25.0	32.5	P-252	21.0	28.0	15.9
SB-3	W 2	P-404	20.5	21.5	7.8	P-212	19.0	29.0	25.2	P-253	30.0	40.0	18.6
SB-3	E 1	P-401	19.0	19.0	8.3	P-213	22.0	26.0	25.6	P-254	22.0	28.0	27.9
SB-3	E 2	P-407	21.0	24.0	18.5	P-214	32.0	42.0	39.9	P-255	25.0	25.0	10.3
SA1	1	P-325	32.0	33.0	28.7	P-216	20.0	22.0	21.9	P-256	24.0	26.0	30.3
SA1	2	P-326	25.0	26.0	13.6	P-217	32.0	33.0	17.5	P-257	28.0	32.0	33.5
SA1	3	P-327	29.0	33.0	3.6	P-219	29.0	48.0	27.3	P-258	21.0	32.0	38.0
SB4	W 1	P-201	22.0	24.5	56.6	P-220	27.0	30.0	16.6	P-259	21.0	26.0	17.2
SB4	W 2	P-203	31.0	34.0	46.9	P-221	20.0	29.5	16.5	P-260	24.0	35.0	18.6
SB4	W 3	P-208	31.0	35.0	7.2	P-223	26.0	26.0	23.4	P-261	25.0	27.0	15.4
SB4	E 1	P-205	30.0	31.0	14.7	P-224	19.5	24.5	12.8	P-262	27.0	27.0	18.2
SB4	E 2	P-215	26.0	29.0	18.8	P-225	25.0	25.0	24.4	P-263	27.0	31.0	16.0
SB4	E 3	P-218	19.5	31.0	4.5	P-226	20.5	23.0	15.1	P-264	30.0	39.0	27.0
		P-227	18.0	22.0	12.5	P-227	28.0	37.0	8.1	P-265	28.0	37.0	8.1
		P-228	28.0	29.0	8.9	P-228	19.0	22.0	17.0	P-266	17.0	42.0	17.0
		P-229	21.0	24.0	16.1	P-229	21.0	24.0	16.1	P-267	9.0	13.0	3.2
		P-230	22.0	23.0	9.6	P-230	22.0	23.0	9.6	P-268	33.0	36.0	18.6
		P-231	25.0	34.0	11.4	P-231	25.0	34.0	11.4	P-269	17.0	31.0	13.0
		P-232	27.0	31.0	21.0	P-232	27.0	31.0	21.0	P-271	21.0	23.0	11.9
		P-233	27.0	29.0	20.5	P-233	27.0	29.0	20.5	P-272	34.0	35.0	21.9
		P-234	27.0	29.0	20.5	P-234	27.0	29.0	20.5	P-273	31.0	31.0	27.0
		P-235	35.0	47.0	18.6	P-235	35.0	47.0	18.6	P-274	26.0	27.0	13.8
		P-236	26.0	27.0	20.9	P-236	26.0	27.0	20.9	P-275	35.0	40.0	19.2
		P-237	20.0	44.0	19.1	P-237	20.0	44.0	19.1	P-276	27.0	28.0	21.1
		P-238	15.0	33.0	21.1	P-238	15.0	33.0	21.1	P-277	12.0	12.0	7.8
		P-239	29.0	33.0	8.4	P-239	29.0	33.0	8.4	P-278	17.0	23.0	15.8
		P-240	22.0	23.0	7.7	P-240	22.0	23.0	7.7	P-279	23.0	25.0	18.5
		P-241	25.0	33.0	19.1	P-241	25.0	33.0	19.1	P-280	19.0	19.0	16.5
		P-242	25.0	33.0	19.1	P-242	25.0	33.0	19.1	P-281	22.5	23.0	23.8
		P-243	27.0	32.0	11.0	P-243	27.0	32.0	11.0	P-282	18.0	22.0	27.5
		P-244	23.0	23.0	10.7	P-244	23.0	23.0	10.7	P-283	23.5	27.0	26.5
		P-245	28.0	35.0	7.7	P-245	28.0	35.0	7.7	P-284	37.0	46.0	24.9
		P-246	24.0	45.0	41.0	P-246	24.0	45.0	41.0	P-285	22.0	24.0	16.7
		P-247	24.0	38.0	17.6	P-247	24.0	38.0	17.6	P-286	21.0	23.0	13.4
		P-248	23.5	38.0	17.6	P-248	23.5	38.0	17.6	P-287	22.0	24.0	16.7
		P-249	23.0	23.0	22.7	P-249	23.0	23.0	22.7	P-288	21.0	23.0	13.4
		P-250	23.0	23.0	22.7	P-250	23.0	23.0	22.7				
		P-251	28.5	30.0	25.5	P-251	34.0	36.0	29.2				

I 区ピット計測表 (2)



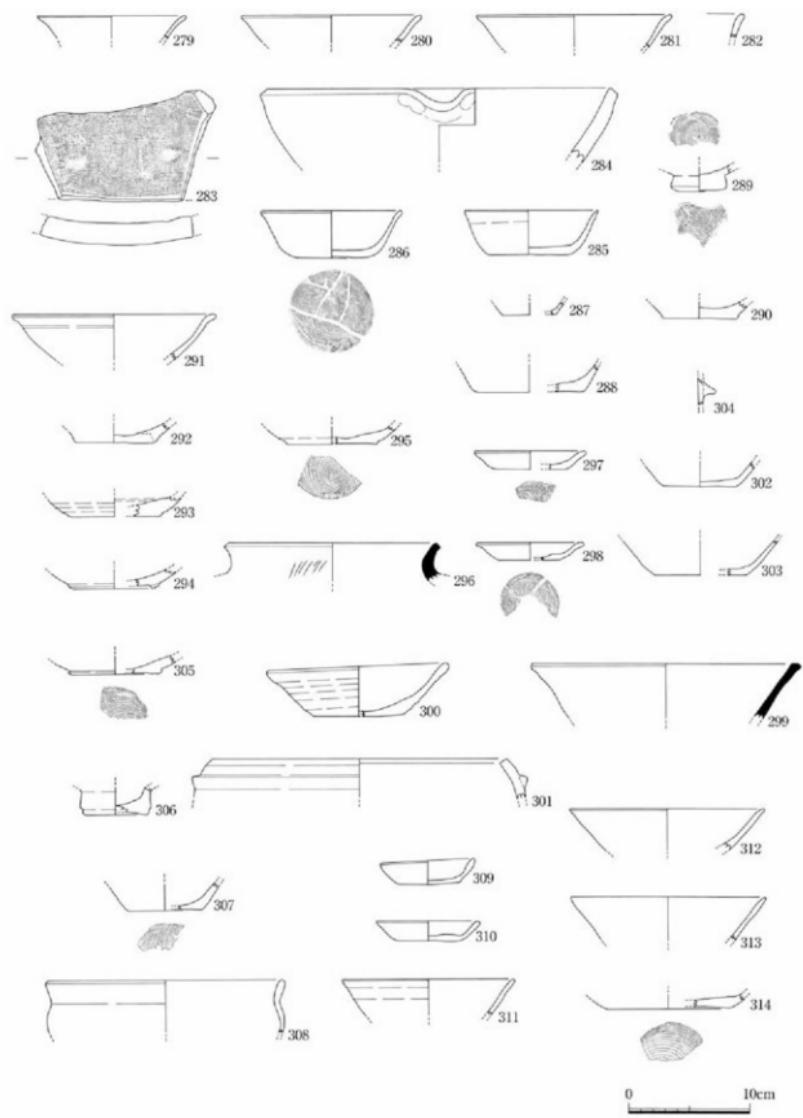
第48図 I 区下段南部遺構と遺構(ピット)配置図(S=1/160)

遺構	遺構内での ピット番号	ピット番号	短軸(cm)	長軸(cm)	深さ(cm)
SB5	W 2	P-345	37.0	56.0	29.9
	E 1	P-337	30.0	38.0	12.1
	E 2	P-340	29.0	34.0	21.0
	E 3	P-233	34.0	39.0	22.9
SB6	W 1	P-270	23.0	25.0	18.5
	W 2	P-281	21.5	22.0	17.5
SB6	W 3	P-282	30.0	31.0	26.1
SB6	E 1	P-246	19.5	24.0	13.2
SB6	E 2	P-249	25.0	25.0	13.6
SB6	E 3	P-359	17.0	26.0	27.8
SB7	W 1	P-356	23.0	28.0	17.2
SB7	W 2	P-357	25.0	27.0	28.7
SB7	W 3	P-369	28.0	30.0	7.8
SB7	C 1	P-351	25.0	27.0	11.1
SB7	C 3	P-371	31.0	32.0	15.9
SB7	E 1	P-382	25.0	28.0	46.0
SB7	E 2	P-379	26.0	38.0	20.1
SB7	E 3	P-374	16.0	33.0	33.4
SB8	W 1	P-346	56.0	56.0	5.6
SB8	W 2	P-349	24.0	28.0	27.8
SB8	W 3	P-367	32.0	39.0	19.3
SB8	E 2	P-372	28.0	32.5	41.7
SB8	E 3	P-370	62.0	76.0	16.1

P-289	12.5	18.0	2.3
P-290	21.0	25.0	6.4
P-291	23.0	29.0	16.2
P-292	35.0	43.0	19.2
P-293	20.0	23.0	18.3
P-294	18.0	19.0	6.7
P-295	13.0	13.0	10.6
P-296	14.5	15.0	3.9
P-297	28.0	30.0	13.9

ピット番号	短軸(cm)	長軸(cm)	深さ(cm)
P-298	20.0	30.0	13.6
P-299	25.0	40.0	13.8
P-300	38.0	46.0	23.7
P-301	18.5	23.5	13.0
P-302	22.0	28.5	11.6
P-303	21.0	24.5	21.4
P-304	28.0	39.0	17.7
P-305	13.0	15.0	4.8
P-306	16.0	21.5	7.3
P-307	23.0	23.5	12.8
P-308	35.0	45.0	20.5
P-309	21.0	23.0	15.7
P-310	42.0	51.0	23.3
P-311	26.0	28.0	12.7
P-312	17.5	21.5	12.2
P-313	33.0	45.0	25.5
P-314	33.0	43.0	16.0
P-315	35.0	38.0	24.3
P-316	24.0	25.0	12.9
P-317	30.0	52.0	11.9
P-318	24.0	28.0	12.3
P-319	25.0	30.0	10.8
P-320	34.0	50.0	13.5
P-321	29.0	31.0	16.0
P-322	40.0	40.0	16.8
P-323	26.0	27.0	10.6
P-324	25.0	28.0	22.4
P-328	18.5	39.0	14.1
P-329	25.0	25.0	8.1
P-330	24.0	24.0	10.2
P-331	46.0	47.0	28.7
P-332	30.0	31.0	36.1
P-333	35.0	41.0	16.4

表2 I 区ピット計測表(3)



第49図 ピット出土遺物実測図 (S=1/4)

(6) 下層の遺構・土取り跡

下層検出の遺構は土取り跡4基と自然流路3条であり、遺構の配置を第50図に示した。I区南東端に集まっており、グリッドJ～N、7～11の範囲に分布している。自然流路は北西方向から南東方向に向かって流れている。

土取り跡1（第51図）

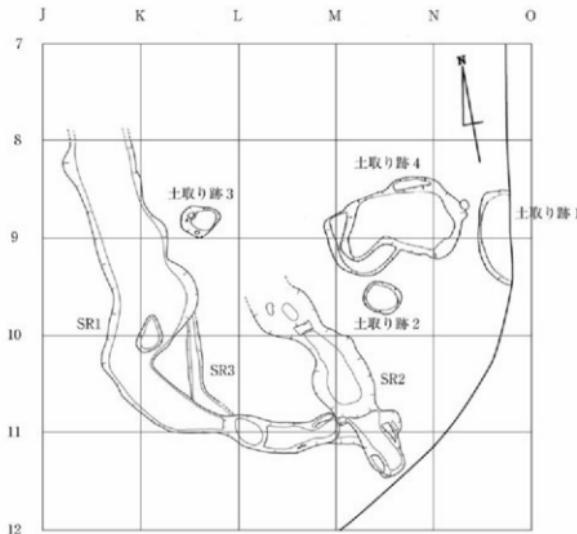
調査区（I区下段）の東端南側（N8・9グリッド）に位置する土坑である。東側は調査区外の為未検出である。検出高は32.57mを測る。平面形態は長楕円形状を呈し、径3.80m、深さ20cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、壁面は斜めに立ち上がる。埋土は黒茶褐色腐葉土である。

遺物の出土は確認していない。

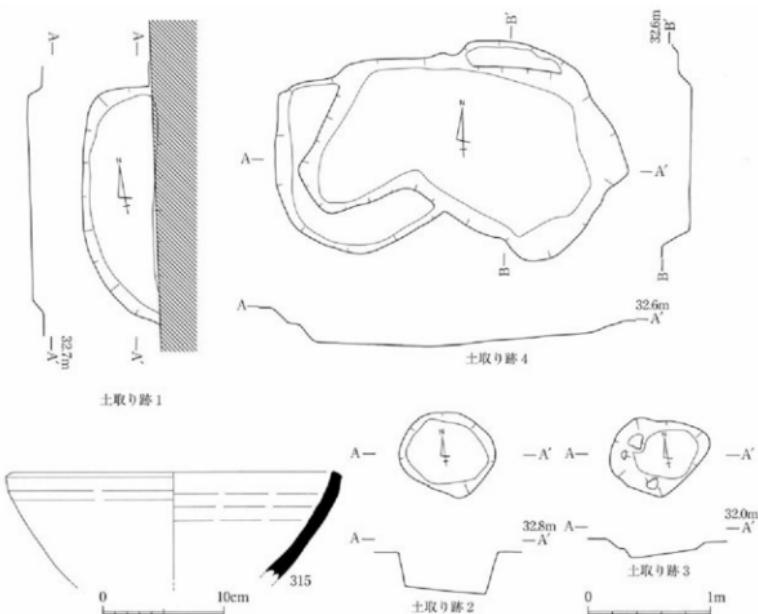
土取り跡2（第51図）

調査区（I区下段）の南側東寄り（M9グリッド）に位置する土坑である。検出高は32.63mを測る。平面形態は歪な円形状を呈し、径1.50m、深さ58～70cmを測る。断面形態は箱形状を呈し、床面は東側に向かって傾斜している。埋土は黒茶褐色腐葉土である。

遺物の出土は確認していない。



第50図 I区下層遺構位置図 (S=1/200)



第51図 土取り跡1~4平面・エレベーション図 (S=1/40) 土取り跡4出土物実測図 (S=1/4)

土取り跡3（第51図）

調査区（I区下段）の中央南寄り（K8グリッド）に位置する土坑である。検出高は32.81mを測る。平面形態は梢円形状を呈し、長径1.54m、短径1.26m、深さ18~31cmを測る。断面形態は逆台形状を呈し、床面は西側に向かって傾斜している。埋土は黒褐色腐葉土である。

遺物の出土は確認していない。

土取り跡4（第51図）

調査区（I区下段）の東側南寄り（L8・9/M8・9/N8・9グリッド）に位置する土坑である。検出高は32.59mを測る。平面形態は不整梢円形状を呈し、長径3.48m、短径3.00m、深さ29~54cmを測る。断面形態は皿状を呈し、床面は西側に向かって傾斜している。西側に段部を有し、形状から切り合いの可能性が考えられる。埋土は黒茶褐色腐葉土である。

図示したものは須恵器の鉢（315）である。

(7) 下層の遺構・自然流路 (SR)

SR1 (第52図)

調査区（I区下段）の南側（L9・10/M10・11グリッド）に位置する。北端は未検出である。検出高は北端で32.95m、南端で32.90mを測る。主軸方向はN-23°-Wで、ほぼ直線状に検出している。SD10に切られ、SR3を切っている。検出規模は9.52×2.00m、床面高は北端で32.62m、南端で32.38mを測る。断面形態は逆台形状を呈し、最深部で68cmを測る。

遺物は出土していない。

SR2 (第53図)

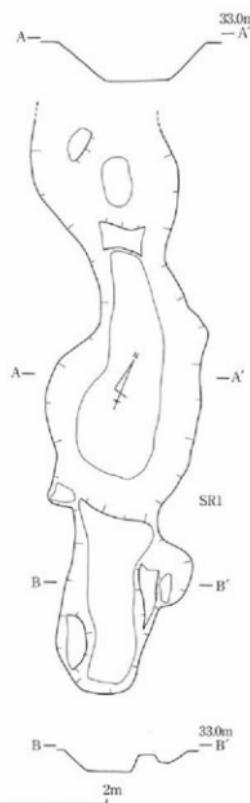
調査区（I区下段）の南側（J8・9・10/K8・9・10・/L10・11グリッド）に位置する。北端は未検出である。検出高は北端で32.88m、東端で32.93mを測る。主軸方向は北端からN-6°-Wで約11.5m検出し、N-73°-Wで東端を東へ振る。SR3を切っている。検出規模は21.60×1.76m、床面高は東端で32.63m、北端は不明である。断面形態は逆台形状を呈し、最深部で59cmを測る。埋土は灰褐色砂である。

遺物は弥生土器片13点と石包丁の未製品1点を出土している。他に口縁・底部（回転糸切り）を含む土師器片20点と、須恵器片1点、瓦質土器片（羽釜）12点を出土している。土師器片の多くは摩耗しており、瓦質土器片（羽釜）は1個体分の可能性が考えられる。

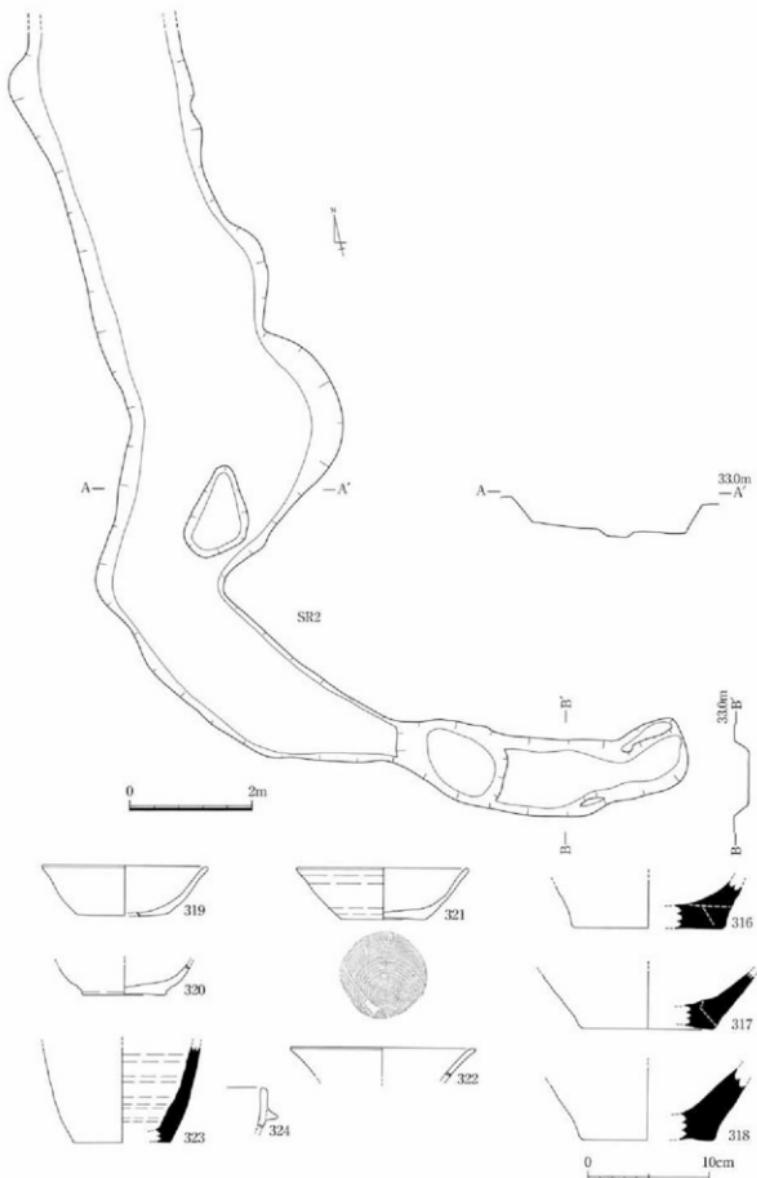
図示したものは弥生土器の底部（316～318）、土師器の壺（319～322）、須恵器の壺（323）、瓦質土器の羽釜（324）であるが、土師器・須恵器・瓦質土器片の多くは検出面直上より出土しており、遺構に伴わない可能性が考えられる。切り合い関係や出土遺物等から、時期が大きく異なる可能性を含んでいる遺構である。

SR3 (第54図)

調査区（I区下段）の南側（K9・10・11/L10・11/M10・11グリッド）に位置する。北端は未検出である。検出高は北端で32.81m、東端で32.64mを測る。主軸方向は北端からN-6°-Eで約3.5m検出し、N-88°-Wで東端を東へ振る。SR1・2に切られている。検出規模は12.48×0.54m、床面高は



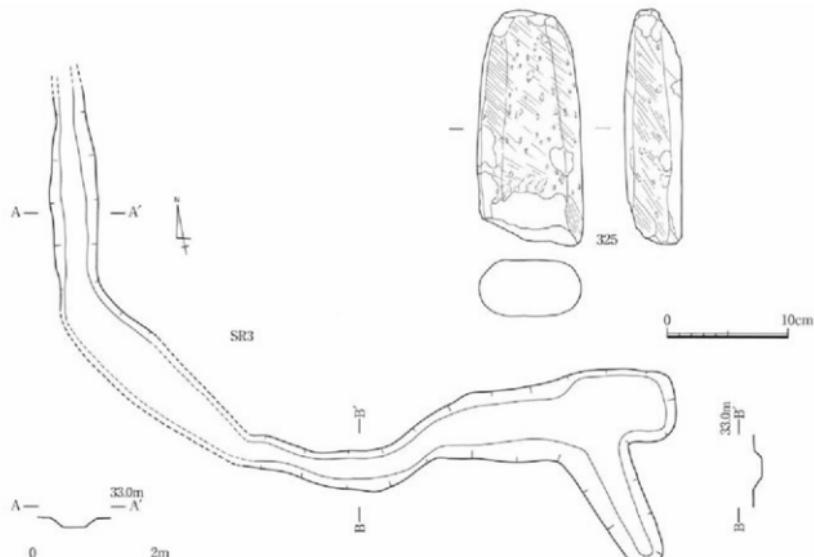
第52図 SR1 平面・エレベーション図 (S=1/80)



第53図 SR2 平面・エレベーション図 ($S=1/80$) 出土遺物実測図 ($S=1/4$)

北端で32.76m、東端で32.57mを測る。断面形態は逆台形状を呈し、最深部で25cmを測る。埋土は灰茶褐色砂である。

遺物は弥生土器片（底部）2点を出土している。図示したものは弥生時代の石斧（325）である。切り合い関係や遺物等から弥生時代の溝状遺構の可能性が考えられる。



第54図 SR3 平面・エレベーション図 ($S=1/80$) 出土遺物実測図 ($S=1/4$)

(6) 包含層出土遺物

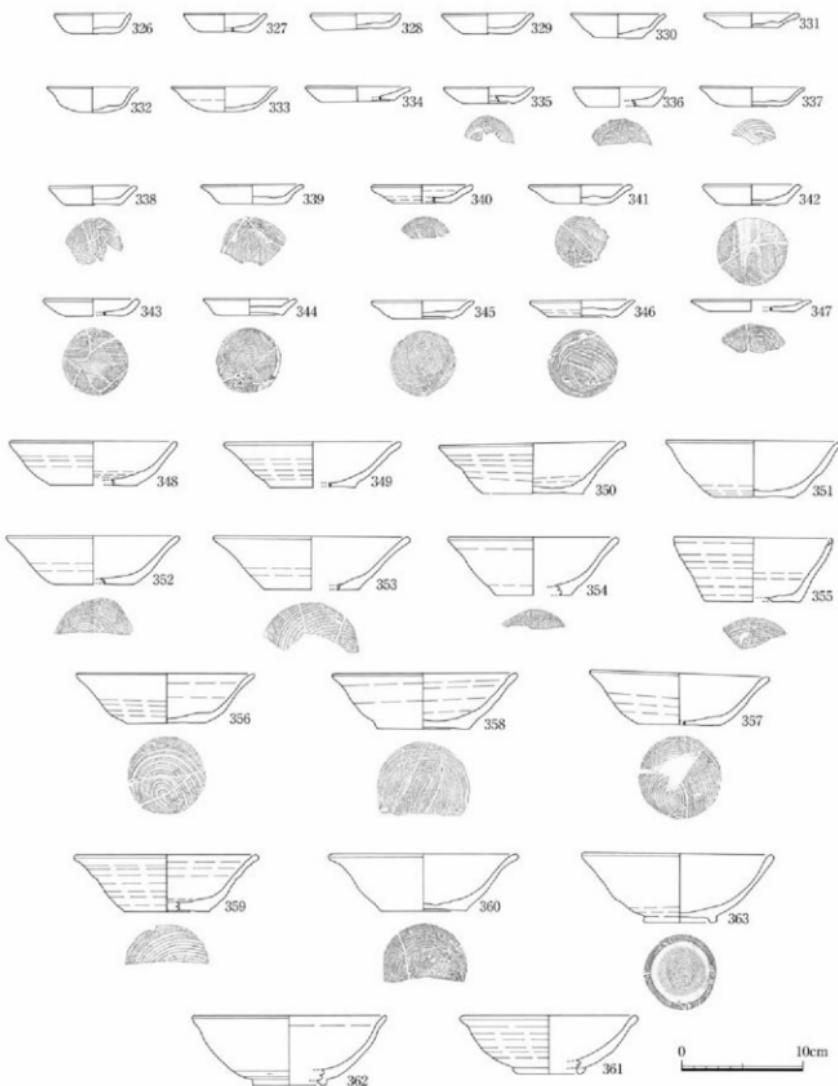
当遺跡の包含層出土遺物は、土師器・須恵器片を中心にコンテナケース約10箱分を出土しており、土師器片の多くは摩耗している。包含層出土遺物に層位による時期差を看取できなかったため、当稿においては包含層一括資料として扱い、器種ごとに分類し、図示し得た個々の遺物の特徴を概説していくこととする。

土師器（小皿・壺・椀・甕）

小皿（第55図）

326～347は小皿である。全て回転糸切りで、口径5.5～9.4cm、器高0.9～2.1cm、底径4.0～7.0cmを測る。

326はVI～VII層から出土し、口径6.2cm、器高1.7cm、底径4.4cmを測る。色調は浅黄橙色で赤色風化礫を含んでおり、全体的に摩耗している。327はI区のV～VI層から出土し、口径5.5cm、器高1.5cm、底径4.0cmを測る。色調にはぶい橙色で赤色風化礫を含み、内外面横ナデ、平行圧痕が認められる。328はXII層から出土し、口径7.2cm、器高1.4cm、底径5.2cmを測り、色調は浅黄橙色でチャートの粗粒砂を含んでおり、全体的に摩耗している。329は口径7.4cm、器高1.7cm、底径4.0cmを測り、色調は浅黄橙色でチャート、赤色風化礫の細・粗粒砂を含んでおり、全体的に摩耗している。330は口径7.6cm、器高2.0cm、底径4.0cmを測り、色調は浅黄橙色でチャート、赤色風化礫の細・粗粒砂を含んでおり、全体的に摩耗している。331はIV～V層から出土し、口径7.5cm、器高1.2cm、底径4.5cmを測る。色調は浅黄橙色で赤色風化礫の粗粒砂を含む。332は口径7.2cm、器高2.1cm、底径5.0cmを測り、色調は浅黄橙色で精選された胎土を用い、平行圧痕が認められる。333はIV～V層から出土し、口径8.4cm、器高2.1cm、底径5.0cmを測る。色調は灰白色で精選された胎土を用い、平行圧痕が認められる。334は口径8.4cm、器高1.5cm、底径6.0cmを測り、色調は灰白色で内外面に横ナデが認められる。335はIII～IV層から出土し、口径は7.2cm、器高1.3cm、底径4.2cmを測る。色調にはぶい橙色で精選された胎土を用いている。336はVII～VIII層から出土し、口径は7.4cm、器高1.6cm、底径5.5cmを測る。色調にはぶい橙色で精選された胎土を用いている。337はIV～V層から出土し、口径8.4cm、器高1.6cm、底径4.0cmを測る。色調は浅黄橙色で精選された胎土を用いている。338はIII～IV層から出土し、口径7.0cm、器高1.6cm、底径4.6cmを測る。色調は灰白色で精選された胎土を用い、平行圧痕が認められる。339はIV～V層から出土し、口径8.0cm、器高1.6cm、底径5.4cmを測る。色調は灰白色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデ、平行圧痕が認められる。340はVII～VIII層から出土し、口径8.2cm、器高1.5cm、底径4.6cmを測る。色調は橙色でチャートの粗粒砂を含み、平行圧痕が認められる。341はIV～V層から出土し、口径8.2cm、器高1.7cm、底径4.5cmを測る。色調は精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められる。342は口径7.6cm、器高1.7cm、底径5.6cmを測り、色調は浅黄橙色でチャートの粗粒砂を含み、平行圧痕が認められる。343はIV～V層から出土し、口径7.5cm、器高1.5cm、底径4.8cmを測る。色調は浅黄橙色でチャート他の粗粒砂を含み、内外面横ナデ、平行圧痕が認められる。344はIV～V層から出土し、口径7.3cm、器高1.4cm、底径5.4cmを測る。色調は灰白色で精選された胎土を用いている。345はIV～V層から出土し、口径8.0cm、器高1.5cm、底径5.0cmを測る。色調は灰白色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められる。346はIX層から出土し、口径8.3cm、器高1.4cm、



第55図 I 区包含層出土遺物実測図 1 (S=1/4)

底径5.5cmを測る。色調は灰白色で細粒砂を含み、内外面横ナデ、平行圧痕が認められる。347は口径9.4cm、器高0.9cm、底径7.0cmを測り、色調は灰白色で精選された胎土を用い、平行圧痕が認められる。坏（第55図）

348～360は坏であり、364～378は底部である。全て回転糸切りで、口径13.4～15.6cm、器高3.6～5.3cm、底径5.4～8.2cmを測る。

348はⅦ～Ⅸ層から出土し、口径13.4cm、器高3.6cm、底径7.2cmを測る。色調はにぶい赤橙色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められる。全体的に摩耗している。349はⅥ～Ⅸ層から出土し、口径14.0cm、器高3.7cm、底径7.0cmを測る。色調は浅黄橙色で赤色風化礫の細粒砂を含み、内外面に横ナデが認められる。350はⅣ～V層から出土し、口径14.9cm、器高4.4cm、底径8.2cmを測る。色調は浅黄橙色でチャート他の粗・細粒砂を含み、内外面横ナデ、内面に右から左のケズリが認められ、外面が煤けている。351は口径14.2cm、器高4.6cm、底径6.8cmを測り、色調は浅黄橙色でチャート他の細・粗粒砂を含み、内外面に横ナデが認められる。全体的に摩耗している。352はⅣ～V層から出土し、口径13.8cm、器高4.0cm、底径6.8cmを測る。色調は浅黄橙色で赤色風化礫の細・粗粒砂を多く含み、内外面に横ナデが認められる。全体的に摩耗している。353はⅢ～Ⅳ層から出土し、口径15.6cm、器高4.3cm、底径7.8cmを測る。色調は浅黄橙色でチャートの細粒砂を含み、内外面横ナデ、外底に初圧痕が認められる。354は口径13.6cm、器高4.7cm、底径6.2cmを測り、色調は浅黄橙色で精選された胎土を用い、内面に右から左のケズリ・横ナデが認められる。355は口径不明で、器高5.3cm、底径7.8cmを測り、色調はにぶい橙色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められ、外面が煤けている。356はⅣ～V層から出土し、口径14.3cm、器高4.2cm、底径6.6cmを測る。色調は浅黄橙色でチャートの細・粗粒砂を含み、内面に右から左のケズリが認められる。357はⅩ層から出土し、口径14.3cm、器高4.6cm、底径7.0cmを測り、色調はにぶい橙色でチャートの細粒砂を含み、内外面に横ナデが認められる。358はⅣ～V層から出土し、口径14.8cm、器高4.6cm、底径7.7cmを測る。色調は灰白色で赤色風化礫の細粒砂を含み、内外面横ナデ、平行圧痕が認められる。359は口径14.8cm、器高4.7cm、底径7.0cmを測り、チャートの細粒砂を含み、内外面に横ナデが認められる。360は口径15.0cm、器高4.7cm、底径7.0cmを測り、色調は灰白色でチャート、赤色風化礫の細・粗粒砂を含み、内外面に横ナデが認められる。全体的に摩耗している。364は底径6.4cmを測り、色調はにぶい橙色でチャートの細・粗粒砂を多く含んでいる。365はⅣ～V層から出土し、底径5.4cmを測り、色調は灰白色で細粒砂を多く含んでおり、全体的に摩耗している。366はⅣ～V層から出土し、底径6.0cmを測る。色調は灰白色で精選された胎土を用い、平行圧痕が認められる。全体的に摩耗している。367はⅣ～V層から出土し、底径7.4cmを測る。色調は浅黄橙色でチャートの細粒砂を含み、内外面に横ナデが認められ、全体的に摩耗している。368は底径7.0cmを測り、色調は橙色でチャートの粗粒砂を含んでいる。全体的に激しく摩耗している。369はⅥ～Ⅸ層から出土し、底径7.7cmを測る。色調は浅黄橙色でチャートの細・粗粒砂を含み、内外面に横ナデが認められる。370は底径6.0cmを測り、色調は浅黄橙色で精選された胎土を用い、円盤状高台が認められる。全体的に摩耗している。371はⅢ～Ⅳ層から出土し、底径6.4cmを測る。色調は浅黄橙色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められ、全体的に摩耗している。373はⅥ層から出土し、底径6.4cmを測る。色調は灰白色でチャートの細粒砂

を含んでおり、全体的に摩耗している。374はⅦ～Ⅸ層から出土し、底径7.0cmを測る。色調は浅黄橙色で赤色風化礫の細・粗粒砂を含み、内外面に横ナデが認められる。全体的に摩耗している。375はVI層から出土し、底径5.2cmを測る。色調は灰白（乳白）色で精緻な胎土を用いている。未製品の可能性が考えられる。376はⅧ～Ⅹ層から出土し、底径6.3cmを測る。色調は灰白（黄灰）色で精緻な胎土を用いている。377はIV～V層から出土し、底径5.3cmを測る。色調は灰白（乳白）色で精緻な胎土を用い、石英粒を含んでいる。378はIV～V層から出土し、底径5.0cmを測る。色調は灰白（乳白）色で精緻な胎土を用いている。

椀（第55・56図）

361～363は椀であり、379～396は底部である。円盤状高台を有するものは回転糸切り痕が認められる。口径14.0～15.6cm、器高4.8～5.8cm、底径5.0～7.5cmを測る。

361はVI～Ⅸ層から出土し、口径14.0cm、器高4.8cm、底径5.4cmを測る。色調は浅黄橙色で石英、赤色風化礫を含み、内外面に丁寧な横ナデ、外面に回転ナデの痕跡が顕著に認められ、丸みを帯びた貼り付け高台を有している。全体的に摩耗している。362はIX層から出土し、口径15.6cm、器高5.7cm、底径6.0cmを測る。色調は浅黄橙色で精選された胎土を用い、長石、石英を含み、内面右から左のケズリと丁寧な横ナデが認められ、断面台形の貼り付け高台を有している。搬入品と考えられる。363はIX層から出土し、口径15.2cm、器高5.8cm、底径6.1cmを測る。色調はにぶい黄橙色で石英粒を多く含み、内面はケズリと丁寧な横ナデが認められ、口縁部は肥厚し、断面長方形のしっかりした高台を有している。379はV層から出土し、底径5.6cmを測る。色調は浅黄橙色で赤色風化礫を含み、内外面に横ナデが認められる。全体的に摩耗している。380はVI層から出土し、底径5.7cmを測る。色調は浅黄橙色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められ、高台は扁平化している。全体的に摩耗している。381はⅢ層から出土し、底径は7.2cmを測る。色調はにぶい黄橙色で雲母、石英粒を多く含み、内外面にヘラミガキが認められ、断面台形状のしっかりした高台を有している。搬入品と考えられる。382はV層から出土し、底径6.0cmを測る。色調は浅黄橙色でチャートの細粒砂を多く含み、円盤状高台を有している。全体的に激しく摩耗している。383はIV層から出土し、底径5.6cmを測る。色調は浅黄橙色で赤色風化礫の細粒砂を含み、円盤状高台を有している。全体的に摩耗している。384はIV～V層から出土し、底径7.5cmを測る。色調は浅黄橙色で細粒砂を含み、円盤状高台を有している。内面が煤けており、全体的に摩耗している。385はIV～V層から出土し、底径5.5cmを測る。色調は浅黄橙色で精選された胎土を用い、内面にヘラミガキが認められ、円盤状高台を有している。全体的に摩耗している。386はⅢ～IV層から出土し、底径6.6cmを測る。色調は浅黄橙色でチャートの細粒砂を多く含み、円盤状高台を有している。全体的に摩耗している。387は底径6.0cmを測り、色調は浅黄橙色でチャートの粗粒砂を含み、円盤状高台を有している。内外面が煤けており、全体的に摩耗している。388は底径6.0cmを測り、色調は浅黄橙色でチャートの粗粒砂を含み、円盤状高台を有している。全体的に摩耗している。389はV層から出土し、底径6.4cmを測る。色調は褐灰色で精選された胎土を用い、円盤状高台を有している。内外面が煤けており全体的に摩耗している。390は底径5.9cmを測り、色調は浅黄橙色で精選された胎土を用い、内面にヘラミガキが認められ、円盤状高台を有している。全体的に摩耗している。391はⅧ～Ⅹ層から出土し、底径は6.6cmを測る。色調は浅黄

橙色でチャートの細・粗粒砂を多く含み、円盤状高台を有している。全体的に摩耗している。392は XIII層から出土し、底径5.6cmを測る。色調は浅黄橙色で精選された胎土を用い、内面にヘラミガキが認められ、円盤状高台を有している。全体的に摩耗している。393はⅢ～Ⅳ層から出土し、底径6.0cmを測る。色調は浅黄橙色で赤色風化蹠の細粒砂を多く含み、円盤状高台を多く有している。全体的に摩耗している。394はⅣ～V層から出土し、底径6.0cmを測る。色調はにぶい黄橙色で精選された胎土を用いており、全体的に摩耗している。395はⅦ～Ⅷ層から出土し、底径6.6cmを測る。色調はにぶい黄橙色で赤色風化蹠を多く含んでおり、全体的に摩耗している。396は底径5.4cmで色調は浅赤橙色で赤色風化蹠の粗粒砂を含んでおり、全体的に激しく摩耗している。

甕（第56図）

397～399は甕である。古代からの長胴甕の系譜を引く煮炊具と考えられる。

397はⅦ～Ⅷ層から出土し、口径25.0cmを測る。色調はにぶい赤褐色で石英、長石の細・粗粒砂を多く含み、口縁部内外面に横ナデが認められ、口唇部は凹状を呈している。398はVI層から出土し、口径30.6cmを測る。色調は浅黄橙色でチャート他の粗粒砂を多く含み、口縁部内外面に横ナデが認められ、頸胴部境に凹状の段を有している。399はⅣ～V層から出土し、口径36.0cmを測る。色調は橙色で石英、長石他の細粒砂を多く含み、口縁部内外面に横ナデが認められ、口唇部は凹状を呈している。

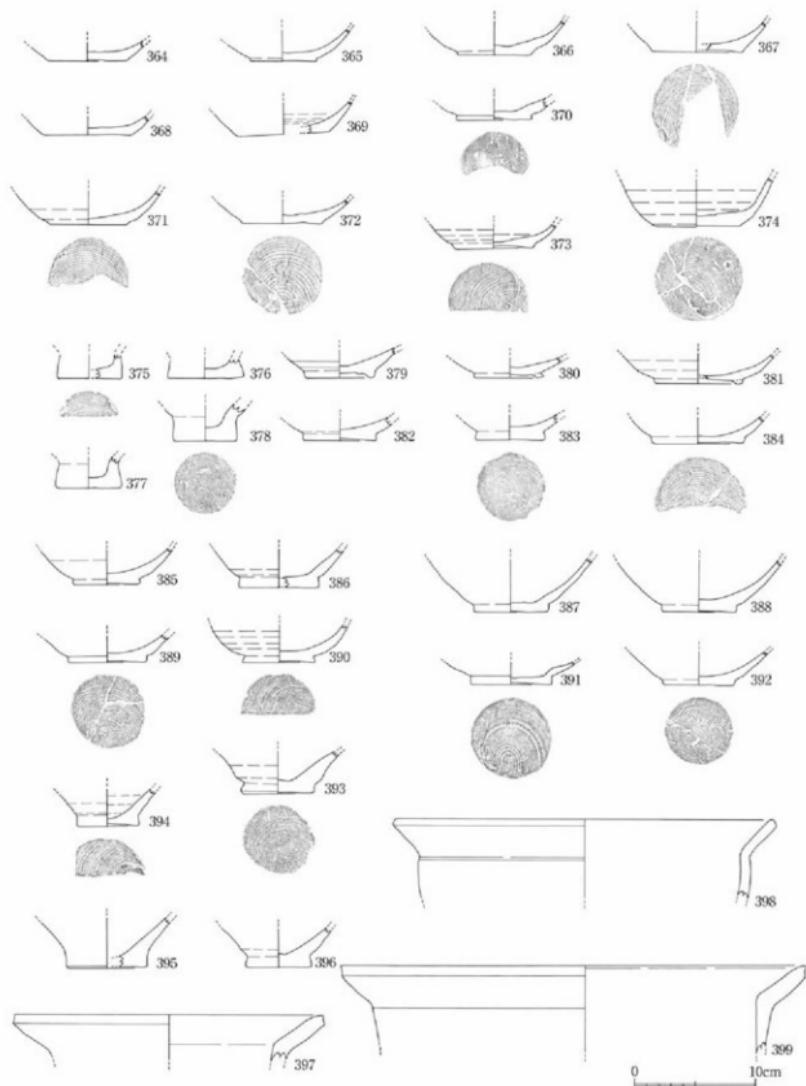
須恵器（椀・壺・甕・鉢・水注）

椀（第57図）

400～405は椀である。400はIX層から出土し、口径15.3cm、器高6.1cm、底径5.5cmを測る。色調は灰白色でチャートの細・粗粒砂を含み、内外面をケズリ、丁寧な横ナデが認められ、内面にヘラミガキを施した可能性がある。しっかりした方形高台を有している。401はⅢ～Ⅳ層から出土し、口径16.4cmを測る。色調は灰色で精選された胎土を用い、外面にケズリと横ナデ、内面に横ナデが認められる。内外面上半部に自然釉がかかる。402はⅦ～Ⅷ層から出土し、底径3.6cmを測る。色調は灰色で精選された胎土を用い、外面にケズリと横ナデ、内面にミガキが認められ、底部は回転糸切りである。403は底径6.0cmを測り、色調は灰色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められる。厚い円盤状高台を有し、底部は回転糸切りである。404はIV層から出土し、底径6.0cmを測る。色調はにぶい黄橙色で精選された胎土を用い、黄茶色に発色し、外面に横ナデ、内面にミガキが認められ、平行圧痕が残る。底部は回転糸切りで、火捺がみられる。405はⅦ～Ⅷ層から出土し、底径6.0cmを測る。色調は灰色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められ、底部は回転糸切りである。

壺（第57図）

408～410は壺である。408はⅦ～Ⅷ層から出土し、口径8.7cmを測る。色調は灰色で精選された胎土を用い、上胴部から内傾し、内外面に丁寧な横ナデが認められる。409はⅢ～Ⅳ層から出土した高杯の脚部である。色調は灰色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められる。全体的に摩耗している。410はⅦ～Ⅷ層から出土し、底径8.0cmを測る。色調は灰色で精選された胎土を用い、外面に弱いケズリと横ナデ、内面にナデ調整が認められる。



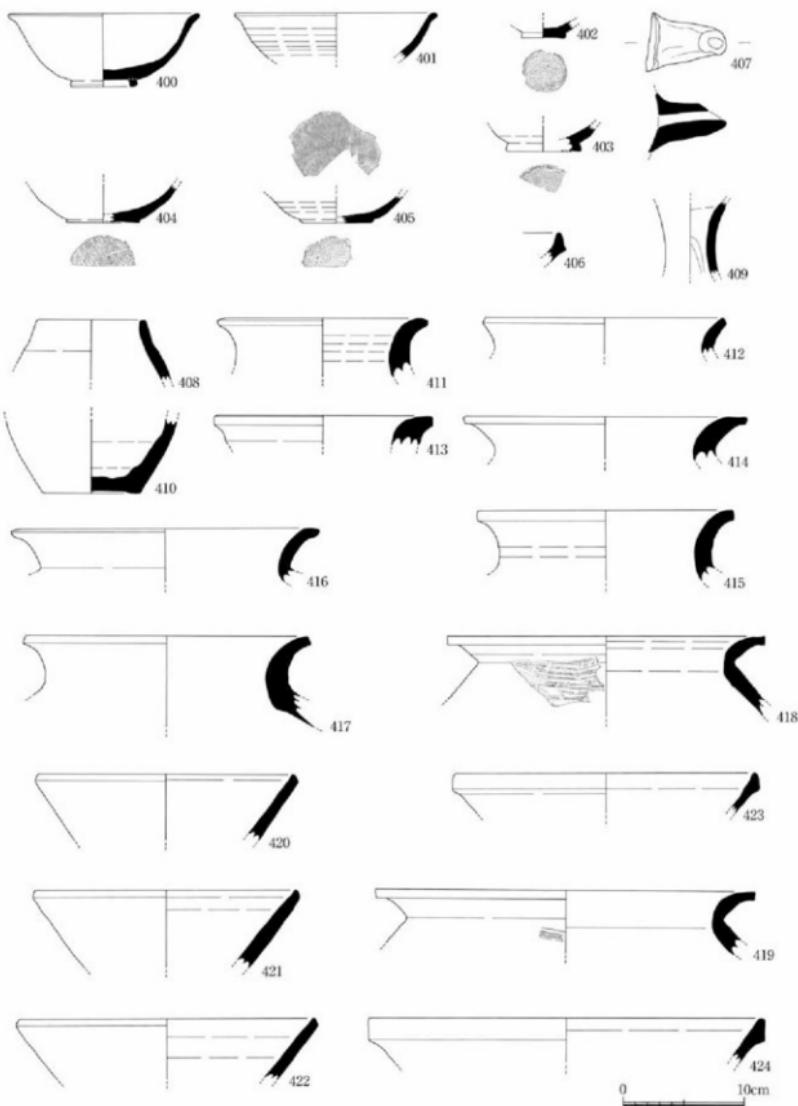
第56図 I 区包含層出土遺物実測図 2 (S=1/4)

甕（第57・58図）

411～419は口縁部、427～431は底部である。411はV層から出土し、口径24.0cmを測る。色調は灰色で粗粒砂を少量含み、内外面に横ナデが認められる。412はIV～V層から出土し、口径17.3cmを測る。色調は灰色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められる。自然釉がみられる。413はII層から出土し、口径18.0cmを測る。色調は灰色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められる。内面に自然釉がかかる。414は口径19.6cmを測り、色調は灰色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められ、口唇部は鋭く面を取る。内外面に自然釉がかかる。415は口径21.0cmを測り、色調は外面が灰褐色、内面が暗赤褐色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められる。外面と口縁端部に自然釉がかかる。416は口径23.0cmを測り、色調は灰色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められる。417はVI層から出土し、口径23.0cmを測る。色調は灰色で粗粒砂を多く含み、内外面に横方向のケズリと横ナデ、外面に横ナデが認められる。内外面に自然釉がかかる。418はIV～V層から出土し、口径26.0cmを測る。色調は灰色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデ、胴部外面に平行タタキが認められる。419はIII～IV層から出土し、口径31.0cmを測る。色調は灰色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデ、胴部外面に平行タタキが認められ、口唇部は凹状を呈している。外面に自然釉がかかる。427はIII～IV層から出土し、底径12.2cmを測る。色調は外面が青灰色、内面が暗灰黄色で石英他の細・粗粒砂を多く含み、外面に左から右方向のケズリ、内面にナデ調整が認められる。外底に砂粒が多くみられる。428はV層から出土し、底径12.6cmを測る。色調は灰色で精選された胎土を用い、外面に左から右方向のケズリ、内面にナデ調整が認められる。外底に砂粒が多くみられる。429はV層から出土し、底径12.6cmを測る。色調は外面が浅黄橙色、内面が灰褐色でチャート他の粗粒砂を多く含み、外面にケズリと横ナデ、内面にナデ調整が認められる。外底に砂粒が多くみられる。430はVII層から出土し、底径11.0cmを測る。色調は灰色でチャート他の粗粒砂を含み、外面に左から右方向のケズリ、平行タタキが認められ、内面にナデ調整がみられる。底部は剥離している。431はIV～V層から出土し、底径18.0cmを測る。色調は外面が暗赤褐色、内面が灰色で精選された胎土を用い、外面に自然釉がかかる。

鉢・他（第57図）

406・420～426は鉢（捏鉢）である。406はVII～VIII層から出土し、色調は灰色で細・粗粒砂を含み、内外面に横ナデが認められる。東播系捏ね鉢と考えられる。420はIV～V層から出土し、口径21.0cmを測る。色調は外面がにぶい赤褐色、内面が灰白色で焼成は堅緻である。内外面に横ナデが認められ、口縁端部は僅かに摘み上げ口唇部は面を取り、内面は白色化した自然釉がみられる。421は口径21.2cmを測り、色調は外面がにぶい赤橙色、内面が灰白色で焼成は堅緻であり、外面は茶色に発色している。内外面に横ナデが認められ、口縁端部は僅かに摘み上げ口唇部は面を取り、内面は白色化した自然釉がみられる。422はV層から出土し、口径24.0cmを測る。色調は外面がにぶい赤橙色、内面が灰色で焼成は堅緻であり、外面は茶色に発色している。内外面に横ナデが認められる。東播系捏ね鉢を模倣した可能性が考えられる。423はVII～VIII層から出土し、口径24.4cmを測る。色調は灰色で粗粒砂を含み、内外面に横ナデが認められ、重ね焼き痕がみられる。口唇部に自然釉がみられる。東播系捏ね鉢と考えられる。424は口径32.0cmを測り、色調は灰色で胎土は精緻である。内外面に横



第57図 I 区包含層出土遺物実測図 3 (S=1/4)

ナデが認められ、口唇部外面上半に重ね焼き痕がみられる。東播系捏ね鉢と考えられる。425は底径10.4cmを測り、色調は灰色で粗粒砂を多く含み、内外面に横ナデが認められる。亀山窯の可能性が考えられる。426は底径11.0cmを測り、色調は灰色で粗粒砂を含み、内外面に横ナデ、外面の下地にケズリが認められる。亀山窯の可能性が考えられる。

407は水注の注口部で色調は褐灰色で精選された胎土を用い、注口端部は鋭く削いでいる。体部接合部から剥離し、外面に自然釉がかかっている。

瓦器（小皿・椀）

小皿（第58図）

432はⅦ～Ⅸ層から出土し、口径9.0cm、器高1.9cmを測る。色調は暗灰色でチャート、頁岩の細・粗粒砂を含み、内面にナデ調整、外面に指頭圧痕が認められる。

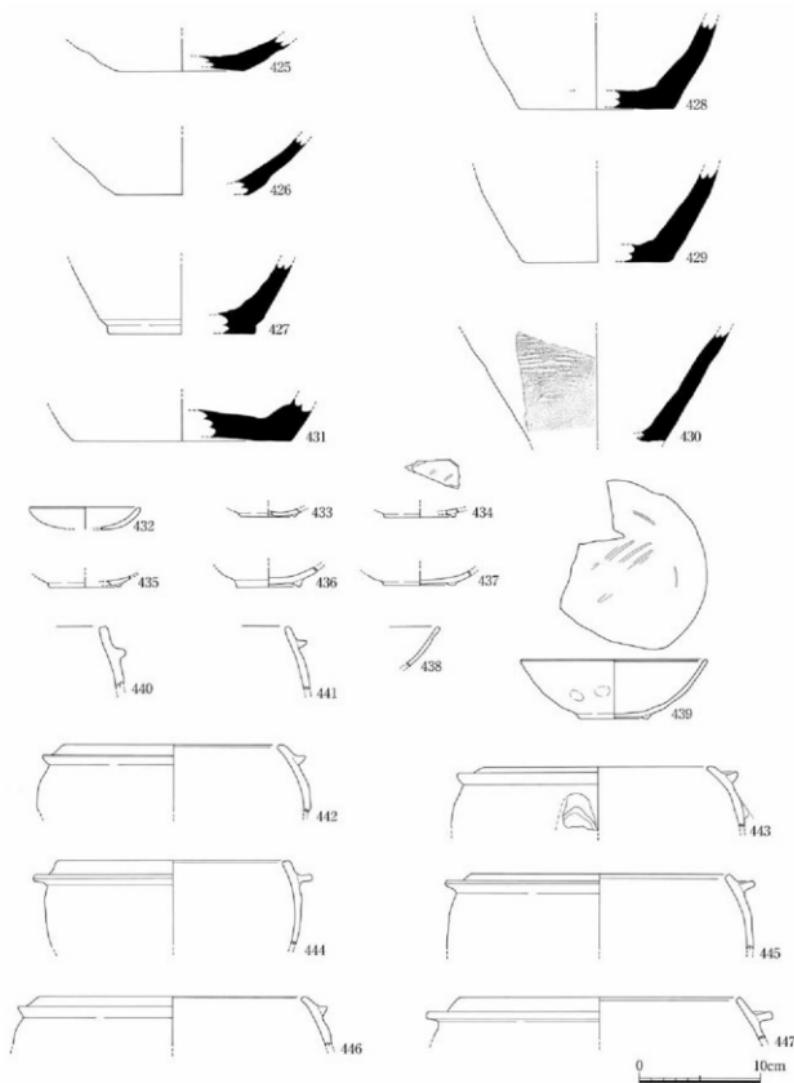
椀（第58図）

433～439は瓦器碗である。433はⅢ～Ⅳ層から出土し、底径4.6cmを測る。色調は灰色で精選された胎土を用い、断面三角形の貼り付け高台を有している。434はⅩ層から出土し、底径6.0cmを測る。色調は灰色で精選された胎土を用い、内面にヘラミガキが認められ、しっかりした外方に踏ん張る高台を有している。435はⅢ～Ⅳ層から出土し、底径5.8cmを測る。色調は黄灰色で精選された胎土を用い、断面三角形の貼り付け高台を有している。436は底径5.2cmを測り、チャートの粗粒砂を含み、内面に糊圧痕が認められ、断面三角形の貼り付け高台を有している。437はⅡ層から出土し、底径6.0cmを測る。色調は暗灰色でチャートの細・粗粒砂を多く含み、断面蒲鉾状の高台を有している。438の色調は暗灰色で、口縁部に横ナデ、内面にヘラミガキが認められ、外面に指頭圧痕がみられる。439はⅢ～Ⅳ層から出土し、口径15.2cm、器高4.9cm、底径5.6cmを測る。色調は暗灰色で精選された胎土を用い、外面口縁端部は横ナデが認められ、体部内面に横方向のヘラミガキ、内底は一定方向のヘラミガキがみられる。断面は丸みを帯びた三角状の高台を有している。

瓦質土器（羽釜・鉢）

羽釜・鍋（第58・59図）

440～447は羽釜である。440の色調は灰色でチャートの粗粒砂を多く含み、口唇部は面を取り、断面蒲鉾状の鈎で、鈎の上下口縁部に横ナデ、胴部外面に指頭圧痕が認められる。441の色調は暗灰色でチャート他の細・粗粒砂を含み、口唇部は丸みを帯び、断面三角形のしっかりした鈎で、鈎の上下口縁部に横ナデが認められる。外面が煤けている。442はⅢ～Ⅳ層から出土し、口径18.0cmを測る。色調はオリーブ黒色で口唇部は丸みを帯び、断面三角形のしっかりした鈎で、胴部外面に指頭圧痕が認められる。外面が煤けている。443はⅢ～Ⅳ層から出土し、口径18.6cmを測る。色調は黒色でチャートの粗粒砂を多く含み、口唇部は丸みを帯び、断面三角形の鈎で器表は激しく荒れている。三足鍋の脚は付け根が剥離している。外面が煤けている。444はⅩ層から出土し、口径19.0cmを測る。色調は外面が黒褐色、内面が灰黄色でチャートの粗粒砂を多く含み、口唇部は面を取り1.4cm幅の鈎で、鈎の上下口縁部に横ナデ、胴部内外面にナデ調整が認められる。外面が激しく煤けている。445はⅦ～Ⅸ層から出土し、口径21.2cmを測る。色調は外面が灰褐色、内面が灰色でチャート他の粗粒砂を多く含み、口唇部は面を取り、1.0cm幅の鈎で、鈎の上下口縁部に横ナデ、胴部内外面にナデ調整



第58図 I 区包含層出土遺物実測図4 (S=1/4)

が認められる。外面が煤けている。446はⅢ～Ⅶ層から出土し、口径22.0cmを測る。色調は外面が暗灰色、内面が灰白色で口唇部は丸みを帯び、断面三角形の鉢で器表は荒れている。447はⅦ～Ⅸ層から出土し、口径23.0cmを測る。色調は外面が灰色、内面が灰白色で口唇部は丸みを帯び、1.1cm幅の鉢で、胴部内外面にナデ調整が認められる。448はV層から出土し、口径18.5cmを測る。色調は灰白色でチャート他の細粒砂を含み、口唇部は丸く收める。内外面にナデ調整、胴部外面に指頭圧痕が認められる。449はVI層から出土し、口径17.0cmを測る。色調は灰白色でチャートの細・粗粒砂を含み、口唇部は面を取り、内面にナデ調整、同部外面に指頭圧痕が認められ、外面が煤けている。450はV層から出土し、口径18.0cmを測る。色調は外面が暗灰色、内面が灰色で精選された胎土を用い、口縁部内外面に横ナデ、胴部外面に指頭圧痕が認められ、外面が煤けている。448～450は「土佐型」の鍋と考えられる。451はⅢ～Ⅳ層から出土し、色調は外面が黒色、内面が暗灰色でチャートの粗粒砂を多く含み、外面が激しく煤けている。三足鍋の脚部の付け根である。452はⅦ～Ⅸ層から出土し、色調は外面が暗灰色、内面が灰色でチャートの細・粗粒砂を多く含み、ナデ調整が認められる。三足鍋の脚部である。453はⅧ～Ⅸ層から出土し、色調は暗灰色でチャートの細・粗粒砂を多く含み、外面が煤けている。三足鍋の脚部で付け根部分から剥離している。

鉢（第59図）

454は鉢である。Ⅲ～Ⅳ層から出土し、口径19.6cmを測る。色調は外面が灰白色、内面が灰色で細・粗粒砂を含み、口唇部は面を取り、外面は右から左方向のケズリとナデ調整、内面に横ナデが認められる。捏ね鉢と考えられる。

白磁（第59図）

455・456は壺、457～460は皿、461～479は碗である。

青磁（第60図）

480は皿か壺で、481～505は碗、506～508は皿である。

染付（青花）（第60図）

509・510は碗である。

瀬戸（第60図）

511・512は皿である。

備前（第60図）

513・514は揃り鉢である。

瓦（第61図）

520は平瓦、521は軒丸瓦である。

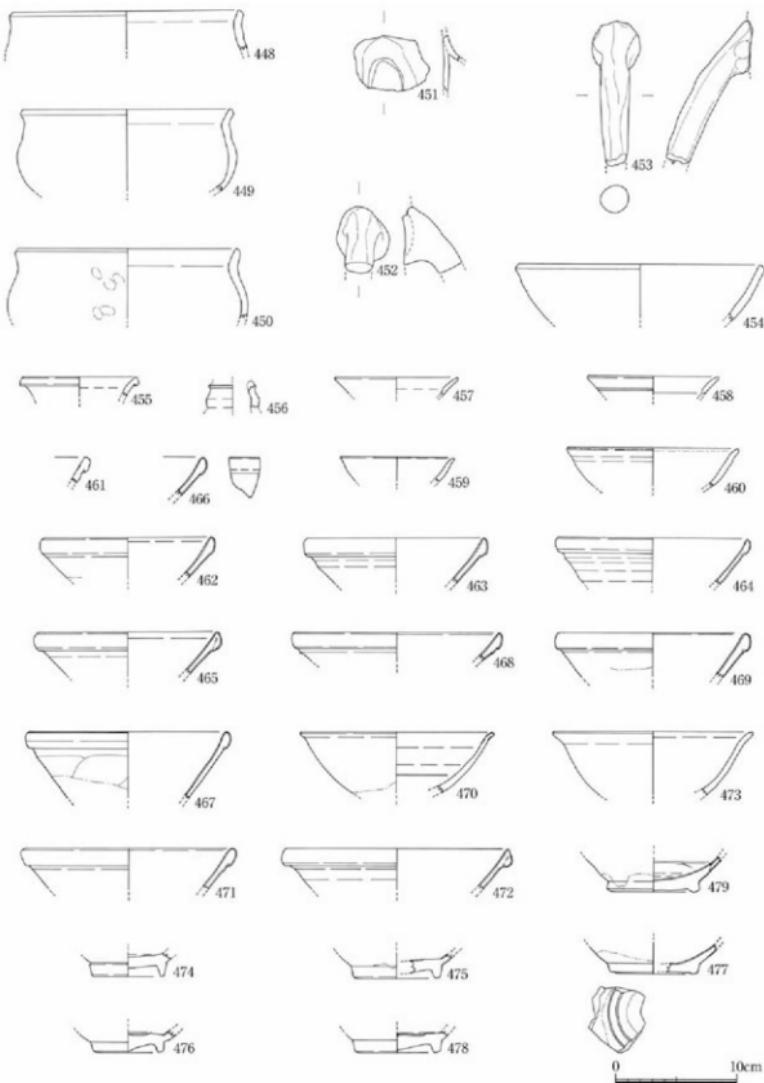
石製品・石器（石鍋・硯・石鎌）（第61図）

515～519は石鍋である。519の底部は2ヶ所穿孔されており、温石として転用されたと考えられる。

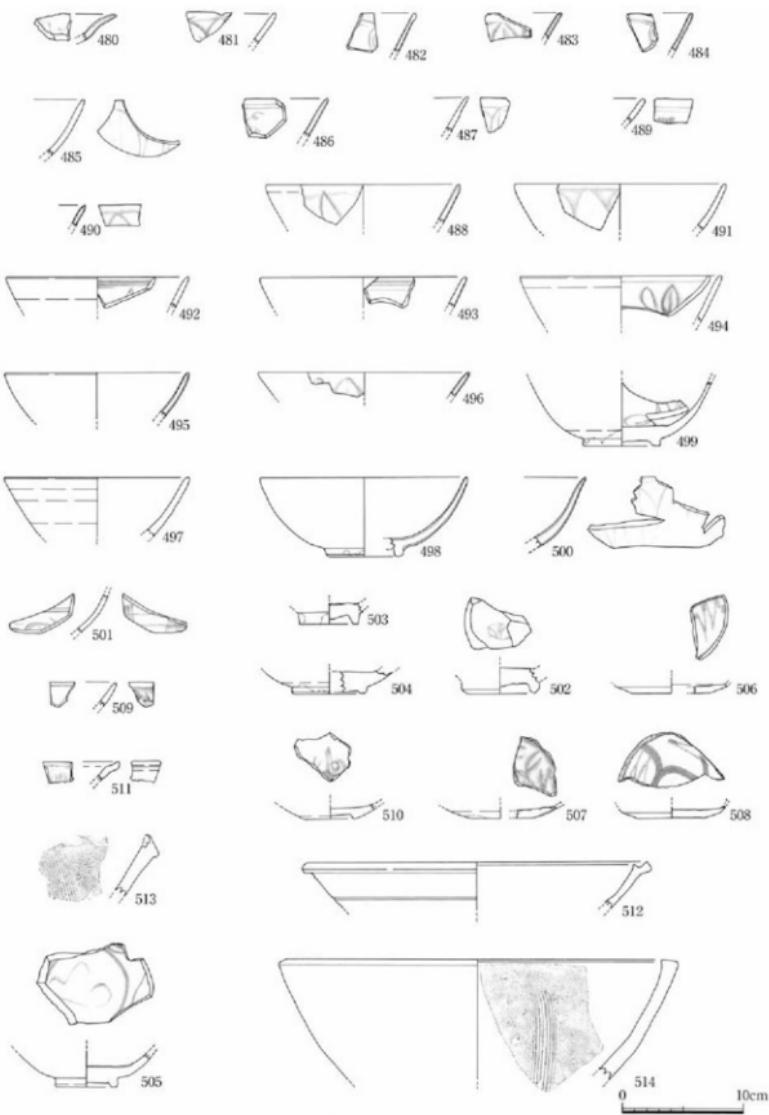
522は硯、523は石鎌である。

鉄製品（第61図）

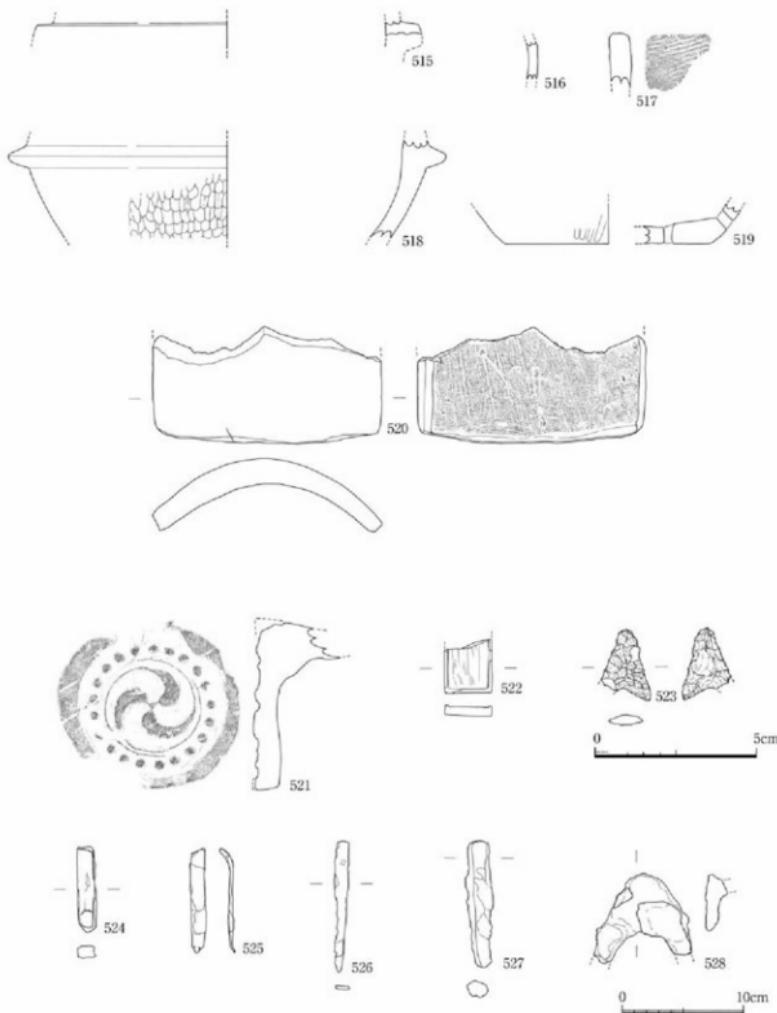
524～528は鉄製品である。



第59図 I区包含層出土遺物実測図5 (S=1/4)

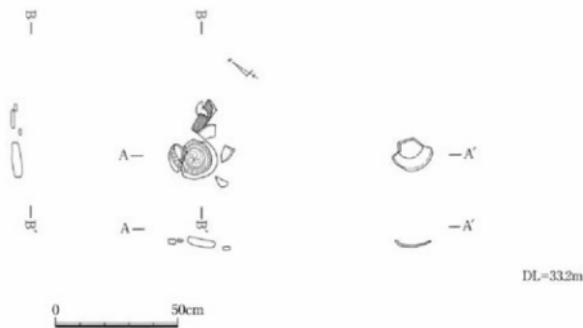


第60図 I区包含層出土遺物実測図6 (S=1/4)

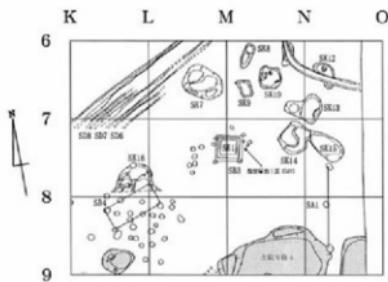


第61図 I区包含層出土遺物実測図7 (S=1/4、2/3)

※S=2/3は、523のみ



第62図 I区包含層出土遺物 (S=1/20) 521・軒丸瓦出土状況及び位置図 (S=1/250)



第2節 II区

II区はI区の東側に隣接している。検出面標高は、I区が32.8mから34.5mであるのに対し、II区は32.5mから32.6mと一段低い場所に立地している。

1. 基本層序

調査区の北壁と南壁で土層の堆積状況を確認した。基本層序は以下のとおりであり、北壁セクションと南壁セクションを第63図に示した。

I層 表土（埋め立て土）

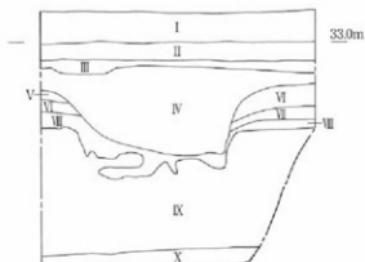
II層 旧耕作土

III層 基盤

IV層 流れ込みの層

V層 遺構検出面

北壁セクション



I層 埋め立て土

II層 灰色シルト質土

III層 黄茶褐色シルト質土

IV層 黒褐色粘質土

V層 黑灰色シルト質土

VI層 灰色粘土

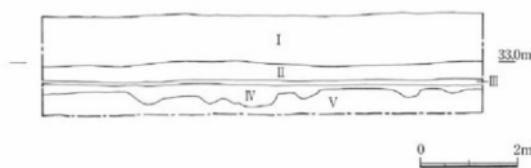
VII層 灰黑色シルト～砂質土

VIII層 黄茶褐色シルト

IX層 黒色粘質土

X層 淡灰茶砂質土

南壁セクション



I層 表土（埋め立て土）

II層 灰色シルト質土

III層 黄茶褐色シルト質土

IV層 灰色シルト～砂質土

V層 黑色粘質土層

第63図 II区北壁・南壁セクション図 (S=1/50)

2. 遺構と遺物

II区からは13条の溝状遺構が検出されている。その中でSD15～23の10条には遺構名を付した（第64図）。遺構及び包含層からは平安時代末～20世紀はじめにかけての遺物が出土している。遺物包含層はⅢ層とⅣ層である。

遺物の出土が確認された溝はSD15～19・22・23であるが、いずれも近世以降の遺物を含んでおり、遺構形成時期は近世以降である。

(1) 溝 (SD)

調査時点の所見では、溝は大きく3形態に分類されている。SD15・19は直線的な溝であり、溝の底には山石が敷かれるという特徴を持つ。2条の溝ともⅣ層を掘り込んで形成されている。溝の底に敷かれていた石がSD15では山石だけなのに対し、SD19では山石の上部に小さなクリ石を敷き詰めてあったという。これに対しSD22は大きく弧状に屈曲している溝であり、溝の両肩部分に杭が打たれており、溝に沿って数十本の杭跡が確認されている。埋土は黄灰色砂質土であり、近世以降の遺物を含むことから比較的新しい時期に機能した溝だと考えられている。SD16～18・23は同時期のもので人為的に掘られた溝だと考えられている。ともに埋土が灰色シルト質～砂質土（Ⅳ層）である。近世以降の遺物を含むが、遺構埋土よりSD15・19に先行する時期のものだと考えられる。

SD15（第64・65図）

調査区（II区）の東側（O14/P13・14/Q12・13/R12グリッド）に位置する。東端はSD14と接続している。検出高は東端で32.49m、西端で32.56mを測る。主軸方向はN-62°-Eで、ほぼ直線状に検出している。検出規模は15.8×0.30m、床面高は東端で32.19m、西端で32.28mを測る。断面形態は箱形状を呈し、最深部で30cmを測る。埋土は黒褐色粘土質シルトである。

遺物は土師器片1点と、須恵器片1点、焼成不良を含む瓦片（布目痕）3点、白磁片（V類）1点を出土している。図示したものは土師器の壺（530・531）、白磁の碗（529）であるが、床面に礫（山石）が敷き詰められ、また古代～近代の包含層を切っていることなどから、近代以降の暗渠の可能性が考えられる遺構である。

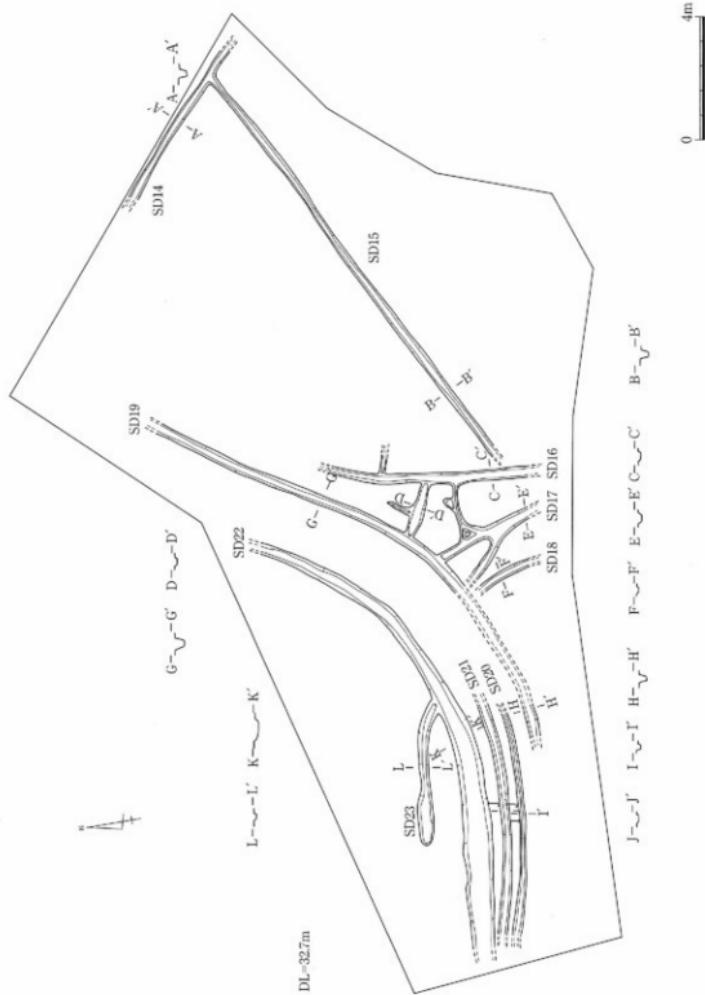
SD16（第64図）

調査区（II区）の中央（O13・14グリッド）に位置する。南端はTRに切られている。検出高は北端で32.58m、南端で32.53mを測る。主軸方向はN-7°-Eで、ほぼ直線状に検出している。小規模な溝状遺構との切り合い関係については不明である。検出規模は6.80×0.37m、床面高は北端で32.55m、南端で32.45mを測る。断面形態は逆台形状を呈し、最深部で13cmを測る。埋土は灰褐色砂質シルト（灰色シルト質砂）である。

遺物は底部を含む土師器片11点と、須恵器片1点を出土しており、土師器片の多くは摩耗している。他に混入と考えられる弥生土器片1点を出土している。

SD17（第64・65図）

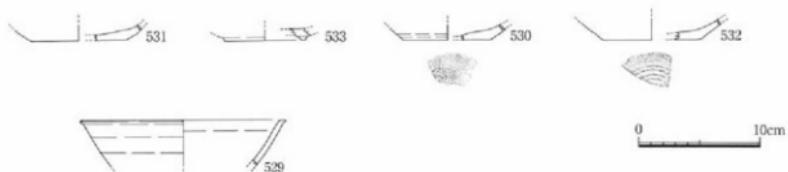
調査区（II区）の中央南側（N14グリッド）に位置する。南端はTRに切られており、北端はSD19と切り合い、検出を終えている。検出高は北端で32.61m、南端で32.56mを測る。主軸方向はN-18°-Wで、ほぼ直線状に検出している。小規模な溝状遺構との切り合い関係については不明である。檢



第64図 II区全体図及び溝状構 平面・エレベーション図 (S=1/160)

出規模は 3.27×0.30 m、床面高は北端で32.41m、南端で32.42mを測る。断面形態は逆台形状を呈し、最深部で21cmを測る。埋土は灰褐色砂質シルト（灰色シルト質砂）である。

遺物は口縁・底部を含む土師器片26点と、須恵器片1点を出土しており、土師器片の多くは摩耗している。図示したものは土師器の坏（532）である。



第65図 II区 SD15・17・21 出土遺物実測図 (S=1/4)

SD18（第64図）

調査区（II区）の中央南側（N14グリッド）に位置する。両端はTRに切られている。検出高は北・南端ともに32.60mを測る。主軸方向はN-20°-Wで、ほぼ直線状に検出している。検出規模は 1.88×0.22 m、床面高は北端で32.55m、南端で32.53mを測る。断面形態は逆台形状を呈し、最深部で8cmを測る。埋土は灰褐色砂質シルト（灰色シルト質砂）である。遺物は底部を含む土師器片3点と、白磁片（IV類）1点を出土しており、土師器片の多くは摩耗している。

SD19（第64図）

調査区（II区）の中央（M14・15/N13・14/O11・12・13グリッド）に位置する。一部はTRに切られている。検出高は北・西端ともに32.53mを測る。北端からN-39°-Eで約10m検出し、N-73°-Eで弧を描き西端に至る。検出規模は 11.16×0.30 m、床面高は北端で32.22m、西端で32.26mを測る。断面形態は逆台形状を呈し、最深部は42cmを測る。埋土は黒褐色粘土質シルトである。遺物は底部（回転糸切り）を含む土師器片19点と、須恵器片1点、備前焼片（擂り鉢）1点、近世陶磁器片1点、瓦片（近代）2点を出土しており、土師器片の多くは摩耗している。床面に礫（山石・栗石）が敷き詰められ、また古代～近代の包含層を切っていることなどから、近代以降の暗渠の可能性を考えられる遺構である。

SD20（第64図）

調査区（II区）の西側（K14/L14/M14グリッド）に位置する。東端はTRに切られている。検出高は東端で32.59m、西端で32.49mを測る。東端からN-89°-Wで約6.5m検出し、N-73°-Wで西端を北へ振る。検出規模は 7.30×0.23 m、床面高は東端で32.37m、西端で32.43mを測る。断面形態は逆台形状を呈し、最深部で13cmを測る。遺物は出土していない。

SD21（第64・65図）

調査区（II区）の西側（K14・L14・M14グリッド）に位置する。東端はTRに切られている。検出高は東端で32.52m、西端で32.50mを測る。東端からN-86°-Eで約7.0m検出し、N-77°-Wで西端を北へ振る。検出規模は 7.72×0.30 m、床面高は東端で32.43m、西端で32.46mを測る。断面形態は逆台形

状を呈し、最深部で9cmを測る。遺物は口縁部を含む土師器片6点を出土しており、多くは摩耗している。図示したものは土師器の椀（533）である。

SD22（第64図）

調査区（Ⅱ区）の西側（K14/L14/M13・14/N12・13グリッド）に位置する。検出高は北端で32.56m、西端で32.61mを測る。東端からN-40°-Eで約4.5m検出し、N-86°-Wで西端を西へ振る。検出規模は16.0×0.80m、床面高は北端で32.51m、西端で32.50mを測る。断面形態は皿状を呈し、最深部で14cmを測る。埋土は黄褐色砂質シルト（黄褐色砂質土）である。遺物は底部を含む土師器片7点と、瓦片（布目痕）1点を出土しており、土師器片の多くは摩耗している。他に炭化物5点を出土している。

SD23（第64図）

調査区（Ⅱ区）の西側（L14/M14グリッド）に位置する。SD22との切り合い関係は不明である。検出高は東端で32.65m、西端で32.57mを測る。主軸方向はN-87°-Wで、ほぼ直線状に検出しているが、東端を僅かに南側に振る。検出規模は4.65×0.30m、床面高は東端で32.60m、西端は不明である。断面形態は逆台形状を呈し、最深部で12cmを測る。埋土は灰色砂質シルトである。遺物は底部（回転糸切り）を含む土師器片7点を出土している。他に混入の可能性が考えられる弥生土器片1点を出土している。

(2) 包含層出土遺物

土師器（小皿・壺・椀）

小皿 534は小皿である。IV層から出土し、口径7.4cm、底径5.0cmを測る。色調は浅黄橙色で、精選された胎土を用い、底部は回転糸切りである。全体的に摩耗している。

壺 535～538・541～545は壺である。535は口径13.8cmを測り、色調は浅黄橙色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められる。536は口径13.0cmを測り、色調はにぶい黄橙色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められる。537は口径15.6cmを測り、色調はにぶい黄橙色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められる。538は口径16.2cmを測り、色調は浅黄橙色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められる。541は底径6.2cmを測り、色調は外面が黒色、内面が褐灰色で精選された胎土を用い、外面にナデ調整、内面にヘラミガキが認められる。外面が激しく煤けている。542は底径5.6cmを測り、色調は浅黄橙色で粗い胎土を用い、器表の荒れが激しい。全体的に摩耗している。543はIV層から出土し、底径9.0cmを測る。色調は灰褐色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められ、底部は静止糸切りである。内外面が煤けている。544はIV層から出土し、底径9.0cmを測る。色調は灰褐色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められ、底部は回転糸切りである。内外面が煤けている。545はIV層から出土し、底径6.8cmを測る。色調は浅黄橙色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデ、底部は回転糸切りである。全体的に摩耗している。

椀 539は底部でIV層から出土し、底径6.2cmを測る。色調は浅黄橙色で精選された胎土を用い、円盤状高台を有して、底部は回転糸切りである。540は底部で、底径6.1cmを測り、色調は浅黄橙色で精

選された胎土を用い、僅かにチャートの粗粒砂を含み、内外面に横ナデが認められる。底部は回転糸切りである。

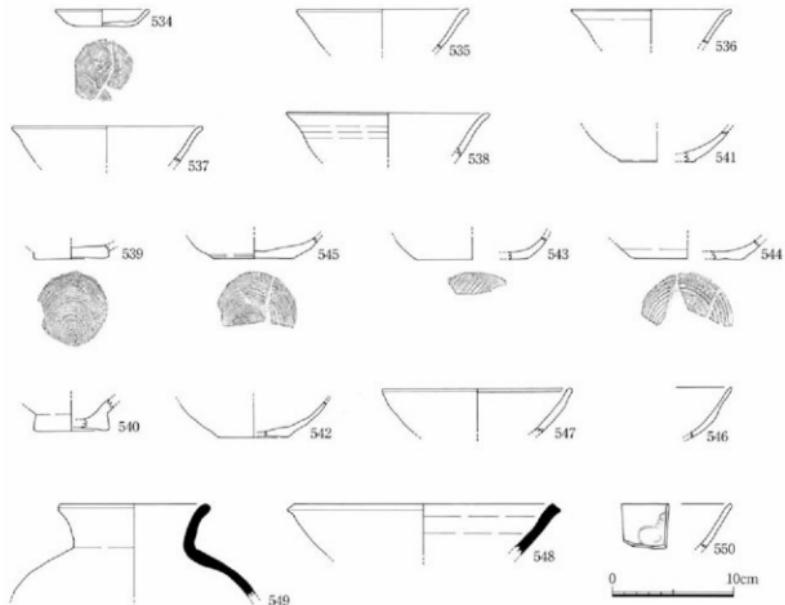
瓦器（椀）

椀 546の色調は外面が灰白色、内面が灰色で細・粗粒砂を含み、口縁部内外面及び体部内面横ナデ、体部外面に指頭圧痕がみられる。547は口径15.4cmを測り、色調は外面が黒色、内面が灰白色でチャートの細・粗粒砂を含み、内面に沈線がみられる。焼成は炭素吸着不良の未製品で在地産の可能性が考えられる。

須恵器（壺・鉢）

壺 549は壺である。Ⅲ層から出土し、口径11.4cmを測る。色調は灰色で精選された胎土を用い、内外面に横ナデが認められる。

鉢 548は鉢である。Ⅳ層から出土し、口径21.2cmを測る。色調は灰色で細・粗粒砂を含み、口縁端部は摘み出し、内外面に横ナデが認められる。



第66図 II区包含層出土遺物 (S=1/4)

表3 I区出土遺物觀察表（弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・陶磁器）

図版 番号	出土地點 層位	種類	器種 器形	法量(cm)			色調	特徴	備考
				口径	器高	底径			
1	集石遺構	土師器	小皿	—	(0.7)	4.1	内)灰白 外)灰白	赤色風化櫻の細・粗粒砂を含む。全体に摩耗が激しい。底部系切り。	
2	集石遺構	土師器	小皿	8.5	1.5	5.2	内)灰白 外)灰白	精選された胎土。底部系切り。	
3	集石遺構	土師器	小皿	7.4	1.6	4.4	内)浅黄橙 外)浅黄橙	精選された胎土。底部系切り。	
4	集石遺構	土師器	小皿	6.6	1.6	4.7	内)にぶい橙 外)浅黄橙	精選された胎土。底部系切り。平行圧痕あり。	
5	集石遺構	土師器	小皿	6.6	1.4	4.5	内)浅黄橙 外)浅黄橙	精選された胎土。底部系切り。	
6	集石遺構	土師器	小皿	7.1	1.4	4.3	内)浅黄橙 外)浅黄橙	赤色風化櫻の砂粒を多く含む。	
7	集石遺構	土師器	小皿	7.9	1.4	(5.0)	内)浅黄橙 外)浅黄橙	精選された胎土。底部系切り。	
8	集石遺構	土師器	小皿	6.6	1.7	4.4	内)浅黄橙 外)浅黄橙	精選された胎土。底部系切り。	
9	集石遺構	土師器	小皿	7.0	1.8	3.8	内)浅黄橙 外)浅黄橙	精選された胎土。底部系切り。	
10	集石遺構	土師器	小皿	8.0	1.7	4.5	内)浅黄橙 外)浅黄橙	精選された胎土。底部系切り。ロクロ右回り。	
11	集石遺構	土師器	小皿	7.8	1.6	3.8	内)浅黄橙 外)浅黄橙	精選された胎土。底部系切り。	
12	集石遺構	土師器	小皿	7.0	1.5	4.4	内)にぶい橙 外)にぶい橙	精選された胎土。底部系切り。平行圧痕あり。	
13	集石遺構	土師器	小皿	8.3	1.6	5.0	内)浅黄橙 外)浅黄橙	精選された胎土。底部系切り。	
14	集石遺構	土師器	小皿	8.2	1.3	(6.0)	内)灰白 外)灰白	細粒砂を多く含む。底部系切り。	
15	集石遺構	土師器	小皿	8.4	1.8	5.1	内)櫻 外)櫻	チャート、長石の細粒を多く含む。底部系切り。	
16	集石遺構	土師器	坏	11.6	3.6	6.2	内)櫻 外)櫻	チャートの細粒を含む。底部系切り。	
17	集石遺構	土師器	坏	12.0	4.0	6.4	内)にぶい橙 外)にぶい橙	赤色風化櫻の細・粗粒砂を含む。底部系切り。	
18	集石遺構	土師器	坏	13.4	4.1	7.0	内)浅黄橙 外)浅黄橙	チャート他の細粒砂を含む。底部系切り。	
19	集石遺構	土師器	坏	13.4	(3.8)	—	内)浅黄橙 外)浅黄橙	精選された胎土。内面ヘラミガキ。外面ヨコナデ。口縁外 面肥厚する。	
20	集石遺構	土師器	坏	15.6	(3.2)	—	内)褐色 外)褐色	細粒砂、雲母を多く含む。	
21	集石遺構	土師器	椀	—	(1.8)	5.6	内)浅黄橙 外)浅黄橙	精選された胎土。断面カマボコ状の貼付高台。	
22	集石遺構	土師器	坏	—	(2.8)	5.4	内)褐色 外)浅黄橙	細粒砂を含む。底部系切り。	
23	集石遺構	土師器	坏	—	(2.2)	6.6	内)灰白 外)灰白	精選された胎土。底部系切り。	
24	集石遺構	土師器	坏	—	(1.9)	8.0	内)浅黄橙 外)浅黄橙	砂粒を少量含む。底部系切り。	外面煤ける。
25	集石遺構	土師器	坏	—	(2.4)	7.2	内)浅黄橙 外)浅黄橙	精選された胎土。底部系切り。	
26	集石遺構	土師器	坏	—	(2.7)	6.2	内)灰白 外)灰白	赤色風化櫻の細・粗粒砂を含む。底部系切り。	
27	集石遺構	土師器	坏	—	(2.2)	6.4	内)灰白 外)灰白	精選された胎土。底部系切り。	
28	集石遺構	土師器	椀	—	(1.1)	6.3	内)灰白 外)灰白	精選された胎土。底部系切り。	
29	集石遺構	土師器	坏	—	(2.7)	6.0	内)褐色 外)灰白	精選された胎土。底部系切り。	
30	集石遺構	土師器	坏	—	(3.0)	8.8	内)にぶい橙 外)にぶい橙	赤色風化櫻の細・粗粒砂を多く含む。底部系切り。	
31	集石遺構	土師器	椀	—	(2.0)	7.1	内)浅黄橙 外)浅黄橙	精選された胎土。底部系切り。	
32	集石遺構	土師器	羽釜	—	(2.7)	—	内)灰白 外)灰白	細粒砂を多く含む。	
33	集石遺構	土師器	甕	—	(4.9)	—	内)褐色 外)灰褐色	チャートの細粒砂を含む。頸部内外ヨコナデ。胴部内面 ヨコハケ。胴部外側タタキ+ナデ。	外面煤ける。
34	集石遺構	土師器	甕	24.4	(4.0)	—	内)浅黄橙 外)浅黄橙	チャートの粗粒砂を含む。口唇面取り。内外面ヨコナデ。	
35	集石遺構	土師器	甕	27.0	(2.4)	—	内)にぶい黄橙 外)黑褐	チャート他の粗粒砂を多く含む。内外面ヨコナデ。	外面黒しく煤 ける。

図版番号	出土地点	層位	種類	器種 器形	法量(cm)		色調	特徴	備考
					口径	高さ			
36	集石遺構	土師器	甕	29.0 (1.9)	-	内) にぶい橙外) にぶい橙	チャート他の粗粒砂を多く含む。内外面ヨコナデ。	内外被熱赤変。	
37	集石遺構	土師器	甕	30.8 (7.2)	-	内) にぶい黄橙外) 灰褐色	チャート他の粗粒砂を含む。口唇面取り。口縁内外ヨコナデ。背面被熱赤変。保ける。	背面被熱赤変。保ける。	
38	集石遺構	須恵器	甕	15.1 5.1	6.6	内) 灰外) 灰	粗粒砂、小難を含む。内外面ヨコナデ、内面に板ナデ(コテア)が認められる。底部糸切り。		
39	集石遺構	須恵器	甕	- (1.5)	4.0	内) 灰外) 灰	精選された胎土。底部糸切り。		
40	集石遺構	須恵器	甕	- (2.6)	7.0	内) 灰外) 灰	細粒砂を含む。円盤状高台。内面丁寧なナデ。底部糸切り。		
41	集石遺構	須恵器	壺	5.2 (1.1)	-	内) 暗灰外) 暗灰	精選された胎土。内外面に自然釉がかかる。		
42	集石遺構	須恵器	壺	- (2.5)	-	内) 暗灰外) 暗灰	やや粗い胎土。内外面に自然釉がかかる。		
43	集石遺構	須恵器	壺	- (3.5)	10.0	内) 灰褐色外) 灰褐色	精選された胎土。内外面自然釉。ヨコナデ。		
44	集石遺構	須恵器	壺	- (6.9)	10.2	内) 灰外) 灰	チャート他の粗粒砂を多く含む。外面自然釉。厚いつくり。		
45	集石遺構	須恵器	甕	23.0 (3.1)	-	内) 灰外) 灰	やや粗い胎土。内外ヨコナデ。		
46	集石遺構	須恵器	甕	- (2.2)	16.0	内) にぶい褐外) にぶい褐	チャートの粗粒砂を含む。内外ナデ。内面は凸凹がみられる。		
47	集石遺構	須恵器	甕	- (3.9)	10.2	内) 灰外) 灰	精選された胎土。内外ヨコナデ。		
48	集石遺構	須恵器	鉢	- (4.5)	11.0	内) 灰外) 灰	チャート他の粗粒砂を含む。内外ヨコナデ。		
49	集石遺構	白磁	碗	11.8 (3.4)	-	内) 灰白 10Y8/1外) 灰白 10Y8/1断) 灰白 10Y7/1	胎土は粗く黒い細粒を含む。釉は空色もしくはオリーブ色がかかった灰白色で白濁である。厚く施釉。在存部では内外面全体に施釉。内面部中位にクロク模或は沈線が1条認められる。口縁部は僅かに外反し瘤部を丸く收めている。体部下位にいくに従って器内は厚くなる。		
50	集石遺構	白磁	碗	- (2.6)	6.3	内) 灰白 5Y7/2外) 灰白 5Y7/2断) 明オリーブ灰 25GY7/1	胎土は細かく黒で薄い細粒を含む。外画面部下位及び高台部にヘラ調整もしくはヘラ溝整の跡のムラかと思われるものがいる。残存部では外面は萬鉢。内面は施釉(黄色みがかった灰白色)。豊富な内面は削り出している。豊付外縁は緩やかに内傾しているが削り出しているのかは不明。	削型	
51	集石遺構	青磁	碗	- (2.5)	-	内) オリーブ灰 10Y5/2外) オリーブ灰 10Y5/2断) 灰白 N7/	胎土は粗く黒の強い灰色である。釉はくすんだ緑色で内外面ともに剥落がある。外画面部下位には施釉されていない。外面上には細かい擗き模様があり露胎部分もある(露胎き→施釉)。内面には模様によるジグザグ文様とヘラによる片彫りが施されている。	同安窯系青磁 碗 I-1b類	
52	集石遺構	青磁	碗	- (2.1)	6.8	内) 明オリーブ灰 25GY7/1外) 明オリーブ灰 25GY7/1断) 灰白 5Y8/1	胎土はやや密で灰白色を呈し黒い細粒を含む。釉は空色味を帯びた乳白色で不透明な状態を内面は全周に外面は高台内側で施釉。釉のかかっていない露胎部分は赤茶色に発色する。足込みに施釉、足込みと体部の境に段がみられる。高台は断面四角形。	類型は不明。	
53	集石遺構	瓦器	甕	12.8 (2.4)	-	内) 灰外) 灰	精選された胎土。内面横方向の暗斜。口縁部外面ヨコナデ。胴部外面上に指痕圧痕が認められる。内面にモミ压痕。電骨構造。組織直立残る。インディカの可能性が高い。		
54	集石遺構	瓦質土器	鍋	23.0 (3.2)	-	内) 灰外) 灰	チャートの粗粒砂を多く含む。口縁内側、口唇は丸く收める。断面三三角形の鶴がく。	外面激しく焼ける。	
55	集石遺構	瓦質土器	鍋脚部	- (4.2)	-	外) 灰白断) 灰	チャートの粗粒砂を多く含む。三足鍋の脚部。径20~25cm。		
56	集石遺構	瓦質土器	鍋脚部	- (6.1)	-	外) 灰断) 灰	チャートの粗粒砂を多く含む。三足鍋の脚部。径20cm。		
57	集石遺構	瓦質土器	鍋脚部	- (6.7)	-	外) 灰断) 灰	チャートの粗粒砂を多く含む。三足鍋の脚部。身との接合部。一部被熱赤変。径25~28cm。	一部被熱赤変。	
58	集石遺構	瓦質土器	鍋脚部	- (8.4)	-	外) 黒断) 黒	細粒砂、雲母を多く含む。三足鍋の脚部。	外表面激しく焼ける。	
60	集石遺構	弥生	鉢	21.0 (6.3)	-	内) 灰外) 灰/灰白	チャートの粗粒砂を多く含む。内外面ナデ。	後期	
65	SE1	土師器	壺	- (1.5)	6.0	内) 浅黃橙断) 淡黃橙	砂粒をほとんど含まない。断面台形状の厚い底部。底部糸切り。	検出面	
66	SE1	土師器	小皿	6.8 2.1	5.0	内) 灰白外) 灰白	チャートの小難。粗粒砂を含む。外盤に平行圧痕が認められる。内底横方向のナデ。底部糸切り。	検出面No3	
67	SE1	土師器	小皿	7.8 1.9	4.3	内) 灰白外) 灰白	細粒砂を優かに含む。体部中位下に段を有する。底部糸切り。	検出面	
68	SE1	土師器	壺	-	2.2	6.9	砂粒を含まない。底部糸切り。	検出面	
69	SE1	瓦器	甕	13.2 (1.7)	-	内) 黒褐色外) 黒褐色	口縁内外面ヨコナデ。外面指痕圧痕。	検出面No8	

図版番号	出土地点	層位	種類	器種 器形	法量(cm)		色調	特徴	備考
					口径	器高			
70	SE1	土師器	环	158 (35)	-	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	細・粗粒砂を含む。口縁部はまっすぐに立ち上げ縦部は僅かに外反させて丸く取める。	検出面	
71	SE1	土師器	环	144 (34)	-	内) 灰白 外) 灰白	細・粗粒砂を含む。口縁部はまっすぐに立ち上げ縦部は僅かに外反させて丸く取める。	検出面	
72	SE1	土師器	环	148 (30)	-	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャートの細粒砂を含む。口縁部はまっすぐに立ち上げ縦部は丸く取める。	検出面	
73	SE1	土師器	环	148 (41)	7.0	内) 灰褐色 外) 灰白	チャートの細粒砂を含む。底部円盤が確認できる。	検出面。口縁内面僅かに剥ける。	
74	SE1	土師器	碗	144 52	7.0	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャートの細・粗粒砂を含む。口縁部はまっすぐに立ち上げ縦部は丸く取れる。底は高台状を呈す。全体的に摩耗が激しい。	検出面	
75	SE1	土師器	碗	145 38	8.0	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	細粒砂を含む。口縁部はまっすぐに立ち上げ縦部は丸く取れる。底部系切り。	検出面No8?	
76	SE1	土師器	碗	148 43	7.2	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャートの細・粗粒砂を含む。底部系切り。	検出面No13	
77	SE1	土師器	碗	142 46	7.0	内) 淡褐 外) 淡褐	チャートの細粒砂を多く含む。底部は円盤状高台を呈す。底部系切り。	検出面No18	
78	SE1	土師器	碗	146 41	6.5	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャートの細粒砂を含む。底部系切り。	検出面No14	
79	SE1	土師器	碗	142 45	7.0	内) 浅黄橙 外) 明褐灰	チャートの細・粗粒砂を含む。内面に右→左方向の弱いケズリ。ロクロ右回り。底部系切り。	検出面No1 内面の一部が剥げ(剥ける)	
80	SE1	土師器	碗	154 40	6.6	内) 浅黄橙 外) 灰白	チャート他の細粒砂を含む。内面右→左方向の弱いケズリ。ロクロ右回り。底部系切り。	検出面No17	
81	SE1	須恵器	鉢	28.0 (4.1)	-	内) 灰 外) 灰	粗粒砂を多く含む。外ヨコナナ。捏ね鉢。龜山。	検出面No5	
83	SE1	土師器	小皿	7.8 13	5.2	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート他の細粒砂を含む。ロクロ左回り。内底横方向のナダ。底部系切り。	2面目No9	
84	SE1	土師器	小皿	7.8 13	5.0	内) 灰白 外) 灰白	精細。内底横方向のナダ。底部系切り。	2面目No5	
85	SE1	土師器	小皿	7.6 16	3.9	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャートの細粒砂を含む。底部系切り。	2面目No18	
86	SE1	土師器	小皿	7.5 15	5.0	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	砂粒はほとんど含まない。内底横方向のナダ。モミ痕0.7×3.5mm。底部系切り。	2面目	
87	SE1	土師器	小皿	6.9 13	5.0	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート他の細粒砂を含む。内底に同心円文がみられる。底部系切り。	2面目No12	
88	SE1	土師器	小皿	7.8 18	4.0	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート・赤色細粒砂を含む。底部系切り。	2面目No10	
89	SE1	土師器	小皿	8.0 16	5.3	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	赤色細粒を多く含む。内底ヨコナナ。底部系切り。	2面目No16	
90	SE1	土師器	小皿	8.0 16	5.1	内) 灰白 外) 灰白	チャートの細粒砂を多く含む。内底横方向のナダ。外面部に平行圧痕が認められる。底部系切り。	2面目No20	
91	SE1	土師器	小皿	7.8 18	4.6	内) 灰白 外) 灰白	細粒砂を僅に含む。内底横方向のナダ。薄手なつくり。外面部に平行圧痕が認められる。底部系切り。	2面目	
92	SE1	土師器	小皿	8.0 18	4.4	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	砂粒を含まない。外面部化粧土施釉。底部系切り。	内	
93	SE1	土師器	碗	140 41	7.0	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャートの細・粗粒砂を含む。ロクロ右回り。内面に右→左方向の弱いケズリ。外面部に平行圧痕が認められる。底部系切り。	2面目No19	
94	SE1	土師器	碗	150 41	8.0	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	細粒砂を含む。口縁部僅かに外反する。底部系切り。	2面目No13	
95	SE1	土師器	碗	152 49	7.0	内) にいの 外) 浅黄橙	チャート・赤色風化層の細・粗粒砂を多く含む。口縁部はまっすぐに立ち上げ、端部は外方へ僅かに屈曲させ丸く取める。円盤状の上に粘土を貼付している。底部系切り。	内。内面僅ける。	
96	SE1	土師器	环	- (0.8)	6.9	内) 黑褐色 外) 黑褐色	赤色風化層の細粒砂を含む。底部系切り。	2面目。内面僅ける。	
97	SE1	土師器	碗	148 38	7.0	内) 灰白 外) 灰白	チャートの粗粒砂を多く含む。内底横方向のナダ。底部系切り。	内	
98	SE1	土師器	碗	150 51	7.0	内) 灰黃褐色 外) 灰白	チャートの細・粗粒砂を含む。円盤状高台を呈す。底部系切り。	内。内面は激しく剥げる。	
99	SE1	瓦器	碗	148 53	6.0	内) 黑 外) 黑	チャートの細粒砂を含む。口縁外間に硝文。断面台形のしっかりした高台。体部外側は斜削頂直頭著。在地產。	内。	
101	SE1	須恵器	壺	21.0 (9.4)	-	内) 灰 外) 灰黃	砂粒を多く含む。内面同心円文状の当て具痕+ナダ。口縁部外ヨコナナ。胴部外斜平行タキ。	2面目No21	
102	SE1	須恵器	壺	- (9.6)	-	内) にいの 外) 灰黃	細粒砂を含む。外面部平行タキ。外面部一部に自然軸がかかる。内面ナダ。	2面目。内表面の一部被熱変色。	
103	SE1	須恵器	壺	- (26.5)	-	内) 灰 外) 灰褐色	チャートの細粒砂を含む。内面ナダ。外面部平行タキ。	2面目No21他	
104	SE1	須恵器	壺	- (7.5)	23.0	内) 灰 外) 灰白	細粒砂を含む。外面部タキ。外面部一部に自然軸がかかる。内面ナダ。	内	
105	SE1	須恵器	壺	- -	(15.0)	内) 黄褐色 外) 帽褐	粗い胎土。外面部平行タキ。内外面自然軸がかかる。焼成中につぶれたもの。	内	

図版番号	出土地点	層位	種類	器種			色調	特徴	備考
				器形	口径	器高			
129	SE1	土師器	壺	15.6	(3.4)	-	(内) にぶい黄 (外) 黒褐色	チャートの細粒砂を含む。外面に目跡が顕著。	縦形
130	SE1	瓦器	楕	-	(5.1)	-	(内) 黑 (外) 灰白	外面に炭素は吸着しない。内面にヘラミガキが認められる。	縦形
131	SK2	土師器	楕	-	(2.5)	7.0	(内) 浅黄褐色 (外) 浅黄褐色	チャートの粗粒砂を多く含む。円盤状高台。	
132	SK3	土師器	壺	12.2	(3.4)	-	(内) にぶい黄褐色 (外) にぶい黄褐色	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
133	SK3	土師器	壺	15.0	(1.2)	-	(内) 灰白 (外) 灰白	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
134	SK7	土師器	小壺	7.5	1.8	4.0	(内) 浅黄褐色 (外) 浅黄褐色	雲母他の細粒砂を含む。底部平行圧痕。	
135	SK7	土師器	壺	13.2	(1.2)	-	(内) にぶい黄褐色 (外) 黒褐色	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
136	SK7	土師器	壺	13.0	(2.6)	-	(内) 灰黃 (外) にぶい黄褐色	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
137	SK7	土師器	壺	14.0	(3.3)	-	(内) にぶい黄褐色 (外) にぶい黄褐色	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
138	SK7	土師器	壺	16.0	(2.1)	-	(内) にぶい黄褐色 (外) にぶい黄褐色	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
139	SK7	土師器	壺	15.0	(2.6)	-	(内) にぶい黄褐色 (外) にぶい黄褐色	精選された胎土。外面に付着物がみられる。	外面焼ける。
140	SK7	土師器	壺	15.8	(2.2)	-	(内) 黒褐色 (外) 灰黃褐色	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
141	SK7	土師器	楕	-	(1.6)	6.0	(内) 浅黄褐色 (外) 浅黄褐色	石英、チャートの細粒砂を多く含む。円盤状高台。	
142	SK7	土師器	壺	-	(1.5)	6.0	(内) 浅黄褐色 (外) 浅黄褐色	チャート他の細粒砂を含む。底部糸切り。	
143	SK7	土師器	楕	-	(2.3)	6.6	(内) 浅黄褐色 (外) 浅黄褐色	石英の細・粗粒砂を多く含む。体部外面ケズリ + ナデ。弱い高台。底部糸切り。	外面焼ける。
144	SK7	土師器	楕	-	(2.6)	6.0	(内) 浅黄褐色 (外) 浅黄褐色	精選された胎土。外面ヨコナデ。内面弱いケズリ + ヘラミガキ。底部糸切り。	
145	SK7	土師器	壺	-	(1.3)	6.0	(内) 黄灰 (外) 黄灰	細・粗粒砂を多く含む。底部糸切り。	
146	SK7	土師器	壺	-	(1.4)	6.0	(内) 灰白 (外) 灰白	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
147	SK7	土師器	壺	-	(1.4)	6.4	(内) 灰白 (外) 灰黃褐色	精選された胎土。底部糸切り。	
148	SK7	土師器	壺	-	(1.5)	6.0	(内) 浅黄褐色 (外) 浅黄褐色	チャート他の細粒砂を多く含む。底部糸切り。	
149	SK7	土師器	壺	-	(1.3)	7.0	(内) 黑褐色 (外) にぶい黄褐色	精選された胎土。底部糸切り。	外面焼ける。
150	SK7	土師器	壺	-	(1.9)	6.4	(内) 浅黄褐色 (外) 浅黄褐色	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
151	SK7	土師器	壺	-	(2.9)	7.0	(内) 浅黄褐色 (外) 浅黄褐色	精選された胎土。外面ヨコナデ。底部糸切り。	
152	SK7	土師器	羽釜	-	(3.2)	-	(内) 黑褐色 (外) にぶい黄褐色	チャートの粗粒砂を多く含む。口縁部下断面三角突帯。内面摩耗が激しい。	
153	SK7	須恵器	甕	22.8	(5.8)	-	(内) にぶい黄褐色 (外) 黑褐色	チャート他の細粒砂を含む。口縁部内外面ヨコナデ。脇部外面平タタキ。	外面焼ける。
154	SK7	土師器	甕	29.0	(4.4)	-	(内) にぶい黄褐色 (外) 黑褐色	チャート他の細・粗粒砂を多く含む。口唇部強いヨコナデ。外面部にくぼむ。口縁部内外面ヨコナデ。	外面部にくぼむ。
155	SK7	土師器	甕	24.0	(1.8)	-	(内) 黒褐色 (外) 黑褐色	チャートの細粒砂を多く含む。口唇部上方につまみだし。	外面部にくぼむ。
156	SK7	土師器	甕	28.2	(3.3)	-	(内) にぶい黄褐色 (外) にぶい黄褐色	チャートの細・粗粒砂を多く含む。口縁部内外面ヨコナデ。口唇部下方につまみ出し強くヨコナデ。	
157	SK7	土師器	甕	32.0	(6.8)	-	(内) にぶい黄褐色 (外) にぶい黄褐色	チャート他の粗粒砂を多く含む。口縁部内外面及び上脇部ヨコナデ。外面部脇部タタキ。	外面部にくぼむ。
158	SK7	須恵器	壺	15.0	(2.4)	-	(内) 黑 (外) 黑	チャート他の細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。	
159	SK7	須恵器	捏ね跡	21.0	(4.5)	-	(内) 黑 (外) 黑	チャートの小窪を少し含む。内外面ヨコナデ。片口捏ね跡。	
160	SK7	須恵器	甕	-	(6.8)	11.0	(内) 黑 (外) 黑	チャート他の細・粗粒砂を含む。外底に砂粒が多く付着する。外面部に擦傷。	
161	SK7	須恵器	甕	-	(7.9)	-	(内) 灰黃褐色 (外) 黑褐色	細粒を含む。外面部平行タタキ。外面上に自然縫。	
162	SK7	瓦器	楕	-	(2.1)	-	(内) 黑 (外) 黑	精選された胎土。外面部指圧痕。内面に暗文がみられる。	
163	SK7	瓦質土器	羽釜	22.0	(5.3)	-	(内) 黑褐色 (外) 黑	チャートの細・粗粒砂を含む。口縁部内外面ヨコナデ。口唇部面をとる。断面カマボコ状の突帯。	外面焼ける。

図版 番号	出土地点 層位	種類	器形 器脚	法量(cm)			色調	特徴	備考
				口径	器高	底径			
164	SK7	瓦質土器	鍋脚	—	(6.6)	—	内) にい黄橙 外) 黄灰褐色	チャート、赤色チャート、他の粗粒砂を多く含む。在地産。	二次的に被熱する。
165	SK7	瓦質土器	鍋脚	—	(11.6)	—	内) 黑灰 外) 黑灰	石英粒を多く含む。	
166	SK7	瓦質土器	鍋脚	—	(10.9)	—	内) 灰白 外) 灰白	チャート、石英粒を多く含む。	
167	SK7	白磁	皿	112	30	5.8	内) 灰白 5Y7/1 外) 灰白 5Y7/1 断) 灰白 N7/	胎土は緻密で黒い細粒を含む。釉は黄色味を帯びた灰白色で白濁し不透明である。釉は全体に厚く施釉されており、高台登付けのみ露胎する。口縁部は外反させ端部は丸く取めている。底部の器内は薄い。	E-2b類と思われる。
168	SK7	白磁	碗	152	(2.8)	—	内) 銀オーブ 5Y6/2 外) 銀オーブ 5Y6/2 断) 灰白 7Y7/1	胎土は粗く黒い細粒が含まれる。里に近い灰白色。釉はオーブ色で透明。残存部では内面全体に外面は口縁と体部上位にのみ施釉。口縁付近には釉の二重がけがされているようである。外面口縁直下に沈線による段がある。口縁は玉縁で三角形に近い。器内は薄い。	V類
169	SK7	白磁	碗	16.6	(3.9)	—	内) 灰白 2.5Y8/1 外) 灰白 2.5Y8/1 断) 灰白 10Y8/1	胎土はやや粗く黒い細粒を含みやや粗い。釉は黄色味を帯びた灰白色で不透明(乳白色)で全体的に薄く施釉されており、所々伝化である。釉は残存部で内外面とともに全体に施釉される。体部の器肉が薄く、口縁部を外反させ丸く取めている。体部外面ロクロ肌か、体部内面の所々に貫入がみられる。気泡も確認できる。	V-3類
181	SK9	土師器	环	148	(2.6)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	粗粒砂を多く含む。内外面ヨコナデ。	
182	SK9	土師器	环	—	(0.9)	4.4	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	粗・粗粒砂を含む。底部糸切り。	
183	SK9	土師器	椀	—	(1.9)	7.4	内) 暗褐色 外) 灰白	精選された胎土。円盤状高台。底部糸切り。	
184	SK9	土師器	环	—	(1.9)	6.4	内) にい黄 外) にい黄	チャート他の細・粗粒砂を含む。	
185	SK9	土師器	环	—	(3.0)	6.6	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート他の細・粗粒砂を含む。底部円盤状糸切り。	
186	SK9	土師器	甕	23.0	(6.9)	—	内) にい黄橙 外) 褐灰	チャートの粗粒砂を含む。外面タタキ痕がみられる。	内外面に僅く、特に外面は僅かに強しく付着。
187	SK12	土師器	环	13.6	5.3	5.8	内) にい黄 外) にい黄	精選された胎土。内外面ヨコナデ。円盤状高台。	
188	SK13	土師器	环	15.0	4.6	6.4	内) にい黄橙 外) にい黄橙	チャートの粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。	
189	SK13	土師器	环	—	(2.4)	6.6	内) にい黄 外) にい黄	チャート他の粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。	
190	SK13	土師器	环	13.8	(1.5)	—	内) にい黄 外) にい黄	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
191	SK13	土師器	环	14.0	(1.2)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
192	SK14	土師器	环	15.0	(7.3)	—	内) 灰白 外) 灰白	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
193	SK16	土師器	小皿	8.0	1.6	5.0	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	精選された胎土。底部糸切り。	
194	SK16	土師器	小皿	9.6	1.6	7.0	内) 灰黄 外) 黄灰	粗粒砂を含む。底部糸切り。	
195	SK16	土師器	小皿	8.1	1.7	5.0	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャートの粗・粗粒砂を含む。底部糸切り。	
196	SK16	土師器	小皿	7.6	2.0	4.6	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	精選された胎土。底部糸切りで平行直痕がみられる。	
197	SK16	土師器	椀	15.8	(3.2)	—	内) 灰白 外) 灰白	粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。	
198	SK16	土師器	椀	15.0	(4.3)	—	内) にい黄橙 外) 浅黄橙	チャートの粗粒砂を少量含む。内外面ナデ。	
199	SK16	土師器	椀	17.0	(2.1)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
200	SK16	土師器	椀	16.8	(4.1)	—	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	精選された胎土。口縁部外面に太い沈縫。外面ヨコナデ。内面丁寧なハラミガキ。	
201	SK16	土師器	环	—	(2.1)	7.3	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート他の細・粗粒砂を含む。底部糸切り。	
202	SK16	土師器	椀	—	(2.1)	6.6	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート他の粗粒砂を含む。底部糸切り+ナデ。高台高3mm。内面扁平な高台貼り付け。高台内面強いナデ。体部外面右→左方向の振痕顔。	
203	SK16	土師器	鉢	—	(1.9)	5.6	内) 浅黄橙 外) 褐灰	チャート、赤色風化層の粗粒砂が多く含まれる。底部糸切り。	
204	SK16	土師器	鉢	—	(2.6)	10.0	内) にい黄 外) にい黄	チャート、赤色風化層の粗粒砂が多く含まれる。底部糸切り。	

図版番号	出土地点	層位	種類	器種	法量(cm)			色調	特徴	備考
					口径	器高	底径			
205	SK16		土師器	壺	14.4	4.1	7.0	(内)褐灰 (外)にぶい黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部系切り。	内面焼ける。
206	SK16		須恵器	鉢	—	(6.0)	14.0	(内)褐灰 (外)灰黃褐色	チャートの細・粗粒砂を多く含む。内面激しく摩耗する。 龜山?涅鉢か埋鉢。	
207	SK16		土師器	小皿	—	(0.6)	4.7	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙	精選された胎土。底部系切り。	
208	SK16		土師器	小皿	8.0	1.7	4.5	(内)淡赤橙 (外)淡赤橙	精選された胎土。摩耗が激しい。	
209	SK16		土師器	小皿	8.2	1.8	5.0	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙	精選された胎土。底部系切り。	
210	SK16		土師器	小皿	8.0	1.5	5.0	(内)灰白 (外)灰白	細粒を含む。底部系切り。	
211	SK16		土師器	小皿	8.0	1.6	5.0	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙	チャートの細粒砂を含む。内面底部横方向のナデ。底部系切りで平行圧痕がみられる。	
212	SK16		土師器	小皿	8.0	1.6	5.7	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙	チャートの細粒砂を含む。内面底部横方向のナデ。底部系切り。	
213	SK16		土師器	壺	14.8	(2.4)	—	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
214	SK16		土師器	壺	14.0	(2.5)	—	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
215	SK16		土師器	壺	14.4	(2.6)	—	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙	細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。	外側焼ける。
216	SK16		土師器	壺	14.4	(3.2)	—	(内)明褐色 (外)にぶい黄橙	チャートの細・粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。	
217	SK16		土師器	壺	15.0	(3.1)	—	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙	チャート、赤色風化繊の細粒砂が多く含まれる。内外面強いヨコナデ。	
218	SK16		土師器	壺	15.6	(3.1)	—	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
219	SK16		土師器	壺	15.8	(2.5)	—	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
220	SK16		土師器	壺	15.4	(2.6)	—	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
221	SK16		土師器	壺	16.8	(3.4)	—	(内)にぶい褐 (外)にぶい黄橙	細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。	
222	SK16		土師器	壺	15.0	(2.0)	—	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
223	SK16		土師器	壺	15.0	(3.2)	—	(内)にぶい黄橙 (外)にぶい黄橙	チャートの細・粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。	
224	SK16		土師器	壺	16.0	(3.9)	—	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙	チャート他の細粒を含む。内外面ヨコナデ。	
225	SK16		土師器	壺	15.6	(3.7)	—	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙	チャートの細粒砂を含む。	
226	SK16		土師器	壺	16.4	(3.6)	—	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
227	SK16		土師器	楕	15.0	5.4	5.8	(内)灰白 (外)灰白	チャート他の細・粗粒砂を含む。口縁部は外反する。円盤状高台。底部系切り。焼成不良。	
228	SK16		土師器	楕	15.0	(3.8)	—	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
229	SK16		土師器	楕	—	(1.0)	—	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙	精選された胎土。内面ミガキ。断面カマボコ状の扁平な貼り付け高台で高さ3mm。	
230	SK16		土師器	壺	—	(3.0)	5.0	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙	精選された胎土。外側ヨコナデ。底部系切り。柱状の高台で、内面のくぼみが大きい。	
231	SK16		土師器	壺	—	(2.7)	7.0	(内)灰白 (外)灰白	精選された胎土。底部系切り。	
232	SK16		土師器	壺	—	(2.5)	6.6	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙	チャート他の粗・細粒砂を含む。底部系切り。	
233	SK16		土師器	壺	—	(2.9)	7.0	(内)灰白 (外)灰白	精選された胎土。内面底部横方向のナデ。底部系切り、平行圧痕残る。	
234	SK16		土師器	楕	—	(2.4)	5.8	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙	細粒砂を含む。円盤状高台。底部は系切り+平行圧痕。	
235	SK16		土師器	楕	—	(1.8)	5.4	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙	チャートの細粒を含む。断面扁平化した貼り付け高台。高台幅は一定せず3~4mm。内外面摩耗が激しい。	
236	SK16		土師器	楕	—	(3.9)	5.0	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙	チャート他の細粒砂を多く含む。内外面ナデ。円盤状高台。底部系切り。	
237	SK16		土師器	甌	25.8	(2.7)	—	(内)暗赤灰 (外)暗赤灰	石英粗粒砂を多く含む。内外面ヨコナデ。	搬入品。
238	SK16		須恵器	短腹甌	—	(2.5)	—	(内)灰黃褐色 (外)にぶい黄橙	チャート、赤色風化繊の砂粒を含む。	
239	SK16		須恵器	短腹甌	10.0	(3.7)	—	(内)灰 (外)灰	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	

図版 番号	出土地点 層位	種類	器種 器形	法量(cm)			色調	特徴	備考
				口径	器高	底径			
240	SK16	須恵器	短腹壺	10.4	(8.1)	-	(内)灰褐色 (外)灰	精選された胎土。内外面ヨコナデ。外面に自然釉。	
241	SK16	須恵器	壺	21.8	(2.5)	-	(内)灰 (外)灰	精選された胎土。内外面ヨコナデ。内面に自然釉。	
242	SK16	須恵器	壺	20.0	(7.4)	-	(内)灰 (外)灰	精選された胎土。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面タタキ。内面の一部にハケ調整がみられる。外面に自然釉。	
243	SK16	須恵器	壺	-	(6.5)	17.0	(内)灰 (外)灰	チャートの粗粒砂を多く含む。内外面ヨコナデ。下脚部、底部剥落。	
244	SK16	須恵器	壺	-	(9.1)	13.6	(内)灰 (外)灰	チャートの細・粗粒砂を含む。外面平行タタキ。内面ナデ。	
245	SK16	須恵器	壺	-	(29.9)	-	(内)灰 (外)灰	チャート他の粗粒砂を含む。外面右下がりの平行タタキ。器壁は厚い。(1.7~3.8cm)	No4
246	SK16	須恵器	壺	-	(7.6)	-	(内)灰 (外)灰	精選された胎土。胴部の器壁が著しく厚く1.0~1.8cm。内外面ヨコナデ。	
247	SK16	瓦器	輪	-	(1.1)	4.7	(内)黒 (外)黒	断面台形状のしっかりした高台。	
248	SK16	瓦器	輪	-	(2.6)	-	(内)黒 (外)黒	内面に暗文がみられる。	
249	SK16	白磁	碗	15.8	(3.7)	-	(内)灰黄25Y7/2 (外)灰黄25Y7/2 断)灰白25Y7/1	胎土はやや粗く黒い細粒が含まれる。釉は灰黄色で外面口縁付近に釉の二重がけがみられる。外面口縁部直下に釉垂れがみられ気泡が日立つ。口縁部は玉縁である。内面に貫入がみられる。	青磁。
250	SK16	白磁	碗	-	(3.4)	-	(内)灰白5Y7/1 (外)灰白5Y7/1 断)灰白25Y8/2	胎土はやや粗く灰色を呈し黒い細粒を含む。釉は灰白色で白濁する。残存部では内外面ともに全面に厚く施釉される。口縁部外面に釉垂れがみられる。体部外面の所々に気泡がみられる。外面に削り込みによる弱い棱線がみられる。口縁部は玉縁である。	
257	SD4	土師器	小皿	8.7	1.7	6.0	(内)橙 (外)橙	精選された胎土。	
258	SD4	土師器	环	-	(2.7)	6.8	(内)橙 (外)橙	赤色風化櫻の粗粒砂を多く含む。底部糸切り。	外面保ける。
259	SD4	土師器	土鍋	-	(3.2)	-	(内)にいむ (外)にいむ	石英、角門石他の粗粒砂を含む。断面三角形の鍋。	
260	SD4	瓦質土器	羽釜	-	(2.7)	-	(内)暗灰 (外)暗灰	チャート他の細・粗粒砂を含む。	
262	SD5	土師器	环	14.6	(3.1)	-	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
263	SD5	土師器	环	-	(2.1)	6.6	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙	チャートの細・粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。	
264	SD5	土師器	环	-	(1.8)	6.6	(内)灰白 (外)灰白	チャート、雲母の粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
265	SD5	須恵器	壺	14.6	(1.4)	-	(内)灰 (外)灰	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
266	SD10	土師器	小皿	7.3	1.6	4.0	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙	精選された胎土。	
267	SD10	土師器	小皿	7.8	1.4	5.0	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
268	SD10	土師器	鉢	23.0	(6.3)	-	(内)灰白 (外)灰白	チャートの粗粒砂を多く含む。内外面強いヨコナデ。	
270	P5	土師器	小皿	8.8	1.5	6.6	(内)橙 (外)淡赤橙	精選された胎土。	
271	P26	土師器	小皿	6.7	1.7	4.4	(内)橙 (外)橙	赤色風化櫻を多く含む。	
272	P26	土師器	小皿	6.4	1.7	4.4	(内)橙 (外)橙	赤色風化櫻を多く含む。	
273	P4	土師器	輪	-	(1.2)	6.4	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙	円盤状高台。底部糸切り。	
274	P26	土師器	輪	-	(1.5)	6.0	(内)橙 (外)橙	細・粗粒砂を少量含む。外底円盤貼付痕がみられる。底部糸切り。	
275	P94	瓦質土器	鉢	-	(4.8)	-	(内)灰白 (外)暗灰	精選された胎土。内外面ヨコナデ。捏ね鉢。	
276	P6	瓦質土器	羽釜	-	(2.4)	-	(内)灰 (外)灰白	チャートの粗粒砂を多く含む。	
277	P379	土師器	环	12.6	4.2	6.8	(内)にいむ (外)浅黄橙	チャート他の粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
278	P382	須恵器	壺	-	(3.6)	10.5	(内)灰 (外)灰	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
279	P1	土師器	环	12.0	(1.9)	-	(内)浅黄橙 (外)浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	

図版番号	出土地点	層位	種類	器種 器形	法量(cm)			色調	特徴	備考
					口径	器高	底径			
280	P2	土師器	环	14.6 (2.3)	-	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙		精選された胎土。内外面ヨコナデ。		
281	P2	土師器	环	15.8 (2.7)	-	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙		精選された胎土。内外面ヨコナデ。		
282	P3	土師器	环	- (1.9)	-	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙		精選された胎土。内外面ヨコナデ。		
284	P8	須恵器	鉢	28.2 (6.1)	-	内) 棕 外) 赤灰橙		チャートの粗粒砂を多く含む。内外面ヨコナデ。片口捏ね跡。	赤変。	
285	P9	土師器	环	10.9 3.7	7.0	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙		精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。		
286	P9	土師器	环	11.4 4.8	7.0	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙		精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。		
287	P9	土師器	小皿	- (1.1)	4.4	内) にぶい橙 外) にぶい橙		赤色風化斑を含む。		
288	P9	土師器	环	- (2.3)	8.6	内) にぶい橙 外) にぶい橙		赤色風化斑を含む。		
289	P56	土師器	环	- (2.0)	4.4	内) 灰褐 外) 開闊		チャートの細粒砂を含む。底部糸切り。		
290	P97	土師器	环	- (1.4)	6.0	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙		精選された胎土。底部糸切り。		
291	P200	土師器	环	16.2 (3.8)	-	内) にぶい橙 外) にぶい橙		精選された胎土。外面ナデ。内面ミガキ。		
292	P200	土師器	环	- (1.6)	6.6	内) 淡赤橙 外) 淡赤橙		精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。		
293	P200	土師器	楕	- (1.6)	7.4	内) にぶい橙 外) にぶい橙		細粒砂を多く含む。内外面ヨコナデ。底部糸切り。		
294	P200	土師器	楕	- (1.6)	7.4	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙		精選された胎土。外面ケツリ+ミガキ。内面ミガキ。断面四角形の扁平な高台。外底糸切り+ナデ。		
295	P213	土師器	环	- (1.5)	7.4	内) にぶい橙 外) にぶい橙		チャートの粗粒砂を含む。底部糸切り。		
296	P213	須恵器	甕	17.0 (3.1)	-	内) 灰 外) 灰		細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。		
297	P221	土師器	小皿	8.8 1.5	6.0	内) 灰褐 外) 灰褐		精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。		
298	P221	土師器	小皿	8.4 1.4	5.0	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙		精選された胎土。底部糸切り。		
299	P232	須恵器	鉢	21.8 (4.5)	-	内) 灰 外) 灰		精選された胎土。内外面ヨコナデ。		
300	P247	土師器	环	14.5 4.4	7.4	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙		チャートの細・粗粒砂を多く含む。底部糸切り。		
301	P247	瓦質土器	羽釜	24.0 (3.2)	-	内) 灰 外) 灰		チャート他の細粒砂を含む。口縁部下断面三角突起貼付。		
302	P276	土師器	环	- (2.1)	6.0	内) 黒褐 外) にぶい橙		精選された胎土。内面灰素付着。内外面ヨコナデ。底部糸切り。		
303	P276	土師器	环	- (2.9)	7.6	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙		細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。		
304	P276	瓦質土器	羽釜	- (2.3)	-	内) 暗灰 外) 暗灰		チャート・雲母の細粒砂を含む。断面三角の大きい突起が溢る。		
305	P308	土師器	楕	- (1.5)	7.0	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙		精選された胎土。底部糸切り。		
306	P332	土師器	环	- (2.3)	5.0	内) 浅黄橙 外) 棕		精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。		
307	P333	土師器	环	- (2.2)	6.0	内) にぶい橙 外) 黒褐		細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	外面部激しく爆ける。	
308	P333	瓦質土器	甕	19.0 (4.3)	-	内) 灰白 外) 灰白		チャートの細・粗粒砂を多く含む。	外面部爆ける。	
309	P380	土師器	小皿	7.6 2.2	5.0	内) にぶい橙 外) にぶい橙		精選された胎土。		
310	P380	土師器	小皿	8.0 1.6	5.0	内) にぶい橙 外) にぶい橙		精選された胎土。底部糸切り。		
311	P500	土師器	环	16.0 (3.4)	-	内) にぶい黄橙 外) 黄褐		精選された胎土。内外面ヨコナデ。	外面部爆ける。	
312	P380	土師器	环	14.0 (3.0)	-	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙		精選された胎土。内外面ヨコナデ。		
313	P500	土師器	环	16.0 (3.6)	-	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙		精選された胎土。内外面ヨコナデ。	外面部爆ける。	
314	P500	土師器	环	- (1.2)	10.0	内) 灰 外) 灰		精選された胎土。底部糸切り。		
315	土取り跡4	須恵器	鉢	26.0 (8.9)	-	内) 灰 外) 灰		粗粒砂を多く含む。外面に自然軸がかかる。口唇部は面をとる。外面右→左方向のケツリ+ヨコナデ。内面ヨコナデ。涅ね跡。		

図版 番号	出土地点 層位	種類	器種 器形	法量(cm)			色調	特徴	備考
				口径	器高	底径			
316	SR2	弥生土器	壺	-	(4.0)	12.0	内) にぶい黄橙 外) 浅黄橙	チャートの粗粒砂を多く含む。	
317	SR2	弥生土器	壺	-	(4.8)	10.6	内) 褐灰 外) 浅黄橙	チャート他の粗粒砂を多く含む。	
318	SR2	弥生土器	壺	-	(6.0)	10.8	内) 褐灰黄 外) 浅黄橙	チャートの粗粒砂を多く含む。	
319	SR2	土師器	环	13.5	4.1	7.5	内) 灰白 外) 灰白	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
320	SR2	土師器	环	-	(2.5)	6.9	内) にぶい橙 外) にぶい橙	粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
321	SR2	土師器	环	13.8	4.2	7.0	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
322	SR2	土師器	环	15.0	(2.4)	-	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャートの細・粗粒砂を多く含む。	
323	SR2	須恵器	壺	-	(7.9)	8.0	内) 褐灰 外) 灰	精選された胎土。内外面ヨコナデ。	
324	SR2	瓦質土器	羽釜	-	(3.3)	-	内) 褐灰 外) 褐灰	精選された胎土。	外面塗ける。
326	包含層	土師器	小皿	6.2	1.7	4.4	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	赤色風化繊を含む。底部糸切り。	
327	包含層	土師器	小皿	5.5	1.5	4.0	内) にぶい橙 外) にぶい橙	赤色風化繊を多く含む。内外面ヨコナデ。底部糸切り。平行圧痕。	
328	包含層	土師器	小皿	7.2	1.4	5.2	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャートの粗粒砂を含む。底部糸切り。	
329	包含層	土師器	小皿	7.4	1.7	4.0	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート・赤色風化繊の細・粗粒砂を含む。底部糸切り。	
330	包含層	土師器	小皿	7.6	2.0	4.0	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート・赤色風化繊の細・粗粒砂を含む。底部糸切り。	
331	包含層	土師器	小皿	7.5	1.2	4.5	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	赤色風化繊の粗粒砂を含む。	
332	包含層	土師器	小皿	7.2	2.1	5.0	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	精選された胎土。底部糸切りで平行圧痕がみられる。	
333	包含層	土師器	小皿	8.4	2.1	5.0	内) 灰白 外) 灰白	精選された胎土。底部糸切りで平行圧痕がみられる。	
334	包含層	土師器	小皿	8.4	1.5	6.0	内) 灰白 外) 灰白	内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
335	包含層	土師器	小皿	7.2	1.3	4.2	内) 浅黄橙 外) にぶい橙	精選された胎土。底部糸切り。	
336	包含層	土師器	小皿	7.4	1.6	5.5	内) にぶい橙 外) にぶい橙	精選された胎土。底部糸切り。	
337	包含層	土師器	小皿	8.4	1.6	4.0	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	精選された胎土。底部糸切り。	
338	包含層	土師器	小皿	7.0	1.6	4.6	内) 灰白 外) 灰白	精選された胎土。底部糸切りで平行圧痕がみられる。	
339	包含層	土師器	小皿	8.0	1.6	5.4	内) 灰白 外) 灰白	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。平行圧痕。	
340	包含層	土師器	小皿	8.2	1.5	4.6	内) 浅黄橙 外) 橙	チャートの粗粒砂を含む。平行圧痕。	
341	包含層	土師器	小皿	8.2	1.7	4.5	内) 灰白 外) 灰白	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
342	包含層	土師器	小皿	7.6	1.7	5.6	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャートの粗粒砂を含む。底部糸切りで平行圧痕がみられる。	
343	包含層	土師器	小皿	7.5	1.5	4.8	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート他の粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部糸切り、平行圧痕。	
344	包含層	土師器	小皿	7.3	1.4	5.4	内) 灰白 外) 灰白	精選された胎土。底部糸切り。	
345	包含層	土師器	小皿	8.0	1.5	5.0	内) 灰白 外) 灰白	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
346	包含層	土師器	小皿	8.3	1.4	5.5	内) 灰白 外) 灰白	細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部糸切り、平行圧痕。	
347	包含層	土師器	小皿	9.4	0.9	7.0	内) 灰白 外) 灰白	精選された胎土。底部糸切り、平行圧痕。	
348	包含層	土師器	环	13.4	3.6	7.2	内) にぶい赤橙 外) にぶい赤橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
349	包含層	土師器	环	14.0	3.7	7.0	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	赤色風化繊の粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	
350	包含層	土師器	环	14.9	4.4	8.2	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート他の細・細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。内面右→左のケズ。底部糸切り。	外面塗ける。
351	包含層	土師器	环	14.2	4.6	6.8	内) 浅黄橙 外) 浅黄橙	チャート他の細・粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部糸切り。	

図版番号	出土地点	層位	種類	器種				色調	特徴	備考
				器形	口径	器高	底径			
352	包含層		土師器	环	13.8	4.0	6.8	内) 浅黃橙 外) 浅黃橙	赤色風化繩の細・粗粒砂を多く含む。内外面ヨコナデ。底部系切り。	
353	包含層		土師器	环	15.6	4.3	7.8	内) 浅黃橙 外) 浅黃橙	チャートの細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部系切り。外底にモミ压痕がみられる。	
354	包含層		土師器	环	13.6	4.7	6.2	内) 浅黃橙 外) 浅黃橙	精選された胎土。内面右→左のケズリ+ヨコナデ。ロクロ右回り。底部系切り。	
355	包含層		土師器	环	—	5.3	7.8	内) にぶい橙 外) にぶい橙	精選された胎土。内面ヨコナデ。底部系切り。	内外面薙ける。
356	包含層		土師器	环	14.3	4.2	6.6	内) 浅黃橙 外) 浅黃橙	チャートの細・粗粒砂を含む。内面右→左のケズリ。ロクロ右回り。底部系切り。	
357	包含層		土師器	环	14.3	4.6	7.0	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャートの細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部系切り。	
358	包含層		土師器	环	14.8	4.6	7.7	内) 灰白 外) 灰白	赤色風化繩の細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部系切りで平行圧痕。	
359	包含層		土師器	环	14.8	4.7	7.0	内) 浅黃橙 外) にぶい橙	チャートの細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部系切り。	
360	包含層		土師器	环	15.0	4.7	7.0	内) 灰白 外) 灰白	チャート、赤色風化繩の細・粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部系切り。	
361	包含層		土師器	輪	14.0	4.8	5.4	内) 浅黃橙 外) 浅黃橙	石英、赤色風化繩を含む。外面回転ナデの痕跡が顯著。内外面丁寧なヨコナデ。丸みを帯びた取り付け高台。	
362	包含層		土師器	輪	15.6	5.7	6.0	内) にぶい褐 外) にぶい褐	精選された胎土。長石、石英を含む。内面右→左方向のケズリ+丁寧なヨコナデ。断面台形の取り付け高台。搬入品。	
363	包含層		土師器	輪	15.2	5.8	6.1	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	チャートを含まない。石英粒を多く含む。口縁部は肥厚する。内面はケズリ+丁寧なヨコナデ。断面長方形のしっかりした高台。底部系切りナデ。ロクロ回転右回り。	
364	包含層		土師器	环	—	(1.6)	6.4	内) にぶい橙 外) にぶい橙	チャートの細・粗粒砂が多く含まれる。	
365	包含層		土師器	环	—	(2.7)	5.4	内) 灰白 外) 灰白	細粒砂を多く含む。	
366	包含層		土師器	环	—	(2.8)	6.0	内) 灰白 外) 灰白	精選された胎土。底部系切りで平行圧痕。	
367	包含層		土師器	环	—	(2.5)	7.4	内) 浅黃橙 外) 浅黃橙	チャートの細粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部系切り。	
368	包含層		土師器	环	—	(1.6)	7.0	内) 棕 外) 棕	チャートの粗粒砂を含む。底部系切り。	
369	包含層		土師器	环	—	(2.8)	7.7	内) 浅黃橙 外) 浅黃橙	チャートの細・粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部系切り。	
370	包含層		土師器	环	(1.8)	—	6.0	内) 浅黃橙 外) 浅黃橙	精選された胎土。円盤状高台。底部系切り。	
371	包含層		土師器	环	—	(2.8)	6.4	内) にぶい橙 外) 浅黃橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部系切り。	
372	包含層		土師器	环	—	(2.0)	6.6	内) 浅黃橙 外) 浅黃橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部系切り。	
373	包含層		土師器	环	—	(1.7)	6.4	内) 灰白 外) 灰白	チャートの細粒砂を含む。底部系切り。	
374	包含層		土師器	环	—	(4.1)	7.0	内) 浅黃橙 外) 浅黃橙	赤色風化繩の細・粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。底部系切り。	
375	包含層		土師器	环	—	(2.3)	5.2	内) 灰白 外) 灰白	乳白色で精緻な胎土。擬口縁部に粘土を継ぎ足して完成か。环の未製品か。	
376	包含層		土師器	环	—	(1.8)	6.3	内) 灰白 外) 灰白	黄灰色で精緻な胎土。底部系切り。	
377	包含層		土師器	环	—	(2.6)	5.3	内) 灰白 外) 灰白	乳白色で精緻な胎土。石英粒を含む。	
378	包含層		土師器	环	—	(3.0)	5.0	内) 灰白 外) 灰白	乳白色で精緻な胎土。底部系切り。	
379	包含層		土師器	輪	—	(2.4)	5.6	内) 浅黃橙 外) 浅黃橙	赤色風化繩を含む。内外面ヨコナデ。	
380	包含層		土師器	輪	—	(1.7)	5.7	内) 浅黃橙 外) 浅黃橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。高台は扁平化する。底部系切り。	
381	包含層		土師器	輪	—	(2.5)	7.2	内) 褐灰 外) にぶい黄橙	雲母、石英粒を多く含む。外面ヘラミガキ。断面台形状のしっかりした高台。搬入品。	
382	包含層		土師器	輪	—	(1.9)	6.0	内) 浅黃橙 外) 浅黃橙	チャートの細粒砂を多く含む。円盤状高台。底部系切り。	
383	包含層		土師器	輪	—	(2.1)	5.6	内) 浅黃橙 外) 浅黃橙	赤色風化繩の細粒砂を含む。底部系切り。	
384	包含層		土師器	輪	—	(2.2)	7.5	内) 浅黃橙 外) 浅黃橙	細粒砂を含む。底部系切り。	
385	包含層		土師器	輪	—	(2.9)	5.5	内) 褐灰 外) 浅黃橙	精選された胎土。内面ヘラミガキ。円盤状高台。	内面薙ける。
386	包含層		土師器	輪	—	3.2	6.6	内) 浅黃橙 外) 浅黃橙	チャートの細粒砂を多く含む。円盤状高台。底部系切り。	

図版番号	出土地点	層位	種類	器種 器形	法量(cm)			色調	特徴	備考
					口径	器高	底径			
387	包含層	土師器	椀	—	(4.4)	6.0	内) 浅黃橙 外) 深黃橙	チャートの粗粒砂を含む。円盤状高台。底部系切り。	内外面削ける。	
388	包含層	土師器	椀	—	(4.3)	6.0	内) 浅黃橙 外) 深黃橙	チャートの粗粒砂を含む。円盤状高台。底部系切り。		
389	包含層	土師器	椀	—	(2.2)	6.4	内) 褐灰 外) 褐灰	精選された胎土。円盤状高台。底部系切り。	内外面削ける。	
390	包含層	土師器	椀	—	(3.1)	5.9	内) 浅黃橙 外) 深黃橙	精選された胎土。内面ヘラミガキ。円盤状高台。底部系切り。		
391	包含層	土師器	椀	—	(1.9)	6.6	内) 浅黃橙 外) 深黃橙	チャートの細・粗粒砂を多く含む。底部系切り。円盤状高台。		
392	包含層	土師器	椀	—	(2.8)	5.6	内) 浅黃橙 外) 深黃橙	精選された胎土。内面ヘラミガキ。円盤状高台。底部系切り。		
393	包含層	土師器	椀	—	(3.4)	6.0	内) 浅黃橙 外) 深黃橙	赤色風化櫻の粗粒砂を多く含む。円盤状高台。底部系切り。		
394	包含層	土師器	椀	—	(3.1)	6.0	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	精選された胎土。底部系切り。		
395	包含層	土師器	椀	—	(4.1)	6.6	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	赤色風化櫻を多く含む。底部系切り。		
396	包含層	土師器	椀	—	(3.2)	5.4	内) 浅赤橙 外) 深赤橙	赤色風化櫻の粗粒砂を含む。		
397	包含層	土師器	甕	25.0	(3.7)	—	内) にぶい褐色 外) にぶい褐色	石英、長石の細・粗粒砂を多く含む。口縁部内外面ヨコナデ。口唇部凹状を呈する。		
398	包含層	土師器	甕	30.6	(6.5)	—	内) にぶい橙 外) 橙	チャート他の粗粒砂を多く含む。口縁部内外面ヨコナデ。		
399	包含層	土師器	甕	36.0	(7.2)	—	内) にぶい橙 外) 橙	石英、長石他の粗粒砂を多く含む。外面赤褐色。口縁部内外面ヨコナデ。口唇部は凹状を呈する。		
400	包含層	須恵器	椀	15.3	6.1	5.5	内) 灰白 外) 灰白	チャートの細・粗粒砂を含む。内外面削り+丁寧なヨコナデ。内面にヘラミガキか。しっかりとした方型高台。底部系切り+ナデ。ロゴ回転右回り。		
401	包含層	須恵器	椀	16.4	(3.7)	—	内) 灰 外) 灰	精選された胎土。外面ケズリ+ヨコナデ。内面ヨコナデ。内外上半部に自然釉がかかる。		
402	包含層	須恵器	椀	—	(1.4)	3.6	内) 灰 外) 灰	精選された胎土。外面ケズリ+ヨコナデ。内面ミガキ。底部系切り。		
403	包含層	須恵器	椀	—	(2.2)	6.0	内) 灰 外) 灰	精選された胎土。内外面ヨコナデ。厚い円盤状高台。底部系切り。		
404	包含層	須恵器	椀	—	(3.2)	6.0	内) にぶい黄橙 外) にぶい黄橙	精選された胎土。黄茶色に発色。外面ヨコナデ。内面ミガキ。火拂がみられる。底部系切り。子口圧痕が残る。		
405	包含層	須恵器	椀	—	(2.2)	6.0	内) 灰 外) 灰	精選された胎土。内外面ヨコナデ。底部系切り。		
406	包含層	須恵器	涅ね鉢	—	(2.4)	—	内) 灰 外) 灰	細・粗粒砂を含む。外面ヨコナデ。束縛系須恵器。		
407	包含層	須恵器	水注 注口部	—	(4.8)	—	内) 褐灰 外) 褐灰	精選された胎土。注口漏部は錆く削いでいる。外面に自然釉。体部接合部から剥離。		
408	包含層	須恵器	壺	8.7	(5.0)	—	内) 灰 外) 灰	精選された胎土。上胴部から内傾する。内外面丁寧なヨコナデ。		
409	包含層	須恵器	壺	—	(5.9)	—	内) 灰 外) 灰	精選された胎土。内外面ヨコナデ。		
410	包含層	須恵器	壺	—	(6.1)	8.0	内) 灰 外) 灰	精選された胎土。外面弱いケズリ+ヨコナデ。内面ナデ。		
411	包含層	須恵器	甕	24.0	(4.4)	—	内) 灰 外) 灰	粗粒砂を少量含む。内外面ヨコナデ。		
412	包含層	須恵器	甕	17.3	(4.9)	—	内) 灰 外) 灰	精選された胎土。内外面ヨコナデ。		
413	包含層	須恵器	甕	18.0	(2.4)	—	内) 灰 外) 灰	精選された胎土。内外面ヨコナデ。内面に自然釉がかかる。		
414	包含層	須恵器	甕	19.6	(3.0)	—	内) 灰 外) 灰	精選された胎土。口唇部鏡く面を見る。内外面ヨコナデ。内外面に自然釉がかかる。		
415	包含層	須恵器	甕	21.0	(5.8)	—	内) 薄赤褐 外) 灰褐	精選された胎土。内外面ヨコナデ。		
416	包含層	須恵器	甕	23.0	(3.6)	—	内) 灰 外) 灰	粗粒砂を多く含む。内面横方向のケズリ+ヨコナデ。外面ヨコナデ。		
417	包含層	須恵器	甕	23.0	(7.5)	—	内) 灰 外) 灰	精選された胎土。内外面ヨコナデ。内面に自然釉がかかる。		
418	包含層	須恵器	甕	26.0	(6.5)	—	内) 灰 外) 灰	精選された胎土。内外面ヨコナデ。胴部外面平行タキキ。		
419	包含層	須恵器	鉢	31.0	(5.2)	—	内) 灰白 外) にぶい赤橙	精選された胎土。内外面ヨコナデ。口唇部は凹状を呈する。胴部外面平行タキキ。外面に自然釉がかかる。		
420	包含層	須恵器	鉢	21.0	(5.4)	—	内) 灰白 外) にぶい赤橙	焼成は堅壁。内外面ヨコナデ。内面は白色化した自然釉が付着する。口縁部は僅かに摘み上げ口唇部は面を見る。捏ね跡。		

図版番号	出土地点	層位	種類	器種	法量(cm)			色調	特徴	備考
					口径	器高	底径			
421	包含層	須恵器	鉢	21.2	(6.4)	-	内)灰白 外)にぶい赤橙	焼成は堅緻。内外面ヨコナデ。内面白色の自然釉がかかる。口唇部は面を取り端部を僅かに拘み上げる。捏ね跡。		
422	包含層	須恵器	鉢	24.0	(5.0)	-	内)灰 外)にぶい赤橙	焼成は堅緻。内外面ヨコナデ。東播系捏ね鉢模倣か。		
423	包含層	須恵器	鉢	(24.4)	(3.3)	-	内)灰 外)灰	粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。口唇部に自然釉がみられる。重ね焼き。		
424	包含層	須恵器	鉢	32.0	(3.7)	-	内)灰 外)灰	精緻。内外面ヨコナデ。口唇部外面上半に重ね焼き痕がみられる。東播系捏ね鉢。		
425	包含層	須恵器	鉢	-	(2.7)	10.4	内)灰 外)灰	粗粒砂を多く含む。内外面ヨコナデ。捏ね鉢。亀山。		
426	包含層	須恵器	鉢	-	(4.7)	11.0	内)灰 外)灰	粗粒砂を含む。内外面ヨコナデ。外面は下地にケズリ。捏ね鉢。亀山。		
427	包含層	須恵器	甕	-	(5.8)	12.2	内)暗黄灰 外)青灰	石英他の繊・粗粒砂を多く含む。外面左→右方向のケズリ。内面ナデ。外底砂粒が多く付着する。		
428	包含層	須恵器	甕	-	(7.1)	12.6	内)灰 外)灰	精選された胎土。外面左→右方向にケズリ。内面ナデ。外底砂粒が多い。		
429	包含層	須恵器	甕	-	(7.5)	12.6	内)灰褐 外)浅黃橙	チャート他の粗粒砂を多く含む。外面ケズリ+ヨコナデ。内面ナデ。外底に砂粒が多く付着する。		
430	包含層	須恵器	甕	-	(8.9)	11.0	内)灰 外)灰	チャート他の粗粒砂を含む。外面左→右方向のケズリ。外面平行タタキ。内面ナデ。底部剥離。		
431	包含層	須恵器	甕	-	(3.5)	18.0	内)灰 外)暗赤褐色	精選された胎土。外面に自然釉がかかる。		
432	包含層	瓦器	小皿	9.0	1.9	-	内)暗灰 外)暗灰	チャート・頁岩の細・粗粒砂を含む。内面ナデ。外面指頭圧痕がみられる。		
433	包含層	瓦器	椀	-	(0.7)	4.6	内)灰 外)灰	精選された胎土。断面三角形の貼り付け高台。		
434	包含層	瓦器	椀	-	(0.7)	6.0	内)灰 外)灰	精選された胎土。しっかりした外方に躍る張る高台。内面ヘラミガキ。		
435	包含層	瓦器	椀	-	(0.9)	5.8	内)黄灰 外)黄灰	精選された胎土。断面三角形の貼り付け高台。		
436	包含層	瓦器	椀	-	(1.6)	5.2	内)黄灰 外)黄灰	チャートの粗粒砂を含む。断面三角形の貼り付け高台。内面にモミ压痕がみられる。		
437	包含層	瓦器	椀	-	(1.2)	6.0	内)暗灰 外)暗灰	チャートの細・粗粒砂を多く含む。断面カマボコ状の高台。		
438	包含層	瓦器	椀	-	(3.3)	-	内)暗灰 外)暗灰	口縁部ヨコナデ。内面ミガキ。外面に指頭圧痕がみられる。		
439	包含層	瓦器	椀	15.2	4.9	5.6	内)暗灰 外)暗灰	精選された胎土。薄いつくり。外面口縁部はヨコナデ。体部内面に横方向のミガキ。内底は一定方向のミガキ。断面丸みを帯びた二角状の高台。		
440	包含層	瓦質土器	羽釜	-	(4.9)	-	内)灰 外)灰	チャートの粗粒砂を多く含む。口唇部は面をとる。断面カマボコ状の脚で、脚の上下口縁部ヨコナデ。胴部外面に指頭圧痕。		
441	包含層	瓦質土器	羽釜	-	(5.2)	-	内)灰 外)暗灰	チャート他の細・粗粒砂を含む。口唇部は丸みを帯びる。断面三角形の脚。器表の荒れが激しい。脚は付け根が削離。三足鍋。	外面焼ける。	
442	包含層	瓦質土器	羽釜	18.0	(5.5)	-	内)オリーブ黒 外)黒	チャートの粗粒砂を多く含む。口唇部は丸みを帯びる。断面三角形の脚。器表の荒れが激しい。脚は付け根が削離。三足鍋。	外面焼ける。	
443	包含層	瓦質土器	羽釜	18.6	(5.0)	-	内)黒 外)黒	チャートの粗粒砂を多く含む。口唇部は面を取る。1.4cm幅の脚で、脚の上下口縁部ヨコナデ。胴部内外面ナデ。	外面焼く。13C	
444	包含層	瓦質土器	羽釜	19.0	(7.0)	-	内)灰黄 外)黒褐	チャートの粗粒砂を多く含む。口唇部は面を取る。1.0cm幅の脚で、脚の上下口縁部ヨコナデ。胴部内外面ナデ。	外面焼く。	
445	包含層	瓦質土器	羽釜	21.2	(6.2)	-	内)灰 外)灰褐	チャート他の粗粒砂を多く含む。口唇部は面を取る。内面ナデ。脚の上下口縁部ヨコナデ。胴部内外面ナデ。	外面焼ける。	
446	包含層	瓦質土器	羽釜	22.0	(4.0)	-	内)灰白 外)暗灰	精選された胎土。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面指頭圧痕。	外面焼ける。	
447	包含層	瓦質土器	羽釜	23.0	(3.5)	-	内)灰白 外)灰	チャート他の粗粒砂を含む。口唇部は丸く収める。内外面ナデ調整。胴部外面に指頭圧痕。		
448	包含層	瓦質土器	鍋	18.5	(3.3)	-	内)灰白 外)灰白	チャートの粗粒砂を含む。口唇部は面を取る。内面ナデ。脚の上下口縁部ヨコナデ。胴部外面指頭圧痕。	外面焼ける。	
449	包含層	瓦質土器	鍋	17.0	(6.8)	-	内)灰 外)灰白	チャートの細・粗粒砂を含む。口唇部は面を取る。内面ナデ。脚の上下口縁部ヨコナデ。胴部外面指頭圧痕。	外面焼ける。	
450	包含層	瓦質土器	鍋	18.0	(5.8)	-	内)灰 外)暗灰	精選された胎土。口縁部内外面ヨコナデ。胴部外面指頭圧痕。	外面焼ける。	
451	包含層	瓦質土器	鍋脚	-	(4.5)	-	内)暗灰 外)黒	チャートの粗粒砂を多く含む。三足鍋の脚の付け根。	外面激しく焼ける。	
452	包含層	瓦質土器	鍋脚	-	(5.5)	-	内)灰 外)暗灰	チャートの細・粗粒砂を多く含む。ナデ。三足鍋。		
453	包含層	瓦質土器	鍋脚	-	(11.8)	-	内)暗灰 外)暗灰	チャートの細・粗粒砂を多く含む。付け根から削離。三足鍋。	外面焼ける。	

図版番号	出土地点	層位	種類	器種 器形	法量(cm)			色調	特徴	備考
					口径	器高	底径			
454	包含層		瓦質土器	鉢	19.6	(4.7)	-	内)灰 外)灰白	細・粗粒砂合む。口唇部は面を取る。外面は右→左方向のケズリナガ。内面ヨコナガ。捏ね跡。	
455	包含層		白磁	壺	9.8	(15)	-	内)灰オリーブ5Y6/2 外)灰オリーブ5Y6/2 断)灰白5Y7/1	胎土は粗く灰っぽい。釉は灰オリーブ色で残存部では内外面全面に比較的薄く施釉されている。口縁部直下には釉溜まりが確認できる。内外面に少し貫入がみられる。壺の口縁部と思われる。	
456	包含層		白磁	壺	-	(19)	-	内)灰白7.5Y7/1 外)灰白7.5Y7/1 断)灰N7/	胎土は密で細い。細粒を僅かに含む。釉は空色味を帯びた灰白色で、残存部では内外面ともに施釉される。残存部下位は外溝しているようである。中位は中溝、上位は外溝。上位は玉縁状の1縁か。内面調整痕と思われる斜めの棱線が2条みられる。	
457	包含層		白磁	皿	10.2	(15)	-	内)灰白7.5Y6/1 外)灰白7.5Y6/1 断)灰白2.5Y7/1	胎土はやや粗く黒い細粒を僅かに含む。釉はオリーブ色がかった灰白色でやや厚めに施釉されている。残存部では内外面ともに全体に施釉される。残存部の下位に貫入がみられる。内面全体上位に外溝しその屈曲部に段を有する。	Ⅳ類もしくはⅤ-1類の皿。
458	包含層		白磁	皿	10.9	(16)	-	内)灰5Y6/1 外)灰5Y6/1 断)灰白5Y7/1	胎土は粗く黒い細粒を少量含む。釉はオリーブ色がかった灰白色で内面屈曲部に厚く施釉される。残存部では内外面ともに全体に施釉される。体部上位で外溝しその屈曲部に段を有する。外側部上位には沈線が2条みられる。口縁端部は丸く取まる。	Ⅳ類もしくはⅤ-1類の皿。
459	包含層		白磁	皿	9.4	(2.1)	-	内)灰白10Y8/1 外)灰白2.5GY8/1 断)灰白7.5Y8/1	胎土は著しく黒い細粒を含む。釉は内面と外面の釉色が異なる。内面はやや白味がかった純白であるが、外面はオリーブがかった胎土の外間に貫入があり、外周部の下位から下は濃胎で、口縁部端部には施釉されない「口禿け」の白磁。と思われる。外面端部は白色に変色しており施釉は定かではないが、体部下位の窓状部が変色しているので外周部端部も濃胎と考えられる。窓部内側には濃胎であるが釉白で断面の色とは異なるので化粧土を施したことと考えられる。口縁部は僅かに外反する。外溝は済らかではなく凹凸がある。	A群の皿と考えられる。
460	包含層		白磁	皿	10.0	(3.2)	-	内)灰白9GY8/1 外)灰白5GY8/1 断)灰白5Y8/1	胎土は密で細い。細粒を含む。釉は空色およびオリーブ色がかった灰白色でやや白潤する。比較的厚めに施釉されており、残存部では内外面ともに施釉されるが口縁部端部のみ露胎「口禿け」の白磁。である。口縁部端部は露胎で断面と釉色が違うため化粧土を施している可能性が考えられる。口縁部は外反しており体部内に外溝している。	A群もしくはⅣ類の皿。
461	包含層		白磁	碗	-	(2.3)	-	内)灰白10Y7/1 外)灰白10Y7/1 断)灰白7.5Y8/1	胎土はやや粗く黒い細粒を含む。口縁部釉の二重かけ。口縁部下位に段をみられる。口縁部は細かい玉縁で、断面からみると折り畳みされた部分が融離している。貫入がみられる。	Ⅳ類
462	包含層		白磁	碗	13.8	(3.4)	-	内)灰白5Y7/2 外)灰白5Y7/2 断)灰白7.5Y8/1	胎土は細かく透明で黒い。残存部では内面全面及び外周部上位から中位にかけてやや厚めに施釉されており、口縁部付近は二重かけがされる。内面全体上位に釉垂れ。口縁部はまだらかなカーブで細長い玉縁である。	Ⅳ類
463	包含層		白磁	碗	14.6	(3.8)	-	内)灰白5Y7/1 外)灰白5Y7/1 断)灰白N7/	胎土はやや粗く黒い細粒が含まれる。釉は体部外面全面に灰黄色味がかった透明の釉を施す。口縁部外面に重ね焼き痕が「ヨウ」所みられる。外周部に小さな気泡がみられる。	Ⅳ類
464	包含層		白磁	碗	15.6	(3.8)	-	内)灰白5Y7/1 外)灰白5Y7/1 断)灰白7.5Y7/1	胎土は比較的粗く黒い細粒が含まれる。釉は黄褐色又はオリーブがかった灰白色でやや厚めに施釉される。残存部では内外面全体に施釉されており口縁には二重かけしていると思われる。外周部にクロク崩がみられ、内面全体上位に釉垂れがみられる。口縁部は玉縁である。	Ⅳ類
465	包含層		白磁	碗	14.6	(3.5)	-	内)灰白5Y7/2 外)灰白5Y7/2 断)灰白5GY8/1	胎土は粗く黒い。細粒を含む。釉は空色味を帯びた灰白色で厚めに施釉される。口縁部外側は二重かけが厚めになっている。残存部では内外面全面に施釉される。口縁部は滑らかな曲線であるが、クロク整形時には角張っていたようである。	Ⅳ類
466	包含層		白磁	碗	14.2	(3.2)	-	内)灰黄2.5Y7/2 外)灰黄2.5Y7/2 断)灰白2.5Y8/2	胎土は著しくクリーム色に近く、黒い細粒が含まれる。釉は灰黄色でやや厚めに施釉され釉が厚い部分に気泡が多くみられる。口縁部は釉の二重かけ。口縁部は丸みのある玉縁である。内面全体上位に釉の垂下がみられる。外周部に貫入がみられるが、内面はやや少ない。	Ⅳ類
467	包含層		白磁	碗	16.4	(5.5)	-	内)灰5Y7/1 外)灰5Y7/1 断)灰N6/	胎土は粗く黒い。細粒が含まれる。口縁部に釉の二重かけが見られ垂下している。口縁部下、体部上位に緩やかな稜線がみられ交差して下方に向かう。口縁部は玉縁である。体部中位から下は露胎する。	Ⅳ類
468	包含層		白磁	碗	16.8	(2.4)	-	内)灰黄2.5Y7/2 外)灰黄2.5Y7/2 断)灰白2.5Y8/2	胎土はやや粗くクリーム色に近く、黒い細粒が含まれる。釉は灰黄色で口縁部下位から体部上位にかけて釉が濃くなっている。釉が濃くなっている部分には気泡がみられる。口縁部は釉の二重かけ。口縁部下には段をもつ。口縁部は玉縁である。外周部に貫入がみられるが、口縁部外面は摩耗のため薄い。	Ⅳ類

図版番号	出土地点	層位	種類	器種 形器	法量(cm)			色調	特徴	備考
					口径	器高	底径			
469	包含層		白磁	碗	15.6	(3.7)	-	内) 灰白 5Y7/2 外) 灰白 5Y7/2 断) 灰白 N7/	胎土は密で黒い細粒を含む。釉はやや黄色味を帯びた透明な釉で厚く施釉する。外面口縁部直ぐ外面に沈線状の段をもつが釉に取り段はほとんどなくなっている。口縁部は玉縁である。	青磁
470	包含層		白磁	碗	15.6	(5.0)	-	内) 灰白 5Y7/2 外) 灰白 5Y7/1 断) 灰白 10Y8/1	胎土はやや密で黒い細粒が含まれる。釉は黄もしくはオリーブ色がかかった灰白色で透明な釉である。口縁部ではより厚くなっている。二重がけしたものと思われる。外面軸部の上に施釉して見られる。外面休部下位からは施釉されておらず露胎する。休部の器内は口縁部から高台に近づいて厚くなる。口縁部の器内は薄い。口縁部は外反させ端部は丸く収める。内面底部下位に沈線を有する。	V-3類か。
471	包含層		白磁	碗	17.0	(3.4)	-	内) にぶい黃橙 10Y7/3 外) にぶい黃橙 10Y7/3 断) 灰白 25Y8/2	胎土は粗く黒い細粒も若干含まれる。釉はにぶい黃橙色で薄く施釉されている。休部には気泡がみられる。残存部では内外面に断面から見ると折り返した部分が融離している。買入と中外面にみられる。	青磁
472	包含層		白磁	碗	18.2	(3.4)	-	内) 灰白 5Y7/2 外) 灰白 5Y7/2 断) 灰白 5Y7/1	胎土は暗くやや黒い細粒を含む。釉は黄色味がかかった灰白色でやや厚く施釉する。口縁部直ぐに段がみられるが、釉で覆われ外見はなだらかである。口縁部外面には釉の二重がけがみられ釉が厚くなっているが内面では明確には認め難い。口縁部内部断面に空隙がみられる。口縁部は玉縁である。胎土は比較的失っている。	青磁
473	包含層		白磁	碗	17.9	(4.3)	-	内) 灰白 5Y7/1 外) 灰白 5Y7/1 断) 灰白 N7/	胎土はやや粗く黒い細粒を含む。釉はオリーブ色および黄色を帯びた灰白色で透明である。残存部では全面にやや厚く施釉されている。休部はやや中空気味で休部上位で外反する。休部下位で器肉が厚くなる。口縁部は外反し端部は丸く収める。	V-2類かV-3類であるが、V-2類の可能性が高い。
474	包含層		白磁	碗	-	(2.0)	6.0	内) にぶい黃橙 10Y7/2 外) にぶい黃橙 10Y7/2 断) 灰白 10Y8/2	胎土はやや粗く黒い細粒を含む。釉はオリーブ色および黄色を帯びた灰白色である。残存部では全面にやや厚く施釉されている。休部がかかるでない。内面見込みはつぶつとしており化粧土をかけているかと思われる。高台は比較的高く、付け高さと高さと思われる。	青磁か。
475	包含層		白磁	碗	-	(2.1)	7.0	内) 灰白 5Y7/2 外) 灰 5Y6/1 断) 灰白 7.5Y8/1	胎土はやや密で黒い細粒が含まれる。釉は黄色味がかった灰白色で内外両面に買入がみられる。外面は高台まで施釉し高台は露胎する。底盤が比較的厚く、ケズり出しはシャープである。内面見込みの釉を輪状に焼き取っており、内底見込み近くには釉をもつ。	青磁
476	包含層		白磁	碗	-	(1.9)	5.8	内) 浅黄 5Y7/3 外) 灰 7.5Y6/1 断) 灰白 N8/	胎土はやや粗く黒い細粒を含む。釉は浅黄色で、内底見込みには買入がみられる。断面の色と釉がけしていない外面との色調が違うので、素地の上に化粧土をかけていると思われる。内底見込みの釉を輪状に焼き取っており、内底見込み近くには沈線がみられる。底部が比較的の厚く、見込み外面には特に沈線がみられる。底盤が比較的の厚く、見込み外面には特に沈線がみられる。ケズり出しは浅いがシャープである。高台と休部との境に段をもつ。休部外面にヘラケツリ痕と思われるものがみられる。	青磁
477	包含層		白磁	碗	-	(2.2)	7.2	内) 灰白 7.5Y8/1 外) 灰白 7.5Y8/1 断) 灰色 5Y7/1	胎土は粗く黒い細粒を含む。釉はオリーブ色がかった灰白色で、内底と外側休部下位まで施釉。残存部では釉は薄く施釉されている。高台は幅広で削り出しは浅いため、底盤の肉も厚い。内面見込みに融着物がみられる。	青磁
478	包含層		白磁	碗	-	(1.8)	3.6	内) 灰白 5Y7/2 外) 灰白 5Y7/2 断) 灰白 5Y8/1	胎土は粗く黒い細粒を含む。釉は黄色味がかった灰白色で、外面は休部より上に施釉されている。底盤が比較的厚く、内底見込み外面にはヘラケツリ痕がみられる。ケズり出しはシャープである。高台と休部の境に段をもつ。休部外面にヘラケツリ痕と思われるものがみられる。内底見込みの釉を輪状に焼き取っている。内底見込み近くに沈線がみられる。	青磁
479	包含層		白磁	碗	-	(2.9)	7.6	内) 灰白 7.5Y8/1 外) 灰白 7.5Y8/1 断) 灰白 5Y8/1	胎土は比較的のく黒い細粒が含まれる。釉はオリーブ色がかった灰白色で残存部では薄く施釉。底盤部下位まで施釉。外面底盤及び高台にヘラケツリ痕とと思われるものが認められる。高台は幅広で削り出しは浅いため底盤の器肉も厚い。内底見込みに沈線の段、融着物がみられる。	青磁
480	包含層		青磁	皿か坏	-	(1.9)	-	内) オリーブ 7.5Y5/2 外) オリーブ 7.5Y5/2 断) 灰白 7.5Y8/1	胎土はやや粗く黒い色を呈す黒い細粒を含む。釉はくすんだオリーブ色の透明釉で、残存部では外表面とともに全面に厚く施釉する。外面休部内に凹字って一段の屈曲部がみられる。口縁部は外反し輪状をしていている。	類型は不明。
481	包含層		青磁	碗	-	(2.4)	-	内) オリーブ 5Y5/2 外) オリーブ 5Y5/2 断) 灰白 5Y8/1	胎土は粗く灰白色である。釉は灰色がかったにぶいオリーブ色の透明釉で、残存部では外表面とともに全面に厚く施釉される。口縁部はまっすぐ立ち上げ内部は丸く収める。外側休部に輪状を施してしている。	龍泉窯系青磁 I-55類。 49と同一個體か。
482	包含層		青磁	碗	-	(3.2)	-	内) オリーブ灰 25Y6/1 外) オリーブ灰 25Y6/1 断) 灰白 7.5Y7/1	胎土はやや粗く灰白色である。釉は青味を帯びた緑色でやや厚く施釉する。内外両口縁部は釉が薄く淡い。口縁部内に2条の沈線がみられる。休部にも2条の沈線がみられる。口縁部の器肉は比較的の薄い。口縁部はごく小さい玉縁である。	龍泉窯系青磁 I-4類

図版番号	出土地点	層位	種類	器種 器形	法量(cm)			色調	特徴	備考
					口径	器高	底径			
483	包含層	青磁	碗	-	(23)	-	内) 灰オーリープ 5Y5/3 外) 灰オーリープ 5Y5/3 断) 灰白 5Y7/1	胎土は密で灰白色である。釉は黄色味がかった緑色の透明で厚く施釉される。外面口縁部と体部の境に段を有する。口縁部はまっすぐに立ち上げ端部は丸く収める。外面体部に鋪進弁文を施す。	龍泉窯系青磁 I-5b類	
484	包含層	青磁	碗	-	(32)	-	内) 灰オーリープ 5Y5/2 外) 灰オーリープ 5Y5/2 断) 灰白 5Y7/1	胎土はやや粗く灰白色である。釉は灰色がかったオーリープ色で透明、厚く施釉されている。内面に少し、外面上に大きい貫入がみられる。内面にヘラによる文様がみられる。口縁部に輪花がみられる。口縁部が若干玉縁になっている。	龍泉窯系青磁 I-45類	
485	包含層	青磁	碗	-	(42)	-	内) 灰オーリープ 5Y5/2 外) 灰オーリープ 5Y5/2 断) 灰白 5Y8/1	胎土はやや粗く灰白色である。釉は灰色がかったオーリープ色で残存部では内外全面に施釉する。口縁部はまっすぐに立ち上げ端部は丸く収める。外面に鋪進弁文を施す。	龍泉窯系青磁 I-5b類と思われるが、IV類の可能性も考えられる。	
486	包含層	青磁	碗	13.2	(3.1)	-	内) 灰オーリープ 5Y6/2 外) 灰オーリープ 5Y6/2 断) 灰白 5Y7/1	胎土はやや粗く灰白色である。釉は青味を帯びた緑色で残存部の口縁部には全面に厚く施釉される。内面には口唇部に2枚のヘラによる片彫りの沈線、体部には飛雲文を施す。	龍泉窯系青磁 I-4類	
487	包含層	青磁	碗	15.0	(27)	-	内) オーリープ黄 外) オーリープ黄 断)	胎土は密で灰色である。釉はオーリープ色がかった灰色で、残存部では内面ともに全面に厚く施釉される。口縁部にかけてはまっすぐに立ち上げ端部は丸く収める。体部外面に鋪進弁文がみられる。	龍泉窯系青磁	
488	包含層	青磁	碗	16.0	(32)	-	内) オーリープ灰 5G16/1 外) オーリープ灰 5G16/1 断) 灰白 N7/	胎土はやや粗く黒色の強い灰白色である。釉は青味を帯びた緑色で残存部では全面にやや厚めに施釉される。口縁部は外面部が直に引き出され、外面部体部に鋪進弁文を施す。	龍泉窯系青磁 I-5b類	
489	包含層	青磁	碗	14.2	(19)	-	内) 灰オーリープ 5Y5/3 外) 灰オーリープ 5Y5/3 断) 灰白 N7/	胎土はやや粗く黒い強い灰白色である。釉はやや黄色味がかった緑色で残存部の口縁部には内外全面に施釉される。外面部上位に細かい縦線目が見られる。口縁部はまっすぐに引き上げ端部は丸く収めている。	同安窯系青磁 I-1b類	
490	包含層	青磁	碗	16.0	(17)	-	内) 灰オーリープ 5Y5/3 外) 灰オーリープ 5Y5/3 断) 灰白 5Y7/1	胎土は密で灰白色である。釉は黄色がかったオーリープ色の透明釉で、残存部では内面とともに全面に厚く施釉される。外面部とも細かい貫入がみられる。口縁部は僅かに外反し、薄く引き出している。外面部体部に鋪進弁文を施している。	龍泉窯系青磁 I-5b類	
491	包含層	青磁	碗	17.4	(3.8)	-	内) 灰オーリープ 5Y6/2 外) 灰オーリープ 5Y6/2 断) 灰白 5Y7/1	胎土は密で灰白色である。釉はくすんだ灰オーリープ色で内面ともに全面に厚く施釉する。所々貫入がみられる。外面口縁部と体部の境に段を有する。口縁部はまっすぐに立ち上げ端部は丸く収める。外面に鋪進弁文を施す。	龍泉窯系青磁 I-5b類	
492	包含層	青磁	碗	15.0	(26)	-	内) 灰オーリープ 5Y5/2 外) 灰オーリープ 5Y5/2 断) 灰白 5Y8/1	胎土はやや粗く灰白色である。釉はくすんだオーリープ色で残存部の口縁部には内外全面に厚く施釉する。内面口縁部には2枚の沈線がみられる。一部4部になる部分もみられる。体部には飛雲文を施している。外面部は無文である。口縁部は内面が少しだけ外反する。	龍泉窯系青磁 I-4類	
493	包含層	青磁	碗	17.0	(25)	-	内) 灰 10Y6/1 外) 灰 10Y6/1 断) 灰白 5Y8/1	胎土は密で灰白色である。釉は青味を帯びた緑灰色で、残存部では内外全面にやや厚めに施釉されている。口縁部には2枚の沈線がみられる。口縁部はまっすぐに立ち上げ端部は丸く収める。	龍泉窯系青磁 I-4類少	
494	包含層	青磁	碗	16.6	(40)	-	内) 灰オーリープ 5Y6/2 外) 灰オーリープ 5Y6/2 断) 灰白 2S5Y7/1	胎土は密で灰白色である。釉はくすんだ灰オーリープ色で内面口縁部の釉が少し濃くなっている。外面部は無文で内面に運び文の跡を有する。内面体部上位に1条の沈線を有する。体部には内湧気味に立ち上がり、口縁部は丸く収める。内面ともに無文。	龍泉窯系青磁 I-2類	
495	包含層	青磁	碗	15.0	(3.8)	-	内) 明緑灰 7.5GY7/1 外) 明緑灰 7.5GY7/1 断) 灰白 5Y7/1	胎土はやや粗く灰白色である。釉は黄色がかった明緑灰色で透明で透明白で厚く施釉される。残存部では内外面に施釉する。体部には内湧気味に立ち上がり、口縁部は丸く収める。内面ともに無文。	龍泉窯系青磁 I-1類	
496	包含層	青磁	碗	17.4	(2.0)	-	内) 灰オーリープ 5Y5/3 外) 灰オーリープ 5Y5/3 断) 灰白 5Y7/1	胎土は精緻で灰白色である。釉は黄色がかったオーリープ色の透明釉で、内外面ともに全面に施釉する。口縁部と体部との境に段を有する。体部外面に鋪進弁文を施す。	龍泉窯系青磁 I-5b類	
497	包含層	青磁	碗	15.2	(4.9)	-	内) 灰オーリープ 5Y5/3 外) 灰オーリープ 5Y5/3 断) 灰白 N7/	胎土は密で白に近い灰色を呈し黒い細粒を含む。釉は空色味の強い緑灰色で、残存部では内外面ともに全面に厚く施釉される。高台とその内部は露胎に赤く発色している。体部は内焼成で口縁部までなだらかに立ち上がり、端部は丸く収める。内部の器肉は厚く、高台の断面は四角形である。外面部ともに無文。	龍泉窯系青磁 I-1類似と思われるが、釉が青味を帯びた緑ではなく、越州窯系青磁I類の特徴である貴色を呈する。	
498	包含層	青磁	碗	17.0	(6.5)	-	内) 明緑灰 7.5GY7/1 外) 明緑灰 7.5GY7/1 断) 灰白 5Y7/1	胎土は密で白に近い灰色を呈する。釉は空色味の強い緑灰色で、残存部では内外面ともに全面に厚く施釉され、高台とその内部は露胎に赤く発色している。体部は内焼成で口縁部までなだらかに立ち上がり、端部は丸く収める。内部の器肉は厚く、高台の断面は四角形である。外面部ともに無文。	類型は不明。	

図版番号	出土地点	層位	種類	器種 器形	法量(cm)			色調	特徴	備考
					口径	器高	底径			
499	包含層	青磁	碗	—	(5.2)	6.4	—	内) 黄オーリーブ 5Y7/1 外) 黄オーリーブ 5Y7/1 断) 灰白 5Y7/1	胎土はやや薄で灰白色である。釉は黄色味がかったオーリーブ色で内面と全面に施釉。外表面は基本的に高台では露胎。一部高台内部まで釉がつき、一部高台下位まで露胎する。内外面ともに買入がみられる。内面底部にヘラによる片刷りの文様がみられるが、飛雲文か草花文かは残存部分が少なく判断できないが草花文に近いようである。高台は断面四角形で底部の内唇には厚い。	龍泉窯系青磁 I-1~4類のいずれかである。
500	包含層	青磁	碗	—	(6.6)	—	—	内) 灰オーリーブ 5Y5/3 外) 灰オーリーブ 5Y5/3 断) 灰白 5Y7/1	胎土は薄で灰白色である。釉は黄色がかったオーリーブ色で透明釉で、残存部では内外面ともに全面に厚く施釉される。内外面とも細かい買入がみられる。底部は内湾しながら立ち上がり縁部がわずかに反る。口縁は薄く引き出している。外面部に偏連弁文を施している。	龍泉窯系青磁 I-5b類
501	包含層	青磁	碗	—	(3.5)	—	—	内) オーリーブ黄 5Y6/3 外) オーリーブ黄 5Y6/3 断) 灰白 5Y7/1	胎土はやや薄で灰白色である。釉は同安窯特有の黄色味の強い胎色ガラス質である。残存部の体部中上位は全面に施釉される。体部は若干内側に屈曲。内面下位に2枚の沈織がみられる。外面に細かい擦目がみられる。残存部上位で擦目が切れている。	同安窯系青磁 I-1類
502	包含層	青磁	碗	—	(2.2)	6.4	—	内) 明オーリーブ灰 5GY7/1 外) 明オーリーブ灰 5GY7/1 断) 灰白 N8/1	胎土は薄で灰白色を呈し黒い細粒を含む。釉は明るいオーリーブ色が白濁した乳白色でやや厚く施釉される。高台内部と高台登付側の釉削り部分に砂目跡が残る。高台は断面四角形にになっている。内面見込みにカットハバ文様がみられる。	類型は不明。
503	包含層	青磁	碗	—	(1.7)	4.8	—	内) 灰オーリーブ 5Y5/4 外) 灰白 5Y7/1 断) 灰白 5Y7/1	胎土は精緻で白色である。釉は黄色味の強い緑色で胎色ガラス質である。内面と外面の一部施釉されるが、高台部にはほとんど施釉されておらず体部の釉が重下したものと考えられる。内面見込みの高くなつた部分は釉が充てている。見込みには施釉されない。内面見込みと体部との境に段を有する。高台は台形状の厚い高台で体部との境に段を有する。底部の器内に生鉄粉の厚い。	同安窯系青磁 碗 I-1類
504	包含層	青磁	碗	—	(1.9)	6.2	—	内) 灰オーリーブ 75Y6/2 外) 灰オーリーブ 75Y6/2 断) 灰白 N8/1	胎土はやや粗く灰白色である。釉はすんだオーリーブ色の透明釉で、残存部では内面全体と外表面は体部のみ薄く施釉する。見込みと体部の境に沈織の段がみられる。底部の器内に生鉄粉の厚い。	類型は不明。
505	包含層	青磁	碗	—	(3.2)	4.9	—	内) 明緑灰 75GY7/1 外) 明緑灰 75GY7/1 断) 灰白 N8/	胎土は精良で潔白、白に近い灰白色である。釉は青味を帯びた緑色で透明である。内面に全て、外表面は高台までに施釉がみられる。一部高台に垂下がみられるが放意についたものではないだろう。高台が厚く、高台の脚部分と足部分との境に段を有する。内面見込みに薄いが施釉されている。内面底部にも施釉がみられる。外表面は無文。見込みと体部との境に段を有するが、釉より表面はならだらかである。体部はまだらかに内湾気味に立ち上がる。高台内部に一部砂のうらぎのものが付着する。所々赤茶色に変色する。	龍泉窯系青磁 II-2類
506	包含層	青磁	皿	—	(0.8)	6.2	—	内) 灰オーリーブ 75Y6/2 外) 灰白 5Y7/1 断) 灰白 5Y8/1	胎土は粗く灰白色である。釉は特有の胎色とは少し異なり、少しそうすんだオーリーブ色である。底部は露胎である。外表面露胎と断面の色が違う。高台内側部は内側に屈曲。見込みには粗造によるジグザグ文様を有する。	同安窯系青磁 皿 I-2類
507	包含層	青磁	皿	—	(0.9)	5.0	—	内) オーリーブ 5Y5/4 外) 灰白 5Y7/1 断) 灰白 5Y7/1	胎土は粗く灰白色である。釉は同安窯特有のやや黄色味の強い胎色ガラス質で少し厚めに施釉する。外表面下部と底部には施釉されない。体部下位が屈曲しているが釉より表面はならだらかである。見込みにヒラによる片刷りと擦によるジグザグ文様がある。	同安窯系青磁 皿 I-1b類
508	包含層	青磁	皿	—	(0.8)	2.8	—	内) 明オーリーブ灰 25GY7/1 外) 灰白 5Y7/1 断) 灰白 N7/	胎土は精良で潔白である。断面と外表面露胎部分の色調が異なる。しかし同安窯系青磁には化粧土がないため汚れの可能性も考えられる。釉は特有の胎色とは少し異なり少しそうすんだオーリーブ色である。底部は露胎である。底部外表面位に釉が充てている所がある。外表面部に下位が屈曲している。見込みにはヘルによる片刷りと擦によるジグザグ文様を有する。	同安窯系青磁 皿 I-2類
509	包含層	染付青花	碗	—	(2.3)	—	—	内) 灰白 5Y8/2 外) 灰白 5Y8/2 断) 灰白 25YR8/2	胎土は比較的密でクリーム色である。釉は内外面ともに全面に施釉する。内外面に染付けの文様がみられる。細かい買入がみられる。	
510	包含層	染付青花	碗	—	(1.2)	3.8	—	内) 明オーリーブ灰 25GY7/1 外) 明オーリーブ灰 25GY7/1 断) 灰白 10YR8/2	胎土は粗く灰白色である。釉は空色味がかった乳緑色で白濁している。残存部では内外面全面に施釉する。見込みと外表面部には文様が描かれる。底部には砂が溶着している。蓋底部の盤である。	染付青花群
511	包含層	瀬戸	皿	—	(1.7)	—	—	内) 灰オーリーブ 5Y5/3 外) 灰オーリーブ 5Y5/3 断) 灰白 25YR8/2	胎土は粗く灰白色である。風化が激しく釉も充てている所が多い。残存部では釉は濃いオーリーブ色でザザラになっていて。折り線の口縁である。瀬戸の菊花皿である。	
512	包含層	瀬戸	深皿	—	28.8	(3.8)	—	内) 淡黄 25YR8/3 外) 淡黄 25YR8/3 断) 灰白 25YR8/2	胎土は薄でクリーム色に近い。釉はくすい黄色の透明で、残存部では内外面ともに全面にごく薄く施釉される。口縁部内面に段を有する。古瀬戸の深皿。	
513	包含層	備前?	摺り鉢	—	(4.5)	—	—	内) 灰褐 外) 褐灰	精選された胎土。内外面ヨコナデ。内面に9条の柔線がみられる。須彌のような焼成。	
514	包含層	備前?	摺り鉢	31.0	(9.9)	—	—	内) 褐灰 外) 褐灰	精選された胎土。内外面ヨコナデ。内面に7条の柔線がみられる。	Ⅱ~Ⅲ期